

# 令和3年度 ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

## 試掘調査

- 磯合古墳群（第5次）
  - 市毛遺跡（第2・3・4次）
- 三反田蜷塚遺跡（第7次）
  - 赤坂遺跡（第4次）
- 市毛上坪遺跡（第33・36次）
  - 堀口遺跡（第36・37・38次）
- 市毛下坪遺跡（第21・22次）
  - 勝倉古墳群（第3次）・勝倉富士山遺跡（第3次）
- 市毛本郷坪遺跡（第10次）
  - 平井遺跡（第8次）
  - 本郷東遺跡（第7次）
- 勝倉若宮遺跡（第6次）
  - 大成町遺跡（第1次）・殿塚古墳群（第5次）
- 上馬場遺跡（第7次）
- 西中根遺跡（第6次）
  - 市毛遺跡（第5次）・市毛上坪遺跡（第35次）
- 部田野路Ⅰ遺跡（第1次）
  - 大平C遺跡（第7・8次）・殿塚古墳群（第6・7次）
  - 地藏根遺跡（第5・6次）・勝倉台館跡（第2次）
  - 大房地遺跡（第18次）
  - 三反田遺跡（第9次）・三反田古墳群（第6次）
  - 磯崎東遺跡（第1次）
- 高野富士山遺跡（第15・16・17次）
  - 飯塚前遺跡（第4次）

## 本調査

- 市毛上坪遺跡（第34次）
  - 本郷東遺跡（第8次）
  - 大平C遺跡（第9次）・殿塚古墳群（第8次）
- 市毛本郷坪遺跡（第11次）
  - 大房地遺跡（第19次）

2022



1 大平C遺跡第9次調査区第1号住居跡竈付近遺物出土状況



2 本郷東遺跡第8次調査区第1号住居跡および出土須恵器杯



## 序 文

ひたちなか市は関東平野の北端部にあたり、茨城県の中央部からやや北東に位置し、那珂川河口部左岸の人口約16万人の街で、県都水戸市に隣接しています。標高30m前後の起伏の少ない平坦な台地で、台地を浸蝕して那珂川やその支流の中丸川等の小河川が流れています。これらの河川の流域や台地上には、肥沃な田畑や宅地などが広がっています。

当市の東側は太平洋に面して約13kmの海岸線が続き、那珂川などの河川流域の台地上は、原始・古代から人々の生活の場として栄え、三百数十箇所の集落跡・古墳・城館跡などの遺跡が確認されています。

なかでも古墳時代の埴輪づくりの工場とされる馬渡埴輪製作遺跡、装飾壁画で知られる虎塚古墳はいずれも国の史跡指定を受け、市を代表する遺跡として多くの市民に知られております。

このように、ひたちなか市は全国に誇れる文化遺産に恵まれる一方、毎年住宅等の開発行為が活発に行われており、やむを得ぬ理由で失われていく遺跡の記録保存を図るため、事前に確認調査等を実施しております。

今年度も、公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社に委託し、市内の埋蔵文化財包蔵地内において調査を実施いたしました。本書はこれらの確認調査等の記録をまとめたものであり、それぞれの調査は小規模なものではありますが、毎年の調査の積み重ねにより、多くの成果を得ることができました。

最後になりますが、快く調査のご承諾をいただきました地権者様や、調査に参加されました皆様に感謝申し上げますとともに、調査や本書の作成にご指導、ご協力を頂きました関係各位の皆様にも心から感謝申し上げます。

令和4年3月

ひたちなか市教育委員会  
教育長 野 沢 恵 子

# 例 言

- 1 本書は、令和3年度国費補助事業として、ひたちなか市教育委員会の委託を受けて、公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社が実施したひたちなか市内の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本書は、令和3年1月から12月にかけて実施された発掘調査についての報告であり、磯合古墳群、市毛遺跡、三反田蛭塚遺跡、赤坂遺跡、市毛上坪遺跡、堀口遺跡、市毛下坪遺跡、勝倉古墳群、勝倉富士山遺跡、市毛本郷坪遺跡、平井遺跡、本郷東遺跡、勝倉若宮遺跡、大成町遺跡、殿塚古墳群、上馬場遺跡、西中根遺跡、部田野路I遺跡、大平C遺跡、地蔵根遺跡、勝倉台館跡、大房地遺跡、三反田遺跡、三反田古墳群、磯崎東遺跡、高野富士山遺跡、飯塚前遺跡の計27遺跡について、34件の試掘・確認調査を実施し、市毛上坪遺跡、本郷東遺跡、大平C遺跡、殿塚古墳群、市毛本郷坪遺跡、大房地遺跡の計6遺跡について、5件の本調査を実施した。調査期間等は2～3頁一覧表のとおりである。
- 3 発掘調査および整理報告は、ひたちなか市教育委員会総務課文化財室の指導のもとに、公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社の文化課文化財調査事務所が実施したものであり、組織は次のとおりである。

理 事 長	渡邊 政美	
副 理 事 長 兼 常 務 理 事	須藤 雅由	
理 事	雨澤 正 山形 由美子 榎田 眞 綱川 正 大和田 健 米川 央洋 湯浅 博人 海埜 敏之	
監 事	北原 祐二 安 智範	
文 化 課 文 化 財 調 査 事 務 所	課 長	大川 英樹
	所 長	佐々木 義則
	課 長 補 佐	稲田 健一
	主 事	田中 美零
	嘱 託	齋藤和佳子 西野 陽子

- 4 発掘調査の従事者は次の通りである。  
調査員：田中美零、佐々木義則、稲田健一  
調査補助員：青木千歌子、海老原四郎、荻優樹、小貫栄子、海後晴美、中嶋順子、廣水一真、矢野徳也、山田梨央、渡辺恵子
- 5 整理作業及び本書の作成に従事したものは、次の通りである。  
青木千歌子、稲田健一、小貫栄子、桐嶋美子、齋藤和佳子、佐々木義則、佐藤富美江、鈴鹿八重子、鈴木佳奈、田中美零、西野陽子、矢野徳也
- 6 本書は、佐々木義則が編集した。
- 7 本書の執筆と分担は以下のとおりである。  
田中美零（弥生時代以前の遺物）、稲田健一（古墳時代の遺物）、矢野徳也（岩石同定）、佐々木義則（左記以外）
- 8 弥生時代以前の資料は常陸大宮市教育委員会の鈴木素行氏に、陶磁器類は水戸市教育委員会関口慶久氏にご指導いただいた。
- 9 遺構の略号の意味は次の通りである。 SK：土坑、P：ピット、SD：溝跡、K：攪乱、T：トレンチ
- 10 発掘調査の出土資料は、ひたちなか市埋蔵文化財調査センターで一括保管している。
- 11 本書の作成にあたっては、次の方々に御協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である。（50音順・敬称略）  
雨澤隆雄 雨澤とのゑ 薄井幸一郎 薄井利保 海野涼介 大内いわ 大内博 大場一磨 岡崎拓也 小國英智 加藤泰子（株）アーネストワン（株）ウィンテック（株）ノーブルホーム（株）白土プリント配線製作所 川崎さち子 川崎純徳 川又啓明 川又文江 菊池敬子 菊池眞理子 菊池理沙 土屋美穂 黒沢彰 黒澤和義 軍司康 小田部紀子 後藤光洋 小林市藏 小舩健 齊藤和吉 坂入卓 佐藤賢太 菅原誠 セイウン開発（株）大和ハウス工業（株）高野久男 武石悟 田尻直樹 照山陽道 富澤賢史 豊田真士 一建設（株）伴苗孝勇 平塚滉大 藤咲善一 藤咲俊光 ポボルニーアントニーン 宮田佳織 宮田利之 安諒 柳橋秋盛 柳橋裕次（有）大藤興産（有）カシマ不動産（有）水戸不動産 米川直樹
- 12 事務局は、ひたちなか市教育委員会総務課文化財室内に置き、組織は次のとおりである。

総 務 課 文 化 財 室	課 長	一木 宙
	文 化 財 室 長	宮下 直大
	主 事	森田 徹 照沼 沙保里

# 目次

I	概要	1	(1) 第6次調査報告	28
			15 部田野路Ⅰ遺跡	29
			(1) 第1次調査報告	29
			16 地蔵根遺跡・勝倉台館跡	30
			(1) 地蔵根遺跡第5次・勝倉台館跡第2次調査報告	30
			(2) 地蔵根遺跡第6次調査報告	31
			17 大房地遺跡	32
			(1) 第18次調査報告	32
			18 三反田遺跡・三反田古墳群	33
			(1) 三反田遺跡第9次・三反田古墳群第6次調査報告	33
			19 磯崎東遺跡	34
			(1) 第1次調査報告	34
			20 高野富士山遺跡	37
			(1) 第15・16・17次調査報告	37
			21 飯塚前遺跡	39
			(1) 第4次調査報告	39
III	本調査報告	40		
	1 市毛上坪遺跡第34次調査報告	40		
	(1) 調査の経過	40	(2) 住居跡	40
	(3) 調査区出土遺物	45		
	2 本郷東遺跡第8次調査報告	47		
	(1) 調査の経過	47	(2) 住居跡	47
	(3) 調査区出土遺物	49		
	3 大平C遺跡第9次・殿塚古墳群第8次調査報告	50		
	(1) 調査の経過	50	(2) 住居跡	50
	(3) 調査区出土遺物	55	(4) 調査地点の地質学的特性	55
	4 市毛本郷坪遺跡第11次調査報告	56		
	(1) 調査の経過	56	(2) 住居跡	56
	(3) 溝跡	58		
	(4) 土坑	59	(5) 調査区出土遺物	59
	5 大房地遺跡第19次調査報告	60		
	(1) 調査の経過	60	(2) 住居跡	61
	(3) 溝跡	61		
	(4) 土坑	62	(5) 調査区出土遺物	63
	(6) 大房地遺跡採集資料	63		
			写真図版	
			報告書抄録	
	13 上馬場遺跡	28		
	(1) 第7次調査報告	28		
	14 西中根遺跡	28		
II	試掘調査報告	4		
	1 磯合古墳群	4		
	(1) 第5次調査報告	4		
	(2) 第6次調査出土遺物について(参考資料)	4		
	2 市毛遺跡・市毛上坪遺跡	7		
	(1) 市毛遺跡第2・3・4次調査報告	7		
	(2) 市毛上坪遺跡第33次調査報告	10		
	(3) 市毛遺跡第5次・市毛上坪遺跡第35次調査報告	11		
	(4) 市毛上坪遺跡第36次調査報告	11		
	3 三反田蜷塚遺跡	13		
	(1) 第7次調査報告	13		
	4 赤坂遺跡	13		
	(1) 第4次調査報告	13		
	5 堀口遺跡	14		
	(1) 第36・37次調査報告	14	(2) 第38次調査報告	17
	6 市毛下坪遺跡	19		
	(1) 第21次調査報告	19	(2) 第22次調査報告	20
	7 勝倉古墳群・勝倉富士山遺跡	21		
	(1) 勝倉古墳群第3次・勝倉富士山遺跡第3次調査報告	21		
	8 市毛本郷坪遺跡	22		
	(1) 第10次調査報告	22		
	9 平井遺跡	23		
	(1) 第8次調査報告	23		
	10 本郷東遺跡	23		
	(1) 第7次調査報告	23		
	11 勝倉若宮遺跡	24		
	(1) 第6次調査報告	24		
	12 大成町遺跡・殿塚古墳群・大平C遺跡	25		
	(1) 大成町遺跡第1次・殿塚古墳群第5次調査報告	25		
	(2) 大平C遺跡第7次・殿塚古墳群第6次調査報告	26		
	(3) 大平C遺跡第8次・殿塚古墳群第7次調査報告	26		



# I 概要

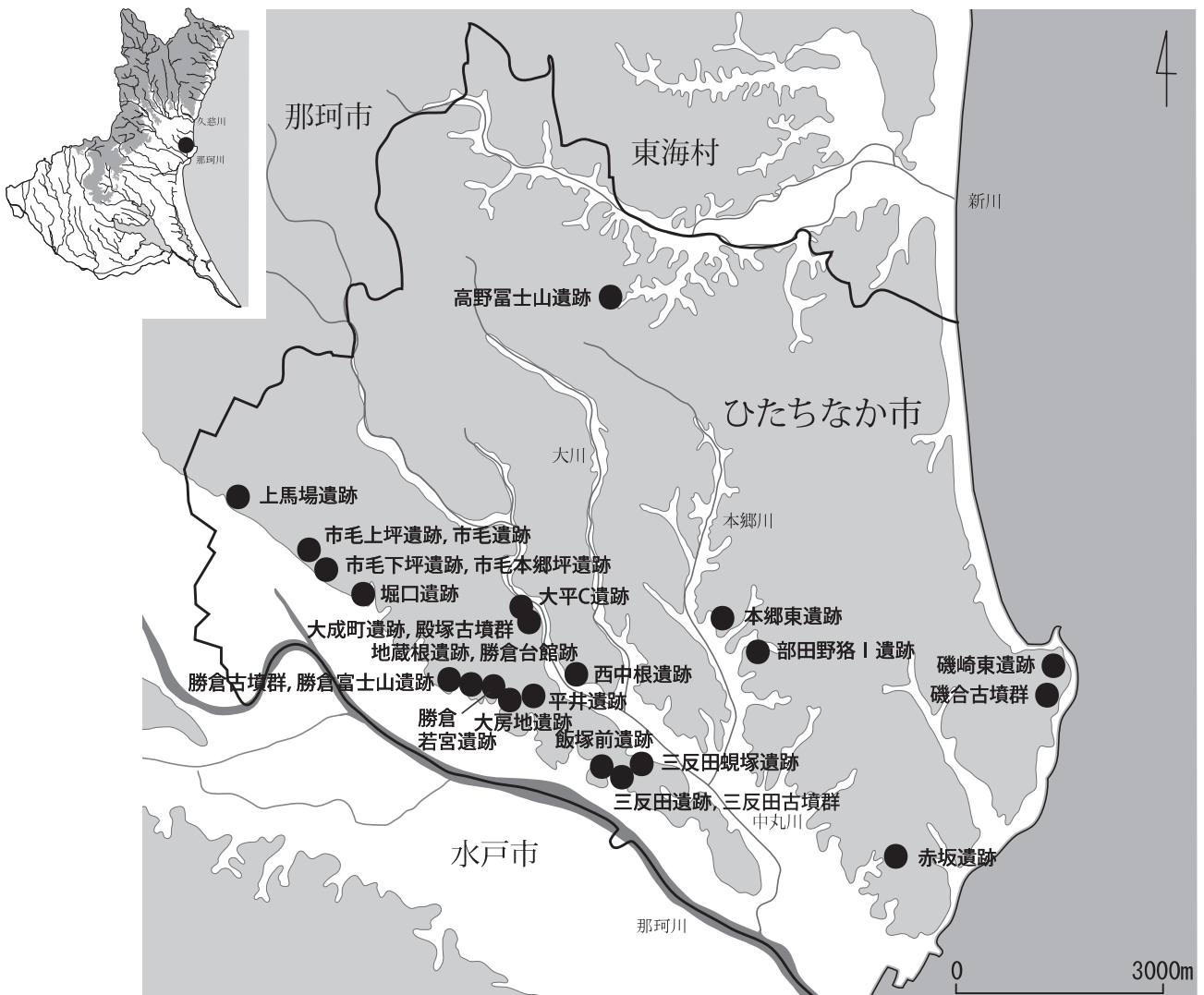
ひたちなか市は、茨城県の中央部に位置し、面積99.96 km<sup>2</sup>、人口約16万人を擁する地方中心都市である。市域南側を東流する那珂川は栃木県那須岳に源を発し、茨城県のほぼ中央部を東西に横断し太平洋へと注ぐ全長150kmの河川であり、古くから流域の文化形成に大きな役割を果たしてきた。本市は、この那珂川河口左岸域に位置する。市域は那珂川の支流である中丸川・大川・本郷川により開析され、小支谷が発達する。市域の北側を東流する新川付近の低地は、近世まで真崎浦という入り江であったが、現在は広く水田化され、東海村との境となっている。

現在市内には、約300か所以上の遺跡が所在する。市域では昭和30年ごろから都市化が進み、周知遺跡内

における個人住宅建設件数も増加の一途をたどり、そうした事態に対応すべく、昭和54(1979)年から、国・県の補助を受け、市教育委員会を主体とした市内遺跡発掘調査事業を継続して実施してきた。市内遺跡発掘調査は市内各地で実施されてきたこともあり、市域の埋蔵文化財の全体的状況を知る上で、その調査の成果は貴重な資料となっている。

平成20年度から、市内遺跡発掘調査は市教育委員会から財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社(現公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社)に委託されるようになり、公社が主体となり実施されるようになった。

令和3年は、27カ所の遺跡において試掘調査34件、5カ所の遺跡において本調査5件が実施され、市毛上坪遺跡における古墳時代住居跡や、本郷東遺跡における奈良時代住居跡等の成果を得ている。





第1表 令和3年市内遺跡発掘調査一覧

No.	遺跡名	調査 回数	所在地	調査期間	調査原因	調査 種別	調査担当	対象 面積	調査 面積	主な遺構	主な遺物
1	いそあいでふんぐん 磯合古墳群	5次	磯崎町磯合 3728 番9	1月5～9日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	284㎡	33㎡	土坑1基	なし
2	いちげいせき 市毛遺跡	2次	市毛字上坪 1110 番	1月13～26日	宅地造成	試掘	田中 佐々木	2,790㎡	395㎡	住居跡26基(古墳, 奈良・ 平安, 時期不明), 溝跡1条, 土坑10基	縄文土器, 弥生土器, 土師器, 須恵器, 陶磁器, 石器
3	みただしづかいせき 三反田峴塚遺跡	7次	三反田字天王前 5118番1ほか	1月19～29日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	286㎡	33㎡	住居跡2基(古墳), 溝跡1条	土師器
4	いちげいせき 市毛遺跡	3次	市毛字上坪 1110 番	2月2～5日	宅地造成	試掘	田中 佐々木	2,790㎡	138㎡	住居跡11基(古墳, 奈良・ 平安, 時期不明), 土坑1基	縄文土器, 弥生土器, 土師器, 須恵器, 陶磁器, 銅銭
5	あかさいせき 赤坂遺跡	4次	鶴代 12237番ほ か	2月2～9日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	175㎡	45㎡	溝跡1条	なし
6	いちげいかみつぼいせき 市毛上坪遺跡	33次	市毛字上坪 1206 番2ほか	2月16～24日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	603㎡	67㎡	住居跡11基(古墳) 溝跡 1条, 土坑3基	弥生土器, 土師器, 須恵器
7	ほりぐちいせき 堀口遺跡	36次	堀口字塙坪 14番 ほか	2月18日～ 3月12日	集合住宅	試掘	田中 佐々木	2,941㎡	250㎡	住居跡28基(古墳, 奈良・ 平安, 時期不明), 溝跡7条, 土坑38基, 焼土遺構1基	弥生土器, 土師器, 須恵器, 陶磁器, 瓦質土器, 瓦, 石器, 鉄滓, 艦砲弾断片
8	いちげいせき 市毛遺跡	4次	市毛字上坪 1110 番	3月2～12日	宅地造成	試掘	田中 佐々木	2,790㎡	92㎡	住居跡5基(古墳, 奈良・ 平安, 時期不明), 溝跡1条, 土坑1基	縄文土器, 土師器, 須恵器, 陶磁器, 石器
9	いちげしもつぼいせき 市毛下坪遺跡	21次	市毛字下坪 404番 17	4月13～20日	集合住宅	試掘	田中 佐々木	983㎡	107㎡	住居跡5基(奈良・平安, 時期不明), 溝跡2条, 土坑2基	土師器, 須恵器
10	かつくらこふんぐん 勝倉古墳群 かつくらふじやまいせき 勝倉富士山遺跡	3次 3次	勝倉字鍛冶屋山 2982番1	4月20～23日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	404㎡	36㎡	住居跡2基(弥生), 土坑1基	弥生土器, 須恵器
11	ほりぐちいせき 堀口遺跡	37次	堀口字塙坪 14番 ほか	4月22～27日	集合住宅	試掘	田中 佐々木	2,941㎡	26㎡	住居跡3基(奈良・平安, 時期不明), 土坑10基	土師器, 須恵器, 陶磁器, 瓦質土器, 石器
12	いちげほんごうつぼいせき 市毛本郷坪遺跡	10次	市毛字本郷坪 469 番19ほか	5月11日～ 5月19日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	227㎡	27㎡	住居跡4基(古墳, 時期不明), 土坑5基	土師器, 須恵器
13	いちげいかみつぼいせき 市毛上坪遺跡	34次	市毛字上坪 1206 番4	5月11日～ 6月3日	個人住宅	本調査	田中 佐々木	50㎡	59㎡	住居跡3基(古墳)	弥生土器, 土師器, 須恵器, 石器, 鉄製品
14	ひらいせき 平井遺跡	8次	金上字遠原 1158 番2	5月18～20日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	238㎡	37㎡	なし	なし
15	いちげしもつぼいせき 市毛下坪遺跡	22次	市毛字下坪 405番 27	6月15～17日	建売住宅	試掘	田中 佐々木	239㎡	17㎡	なし	土師器, 須恵器
16	ほんごうむがしいせき 本郷東遺跡	7次	馬渡字本郷東 3776番	6月30日～ 7月7日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	500㎡	47㎡	住居跡1基(奈良), 溝1条	縄文土器, 陶器, 石器
17	かつくらわかみやいせき 勝倉若宮遺跡	6次	勝倉字若宮 2720 番1	7月13～15日	太陽光 発電施設	試掘	田中 佐々木	2773㎡	20㎡	なし	なし
18	たいせいちょういせき 大成町遺跡 とつがこふんぐん 殿塚古墳群	1次 5次	大成町 35番5	7月13～16日	集合住宅	試掘	田中 佐々木	593㎡	78㎡	古墳1基, 溝1条, 土坑1基	なし
19	かみげいせき 上馬場遺跡	7次	津田字塙台 3083 番	7月20～23日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	767㎡	46㎡	なし	なし
20	にしなかいせき 西中根遺跡	6次	中根字立中 2569 番3	7月20～23日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	487㎡	29㎡	なし	なし

No.	遺跡名	調査 回数	所在地	調査期間	調査原因	調査 種別	調査担当	対象 面積	調査 面積	主な遺構	主な遺物
21	ほりぐちいせき 堀口遺跡	38次	堀口字新地坪 135 番 1 ほか	8月3日	個人住宅	試掘	佐々木	720㎡	25㎡	なし	なし
22	いちげいせき 市毛遺跡 いちげかみつぼいせき 市毛上坪遺跡	5次 35次	市毛字上坪 1143 番 2 ほか	8月18～20日	宅地造成	試掘	田中 佐々木	771㎡	85㎡	住居跡 2 基 (奈良 1, 時期 不明 1), 溝跡 2 条	縄文土器, 土師器, 須恵器, 磁器
23	へたのむじないちいせき 部田野路 I 遺跡	1次	部田野路 2992 番 7 ほか	8月24～25日	工場建設	試掘	田中 佐々木	3,008㎡	65㎡	なし	なし
24	ほんごうひがしいせき 本郷東遺跡	8次	馬渡字本郷東 3776 番	8月31日～ 9月16日	個人住宅	本調査	田中 佐々木	5㎡	12㎡	住居跡 1 基 (奈良)	土師器, 須恵器, 石器
25	おおだいらしーいせき 大平 C 遺跡 とのづかこふんぐん 殿塚古墳群	7次 6次	大成町 44 番 13	8月31日～ 9月8日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	331㎡	30㎡	住居跡 2 基 (弥生 1, 古墳 1)	縄文土器, 弥生土器, 土師器, 石製模造品
26	いちげかみつぼいせき 市毛上坪遺跡	36次	市毛字上坪 1224 番 2	9月7～14日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	265㎡	25㎡	住居跡 4 基 (古墳 1, 時期 不明 3), 溝跡 1 条, ピット 2 基	土師器, 須恵器, 陶器
27	おおだいらしーいせき 大平 C 遺跡 とのづかこふんぐん 殿塚古墳群	8次 7次	大成町 43 番 7	9月28～30日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	411㎡	40㎡	住居跡 2 基 (時期不明)	なし
28	おおだいらしーいせき 大平 C 遺跡 とのづかこふんぐん 殿塚古墳群	9次 8次	大成町 44 番 13	10月5～26日	個人住宅	本調査	田中 佐々木	30㎡	30㎡	住居跡 1 基 (古墳)	縄文土器, 土師器
29	じぞうねいせき 地藏根遺跡 かつくらいやかたあと 勝倉台館跡	5次 2次	勝倉字地藏根 2779 番 9 ほか	10月12～19日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	333㎡	27㎡	住居跡 5 基 (古墳 1, 平安 1, 時期不明 3), 溝跡 1 条	弥生土器, 土師器, 須恵器
30	おおぼらうちいせき 大房地遺跡	18次	金上字畑ヶ原 873	10月19～26日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	963㎡	127㎡	住居跡 2 基 (時期不明), 溝跡 4 条	縄文土器, 弥生土器, 土師器, 中世土器, 瓦
31	みたんだいせき 三反田遺跡 みたんだいせきやん 三反田古墳群	9次 6次	三反田字舘塚久保 3276 番 7 ほか	10月27～28日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	369㎡	34㎡	なし	なし
32	じぞうねいせき 地藏根遺跡	6次	勝倉字地藏根 2823 番 1	11月4～10日	宅地分譲	試掘	田中 佐々木	904㎡	100㎡	井戸跡 1 基 (近世)	土師器, 須恵器, 近世土器, 陶磁器, 砥石
33	いちげほんてらつぼいせき 市毛本郷坪遺跡	11次	市毛字本郷坪 469 番 10 ほか	11月10日～ 12月3日	個人住宅	本調査	田中 佐々木	97㎡	67㎡	住居跡 4 基 (奈良・平安 3, 時期不明 1), 溝跡 1 条 (中 世), 土坑 8 基 (古墳 3, 近 世以前 4, 近世 1)	弥生土器, 土師器, 須恵器, 中世土器, 陶 磁器, 石器, 鉄製品
34	いそぎまひがしいせき 磯崎東遺跡	1次	磯崎町字磯崎東ノ 四 4372 番 1 ほか	11月10～26日	宅地造成	試掘	田中 佐々木	2,929㎡	240㎡	住居跡 11 基 (奈良・平安 4, 時期不明 7), 溝跡 6 条, 土 坑 19 基, ピット 36 基	土師器, 須恵器, 石器
35	おおぼらうちいせき 大房地遺跡	19次	金上字畑ヶ原 873	12月2～14日	個人住宅	本調査	田中 佐々木	75㎡	85㎡	住居跡 1 基 (時期不明), 溝跡 2 条 (奈良 1, 時期不 明 1), 土坑 1 基	縄文土器, 弥生土器, 土師器, 須恵器, 石器, 鉄製品
36	こうやふじやまいせき 高野富士山遺跡	15次	高野字富士山 1695 番 9	12月7～15日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	310㎡	32㎡	住居跡 2 基 (奈良・平安 1, 時期不明 1), 溝跡 1 条	土師器, 須恵器
37	こうやふじやまいせき 高野富士山遺跡	16次	高野字富士山 1695 番 8	12月7～15日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	307㎡	30㎡	住居跡 4 基 (時期不明), 溝跡 1 条	土師器, 須恵器
38	こうやふじやまいせき 高野富士山遺跡	17次	高野字富士山 1695 番 11	12月7～15日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	301㎡	27㎡	溝跡 1 条	土師器, 須恵器
39	いづかまえいせき 飯塚前遺跡	4次	三反田字飯塚前 3257 番 2 ほか	12月14～16日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	486㎡	41㎡	なし	なし

## II 試掘調査報告

### 1 磯合古墳群

#### (1) 第5次調査報告

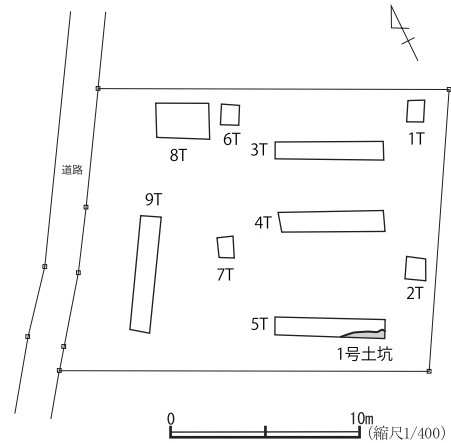
調査地は、海岸に面する台地縁辺から150mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑であった。調査は9か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.5～0.7mを測る。

調査の結果、時期不明の土坑を1基確認した。調査区から遺物の出土はなかった。

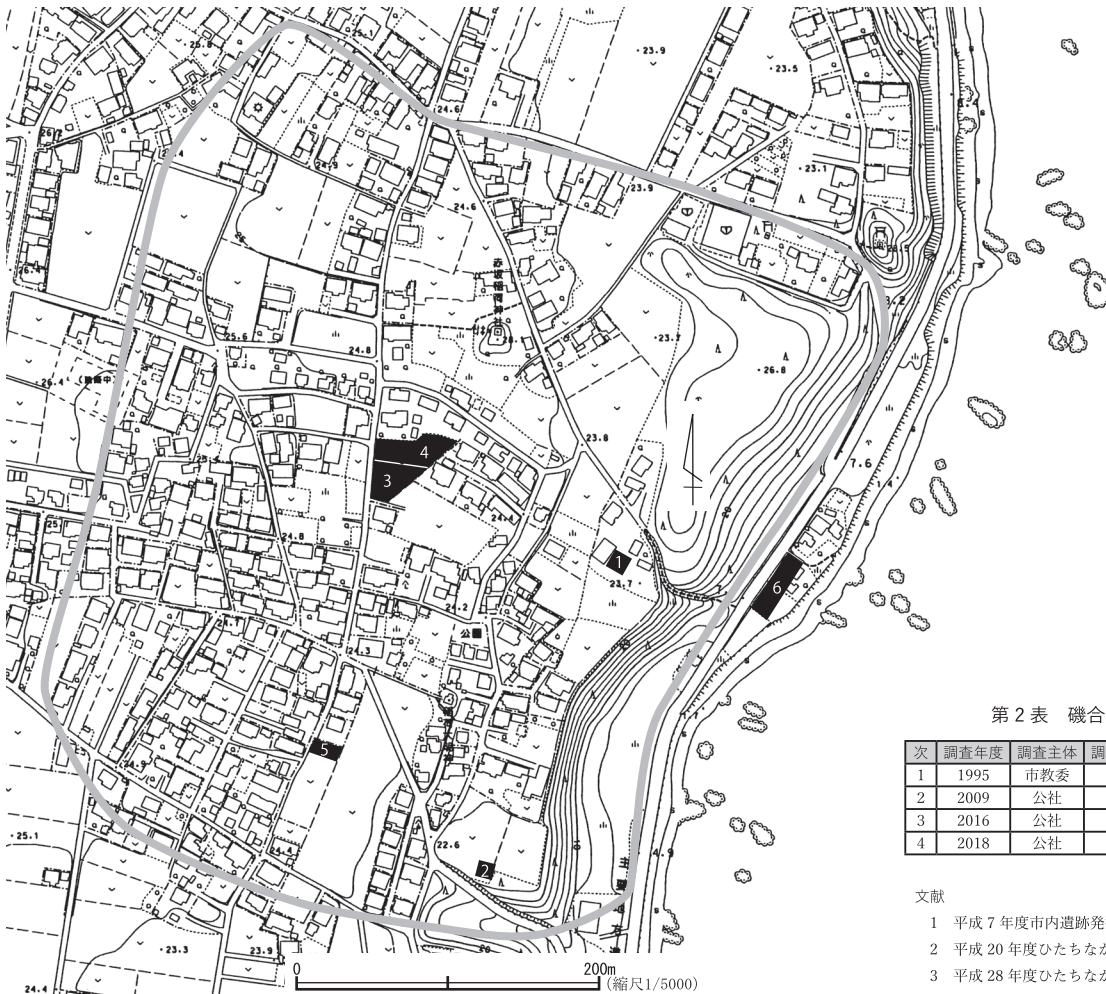
#### (2) 第6次調査出土資料について（参考資料）

茨城県道6号水戸那珂湊線の拡幅工事に伴い、磯崎地区の海岸部の調査を茨城県文化課が5月27日に実施した。調査区域は、磯合古墳群の展開する台地下の県道

の海側にわずかに広がる平坦面で、海岸との比高差は2～3mの場所で、かつて民家が数軒建っていた場所である。この場所は遺跡として登録されていない場所であったが、県道の山側に「あか坂きよめの井」と記された碑



第2図 磯合古墳群第5次調査区



第1図 磯合古墳群の調査地点（数字は調査回数）

第2表 磯合古墳群調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1995	市教委	試掘	なし	1
2	2009	公社	試掘	なし	2
3	2016	公社	試掘	円墳1、溝1	3
4	2018	公社	試掘	古墳1	4

文献

- 1 平成7年度市内遺跡発掘調査報告書
- 2 平成20年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成28年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成30年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

があること、数年前にすぐ近くの斜面部で石棺墓を多数確認していることから、調査を実施した。

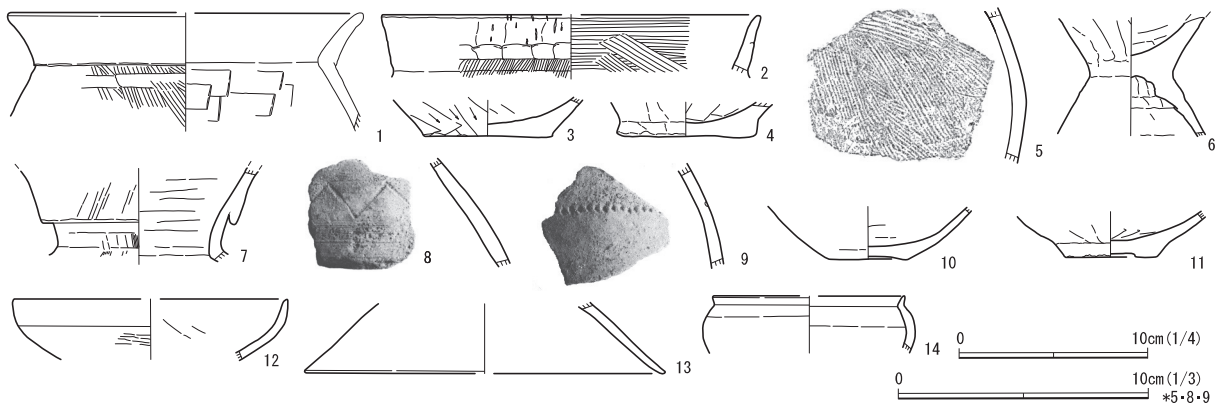
県道に沿うようにトレンチを設定し調査した結果、埋没谷を検出し、多数の土器片が出土した。この埋没谷は、「あか坂きよめの井」碑が示す湧水点から流れ出す場所にあることから、湧水によって形成されたものと推定する。この湧水点は、かつて酒列磯前神社への参拝の際、休憩したり、近隣の人々の「洗い場」でもあったとされるが、現在は枯水状態である [佐藤 1986]。

出土した遺物は、十王台式土器と古墳時代前期の土器片のみである。古墳時代前期の土器片には、南関東系の

装飾壺が含まれる点が注目される。また、もっとも興味深いことは、今回の調査区周辺は、古墳時代中期から後期にかけての古墳が 200 基近く造られた場所で、弥生時代や古墳時代の集落はまったく確認されていない地域で、そこから弥生時代後期から古墳時代前期の土器が出土したということである。つまり、台地上に古墳が造られる以前の人の存在を確認出来たことになる。さらに、海岸部の古墳は、海との関連が深く、海洋民の墓域の可能性のあることから、海の目の前の湧水近くからの土器を確認出来たことは、古墳が造られる古墳時代中期以前も海に関わる人々の痕跡を知るきっかけとなる事例とい



写真 1 磯合古墳群第 6 次調査区埋没谷検出状況および遺物出土状況



第 3 図 磯合古墳群第 6 次調査区出土遺物 (1)

えよう。

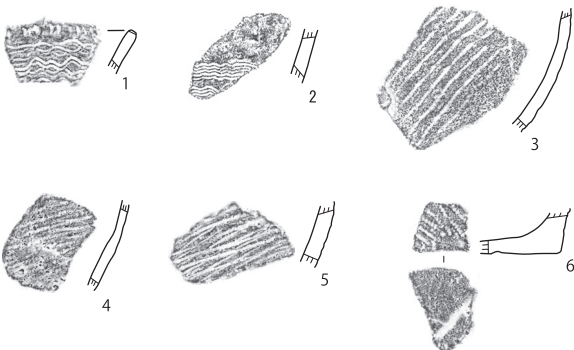
今回出土した土器は、谷に流れ出た出土状況であることから、本来は湧水点付近で使用された土器と考える。今後、湧水点付近の調査が重要となろう。

参考文献：佐藤次男 1986『那珂湊の地名』那珂湊市地名研究会

### 遺物説明

#### 第3図

- 1 台帳：No.4 材質：土師器 器種：甕 残存：口縁部20% 法量：口径(18.6)、高(6.3) 色調：外面橙～にぶい褐～暗褐色。内面橙～にぶい褐色。胎土：礫(白少)、砂(白多、透多) 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ、胴部ハケ調整。内面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。使用痕：— 備考：—
- 2 台帳：No.4 材質：土師器 器種：甕 残存：口縁部10% 法量：口径(20.0)、高(3.4) 色調：外面暗褐色。内面橙～暗褐色。胎土：砂(白多、透多) 焼成：良好 技法等：外面輪積痕、指圧痕、ハケ調整。内面ハケ調整。使用痕：— 備考：—
- 3 台帳：No.4 材質：土師器 器種：甕? 残存：底部20% 法量：高(2.0)、底径(6.8) 色調：内外面とも暗褐色。胎土：礫(白少)、砂(白多、透多) 焼成：良好 技法等：外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。使用痕：— 備考：—
- 4 台帳：No.2 材質：土師器 器種：甕? 残存：底部100% 法量：高(1.8)、底径7.4 色調：外面橙～にぶい橙色。内面黒褐色 胎土：小石(白微)、礫(白少)、砂(白多、透多、黒少) 焼成：良好 技法等：外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。使用痕：— 備考：内外面とも器面が荒れている。
- 5 台帳：No.4 材質：土師器 器種：甕 残存：胴部片 法量：— 色調：外面にぶい橙～黒色。内面にぶい橙色。胎土：砂(白多、透多) 焼成：良好 技法等：ハケ調整 備考：—
- 6 台帳：No.4 材質：土師器 器種：甕(台付) 残存：脚部 法量：高(6.3) 色調：外面橙～暗褐色 胎土：砂(白多、透多) 焼成：良好 技法等：外面ヘラナデ。内面胴部ヘラナデ、胴部ヘラナデ・ナデ。使用痕：— 備考：—
- 7 台帳：No.2 材質：土師器 器種：壺 残存：口縁部20% 法量：高(5.0) 色調：内外面とも黄橙色。胎土：(白多、透多) 焼成：良好 技法等：外面ヘラナデ・ハケ調整。内面ヘラナデ。使用痕：— 備考：—



0 10cm  
(縮尺1/3)

第4図 磯合古墳群第6次調査区出土遺物(2)

- 8 台帳：No.4 材質：土師器 器種：壺 残存：胴部片 法量：— 色調：内外面ともにぶい橙～黄橙色。胎土：砂(白多、透多、黒少) 焼成：良好 技法等：外面に櫛描横線文と山形文。使用痕：— 備考：—
- 9 台帳：No.4 材質：土師器 器種：壺 残存：胴部片 法量：— 色調：内外面とも橙～にぶい黄橙色。胎土：砂(白多、透多、黒少) 焼成：良好 技法等：外面に櫛描横線文と施文具の刺突による列点文。使用痕：— 備考：—
- 10 台帳：No.2 材質：土師器 器種：壺 残存：底部80% 法量：高(2.8)、底径4.1 色調：外面橙～黒色。内面にぶい橙～暗褐色。胎土：砂(白多、透多) 焼成：良好 技法等：外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。使用痕：— 備考：内外面とも器面が荒れている。
- 11 台帳：No.4 材質：土師器 器種：壺 残存：底部80% 法量：高(2.4)、底径4.8 色調：外面橙～暗褐色。内面にぶい黄橙色。胎土：砂(白多、透多、黒少) 焼成：良好 技法等：内外面ともヘラナデ。凹み底。使用痕：— 備考：内外面とも器面が荒れている。
- 12 台帳：No.3 材質：土師器 器種：杯 残存：10% 法量：口径(14.4)、高(3.2) 色調：内外面とも橙色。胎土：礫(白微)、寸吾(白多、透多) 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ?、体部ヘラナデ?。内面ヘラナデ? 使用痕：— 備考：高杯・器台の杯部か。内外面とも器面が荒れている。
- 13 台帳：No.2・4 材質：土師器 器種：高杯 残存：脚部10% 法量：高(3.7)、底径(19.1) 色調：内外面ともにぶい褐色。胎土：砂(白多、透多) 焼成：良好 技法等：内外面とも不明。使用痕：— 備考：内外面とも器面が荒れている。
- 14 台帳：No.2 材質：土師器 器種：椀 残存：口縁～胴部中位10% 法量：口径(10.0)、高(3.0) 色調：外面にぶい橙色。内面橙色。胎土：砂(白少、透多) 焼成：良好 技法等：外面口縁～胴部上位ヨコナデ、中位ヘラナデ?。内面ヘラナデ? 使用痕：— 備考：内外面とも器面が荒れている。

#### 第4図

- 1 出土位置・注記：No.1 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：不明 文様：口唇部刻み、口縁部櫛描文(櫛齒3本以上)
- 2 出土位置・注記：No.1 時代時期：弥生時代後期 器種：不明 文様：櫛描文(櫛齒5本) 備考：胎土に金雲母・海綿骨針含む
- 3 出土位置・注記：No.5 時代時期：弥生時代後期カ 器種：壺形土器 文様：付加条縄文(R-S)カ 備考：胎土に金雲母多量・海綿骨針を含む
- 4 出土位置・注記：No.5 時代時期：弥生時代後期カ 器種：不明 文様：付加条縄文(R-S)カ
- 5 出土位置・注記：No.6 時代時期：弥生時代カ 器種：不明 文様：条痕 備考：器外面に炭化物付着
- 6 出土位置・注記：No.2 時代時期：弥生時代後期 器種：不明 文様：付加条縄文(RL+2L)カ、底面木葉痕 備考：胎土に礫を多量に含む

## 2 市毛遺跡・市毛上坪遺跡

### (1) 市毛遺跡第2・3・4次調査報告

調査地は、那珂川から北方に入り込む浅い谷の東側台地上に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑であった。調査は44か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.1～1.0mを測る。

調査の結果、住居跡39基、溝跡1条、土坑12基、ピット15基を確認した。住居跡からは古墳時代中・後期の土師器や奈良・平安時代の須恵器が出土している。また、調査区の南端と東端を除く広い部分が、表土から遺構確認面までの深さが浅く、遺構が削平されて遺存状況は良くなかった。

調査区からは、縄文土器片、弥生土器



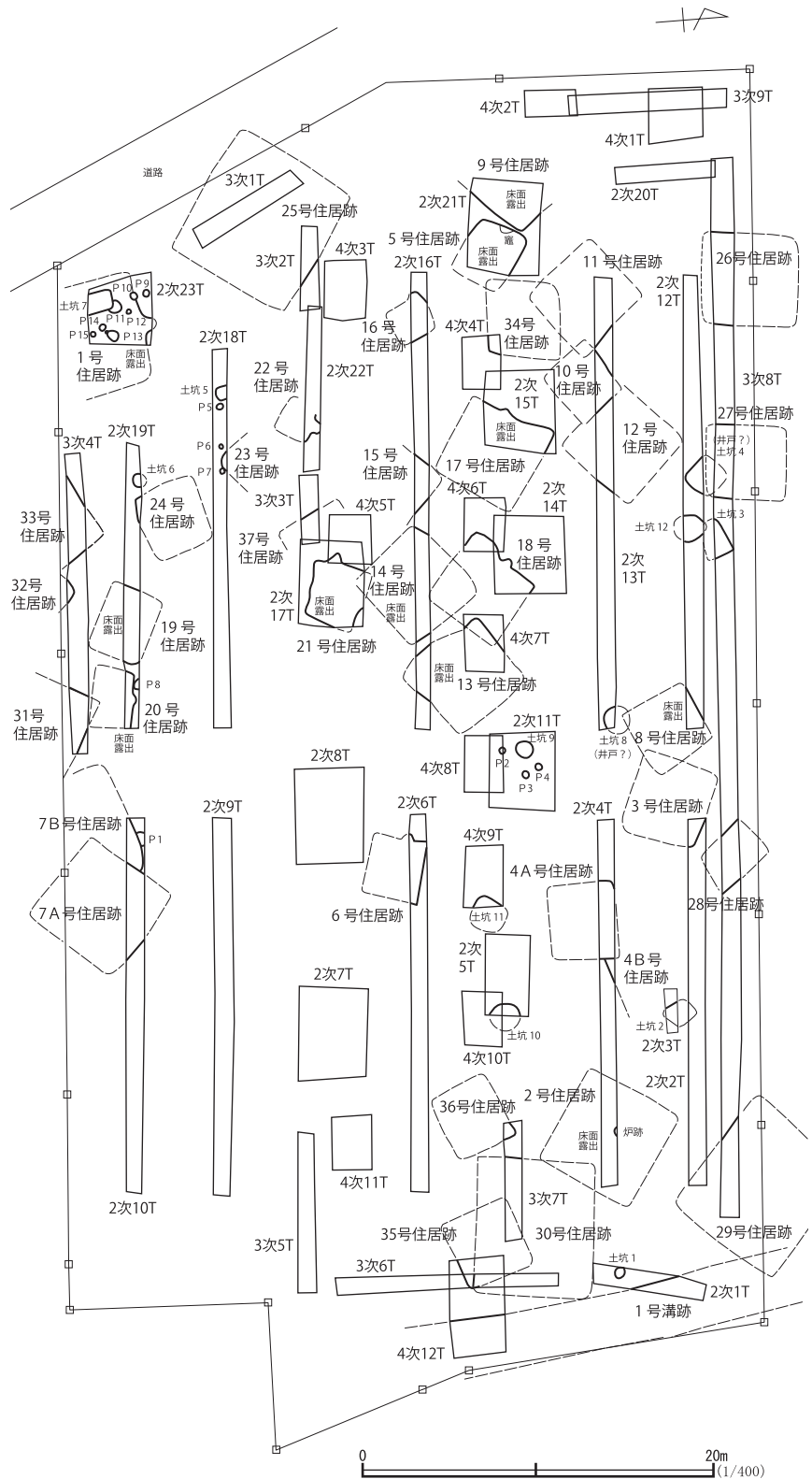
第5図 市毛遺跡の調査地点(数字は調査次数)

第3表 市毛遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1990	勝田市教委	本調査	住居6	1

文献

1 平成2年度勝田市内遺跡発掘調査報告書



第6図 市毛遺跡第2・3・4次調査区

片、土師器片、須恵器片、土錘、石器、近世の陶磁器片、銅銭が出土している。

### 遺物説明

第7図

1 台帳：11トレンチ 材質：土師器 器種：杯 残存：40% 法量：口径(16.0)、高(6.3) 色調：内外面とも赤橙～暗赤褐色。胎土：砂(白

多, 透多, 黒少) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 体部上位へラ削り後へラナデ, 下位へラ削り。内面口縁部ヨコナデ, 体部へラナデ・へラミガキ。 使用痕:- 備考:-

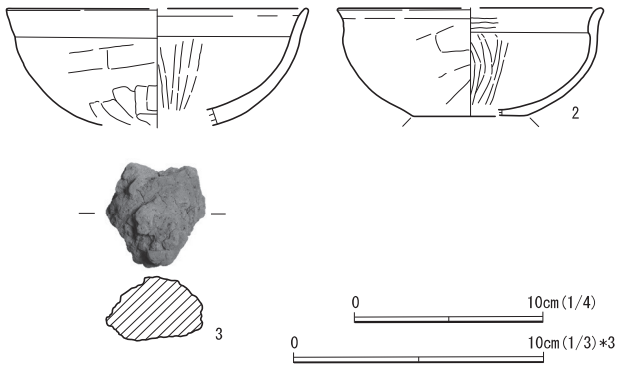
2 台帳:11トレンチ 材質:土師器 器種:杯 残存:10% 法量:口径(13.8), 高5.7 色調:内外面とも橙~黒褐色。胎土:砂(白多, 透多, 黒少) 焼成:良好 技法等:外面へラ削り後へラナデ。内面へラナデ・へラミガキ。 使用痕:- 備考:-

3 台帳:4トレンチ1住 材質:土師器 種類:粘土塊? 法量:長4.0, 幅3.9, 厚2.5, 重量28.95g 備考:ワラのような植物の痕跡がみられる。

第8図

1 出土位置:16トレンチ14住 材質:土師器 器種:杯 残存:口縁部20%(口唇部欠失), 底部30% 色調:外側明褐色, 内面褐色 胎土:礫(灰少, 砂岩?), 砂(白少), 白雲母細片 特徴:口縁部外面から体部内面にかけてヨコナデ。外面体部から底部にかけて円周方向へラ削り。底部内面へラミガキ。 備考:新治窯付近産か

2 出土位置:2トレンチ3住 材質:須恵器 器種:有台杯 残存:底部 法量:高台径8.1 色調:灰色 胎土:礫(白多, 白透微量, 灰微量)



第7図 市毛遺跡2・3・4次調査区出土遺物(1)

特徴:底部外面回転へラ削り。高台設置面摩滅。底部内面に弱い研磨痕と朱墨の付着がみられる。体部は打割調整か。

3 出土位置:21トレンチ 材質:須恵器 器種:有台杯 残存:口縁部欠失 法量:高台径5.6 色調:暗灰色 胎土:礫(白多, 透多少), 骨針微量 特徴:回転へラ切り。高台端部やや摩滅。 備考:木葉下窯産か

4 出土位置:21トレンチ5住 材質:須恵器 器種:杯 残存:体部80%欠失 法量:口径(13.4), 器高5.3, 底径(7.1) 色調:暗灰色 胎土:礫(白多, 白透少, 灰少), 骨針微量 特徴:回転へラ切り 備考:木葉下窯産か

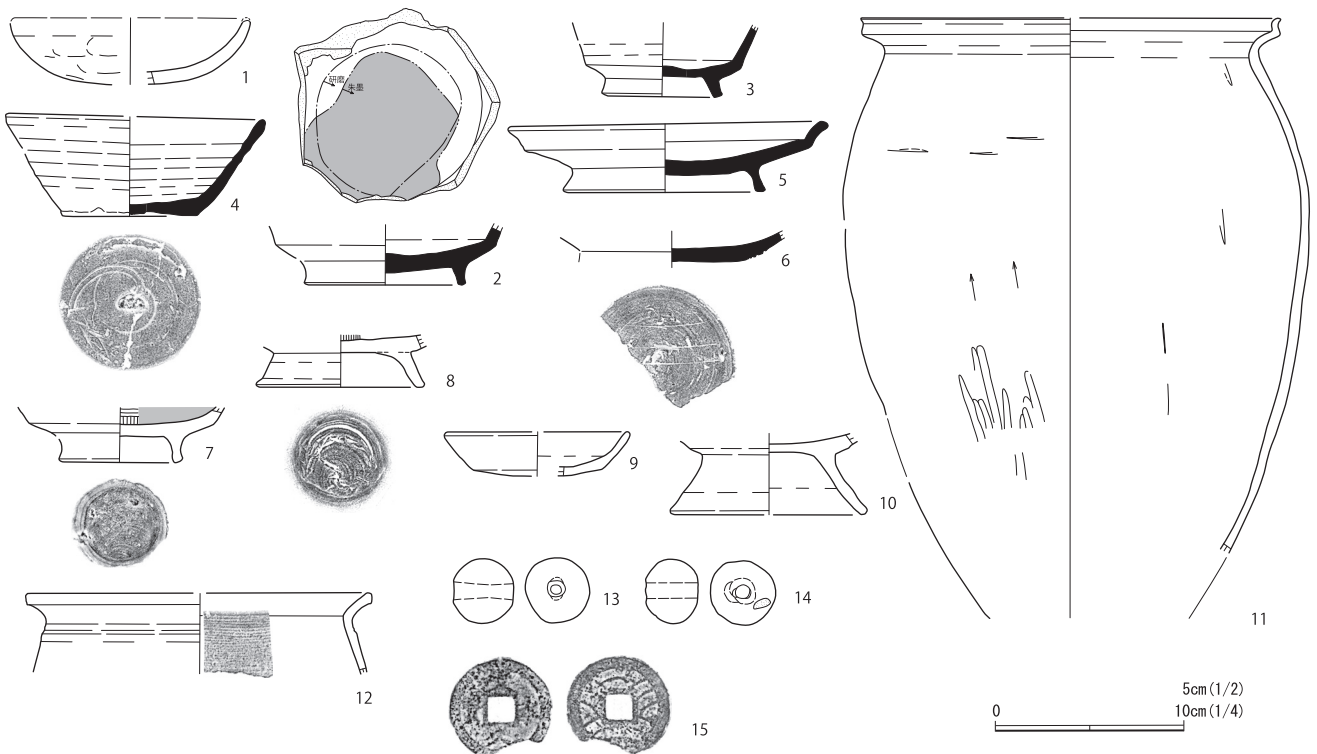
5 出土位置:21トレンチ 材質:須恵器 器種:有台盤 残存:口縁部15%欠失 法量:口径16.4, 器高3.6, 高台径10.3 色調:灰色 胎土:礫(白多), 骨針微量 特徴:底部外面回転へラ削り。内面降灰し, 中央に径7.5cm円形の重ね焼き痕あり。高台端部小さな欠け多数。底部内面やや摩滅。 備考:木葉下窯産か

6 出土位置:21トレンチ 材質:須恵器 器種:有台盤か 残存:底部40%(高台欠失) 色調:灰色 胎土:礫(白多) 特徴:底部外面回転へラ削り後へラ記号「三」。高台接合面に沈線4条。内面やや摩滅。 備考:木葉下窯産か

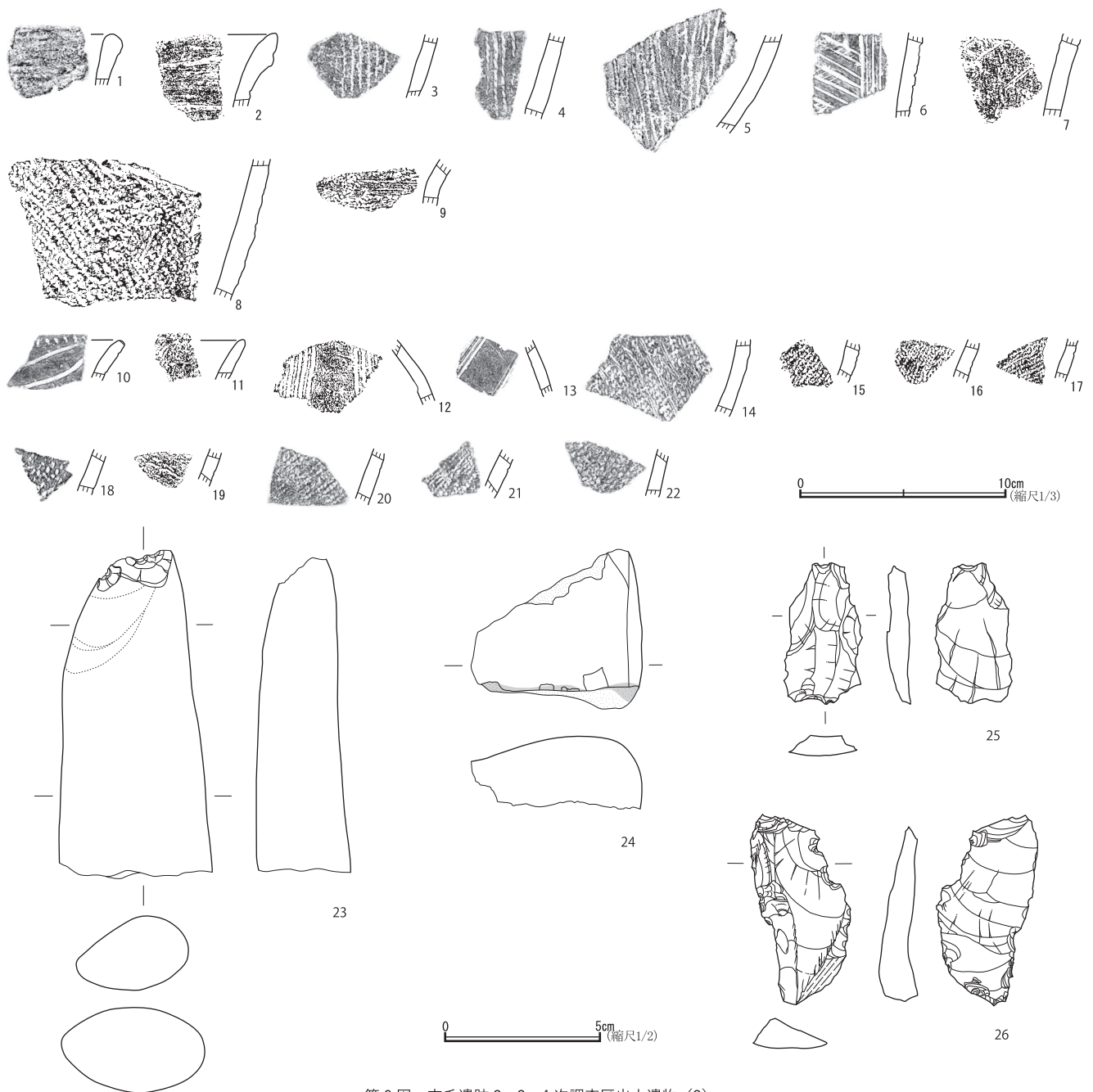
7 出土位置:19トレンチ19住 材質:土師器 器種:有台杯 残存:底部(高台部30%欠失) 法量:高台径6.0 色調:外面明褐色・明橙褐色, 内面黒色・一部明褐色 胎土:砂(白濁少) 特徴:底部糸切り。内面へラミガキ(底部1方向)・黒色処理。内面の一部が明褐色を呈し, その部分に焼土が付着するので火を受けていると思われる。

8 出土位置:11トレンチ 材質:土師器 器種:椀 残存:底部100% 法量:高台径(10.0) 色調:外面高台外側明橙褐色・高台内側明褐色・底部付近灰褐色・底部中央付近黒色, 内面黒色 胎土:礫(灰少) 特徴:内面へラミガキ(底部方向不明瞭)・黒色処理

9 出土位置:11トレンチ 材質:土師器 器種:小皿 残存:口縁部



第8図 市毛遺跡2・3・4次調査区出土遺物(2)



第9図 市毛遺跡2・3・4次調査区出土遺物(3)

20%、底部30% 法量：口径(9.5)，器高2.3，底径(6.8) 色調：明褐色 胎土：砂粒少ない 特徴：外面焼土付着

10 出土位置：11トレンチ 材質：土師器 器種：椀 残存：底部 法量：高台径8.6 色調：外面明褐・橙褐・黒色，内面黒色 胎土：骨針微量 特徴：回転糸切り。内面ヘラミガキ(底部1方向)・黒色処理。高台端部ところどころ欠失。内面やや摩滅。

11 出土位置：16トレンチ16住，16トレンチ，2トレンチ3住 材質：土師器 器種：甕 残存：口縁部30%，胴部50% 法量：口径(22.0) 色調：橙褐色，外面一部黒褐色 胎土：礫(白、白透)，砂(白透多，透多，白，灰少)白雲母 特徴：口縁部ヨコナデ。胴部外面縦方向ヘラナデ。備考：新治窯付近産か

12 出土位置：21トレンチ 材質：土師器 器種：甕 残存：口縁部15% 法量：口径(18.0) 色調：外面(透(高温型石英)多) 特徴：外面ヨコナデ。内面横方向カキ目・口縁部ヨコナデ。ロクロ成形か。

13 出土位置：6トレンチ 材質：土師器 器種：球状土錘 残存：完

形 法量：長3.2，幅3.4，孔径0.7，重量38.4g 色調：茶色，赤褐色，黒斑あり 胎土：— 特徴：図の左から右へ穿孔の後，右孔を広げている。未使用品か。

14 出土位置：4トレンチ2住 材質：土師器 器種：球状土錘 残存：若干欠失 法量：長2.8，幅0.8，重量29.7g 色調：褐色，赤褐色 胎土：— 特徴：図の右から左へ穿孔。火を受けている。

15 出土位置：5トレンチ 材質：銅 種類：銭貨(文久永寶) 残存：周縁一部欠く 法量：横径26.7，銭厚0.9~1.1

第9図

1 出土位置・注記：4次8トレンチ 時代時期：縄文時代早期 器種：尖底深鉢形土器カ 文様：無文

2 出土位置・注記：3次27住 時代時期：縄文時代後期(堀ノ内I式) 器種：深鉢型土器カ 文様：沈線文 備考：波状口縁カ，器外面に微量の炭化物付着，器内面一磨き，胎土に海綿骨針含む

3 出土位置・注記：2次11トレンチ 時代時期：縄文時代早期(稲荷台



- 式) 器種: 尖底深鉢形土器 文様: 燃糸文 (L)
- 4 出土位置・注記: 2次19トレンチ 時代時期: 縄文時代早期(稲荷台式) 器種: 尖底深鉢形土器 文様: 燃糸文 (L)
- 5 出土位置・注記: 2次13トレンチ11住 時代時期: 縄文時代早期(稲荷台式) 器種: 尖底深鉢形土器 文様: 燃糸文 (R)
- 6 出土位置・注記: 2次11トレンチ 時代時期: 縄文時代早期(三戸式) 器種: 尖底深鉢形土器カ 文様: 沈線文(へら状工具)
- 7 出土位置・注記: 3次7トレンチ 時代時期: 縄文時代後期 器種: 深鉢型土器カ 文様: 沈線文 備考: 器外面擦痕
- 8 出土位置・注記: 3次27住 時代時期: 縄文時代後期 器種: 深鉢型土器カ 文様: 単節斜縄文 (RL)
- 9 出土位置・注記: 3次27住 時代時期: 縄文時代中・後期カ 器種: 深鉢型土器カ 文様: 単節斜縄文 (LR) 備考: 器内面磨き
- 10 出土位置・注記: 4次11トレンチ 時代時期: 弥生時代中期 器種: 広口壺形土器カ 文様: 口唇部刻み, 沈線文(先割れ工具) 備考: 胎土に海綿骨針含む
- 11 出土位置・注記: 3次4トレンチ31住 時代時期: 弥生時代中期カ 器種: 小型甕形土器 文様: 単節斜縄文 (LR)カ 備考: 器内面磨き, 一部剥落
- 12 出土位置・注記: 3次4トレンチ33住 時代時期: 弥生時代中期 器種: 壺形土器カ 文様: 沈線文(半截竹管)
- 13 出土位置・注記: 4次11トレンチ 時代時期: 弥生時代中期(足洗式) 器種: 壺形土器 文様: 平行沈線文(3本同時施文具) 備考: 器内面剥落
- 14 出土位置・注記: 2次16トレンチ14住 時代時期: 弥生時代中期 器種: 壺形土器カ 文様: 付加条縄文(LR×2ℓ) 備考: 器内面磨き
- 15 出土位置・注記: 3次4トレンチ33住 時代時期: 弥生時代中期カ 器種: - 文様: 単節斜縄文 (LR)
- 16 出土位置・注記: 3次4トレンチ33住 時代時期: 弥生時代中期

- 器種: - 文様: 付加条縄文 (LR+2R) 備考: 胎土に海綿骨針含む
- 17 出土位置・注記: 3次4トレンチ32住 時代時期: 弥生時代中期カ 器種: - 文様: 付加条縄文 (LR+2Rカ) 備考: 器内面剥落
- 18 出土位置・注記: 4次11トレンチ 時代時期: 弥生時代中期カ 器種: 不明 文様: 付加条縄文 (LR+2Rカ) 備考: 器内面剥落
- 19 出土位置・注記: 3次6トレンチ30住 時代時期: 弥生時代後期カ 器種: - 文様: 燃糸文 (R-Z)カ
- 20 出土位置・注記: 2次4トレンチ 時代時期: 弥生時代 器種: 不明 文様: 単節斜縄文 (LRカ)
- 21 出土位置・注記: 2次7トレンチ 時代時期: 弥生時代 器種: 不明 文様: 付加条縄文 (LR+R, 軸縄1段3条)
- 22 出土位置・注記: 2次17トレンチ21住 時代時期: 弥生時代 器種: 不明 文様: 単節斜縄文 (LRカ)
- 23 出土位置・注記: 4次7トレンチ 時代時期: 不明 器種: 焼石 石材: アルコース質砂岩 法量: 長さ44mm, 幅54mm, 高さ23mm, 重量81.1g 備考: 一部被熱による赤変あり
- 24 出土位置・注記: 2次23トレンチ 時代時期: 不明 器種: 敲打石 石材: アルコース質中粒砂岩 法量: 長さ106mm, 幅50mm, 高さ31mm, 重量206.6g
- 25 出土位置・注記: 2次22トレンチ 時代時期: 不明 器種: 剥片 石材: ホルンフェルス 法量: 長さ46mm, 幅25mm, 高さ7mm, 重量9.8g
- 26 出土位置・注記: 4次表採 時代時期: 不明 器種: 剥片 石材: 珪質泥岩 法量: 長さ61mm, 幅29mm, 高さ8mm, 重量17.4g

## (2) 市毛上坪遺跡第33次調査報告

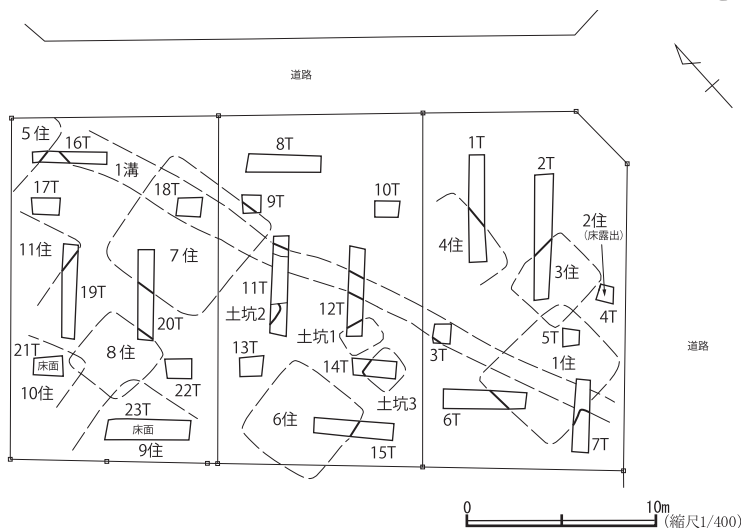
調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺から140mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。調査は23か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.7~1.2mを測る。

調査の結果、住居跡11基、溝跡1条、土坑3基が確認された。出土遺物から住居跡の年代は古墳時代中・後期頃を中心とするものと推定される。土坑と溝跡は時期不明である。第3号土坑は遺構確認面からの深さが60cm以上あり、井戸の可能性もある。調査区からは弥生土器片、土師器片、須恵器片が出土している。

### 遺物説明

#### 第11図

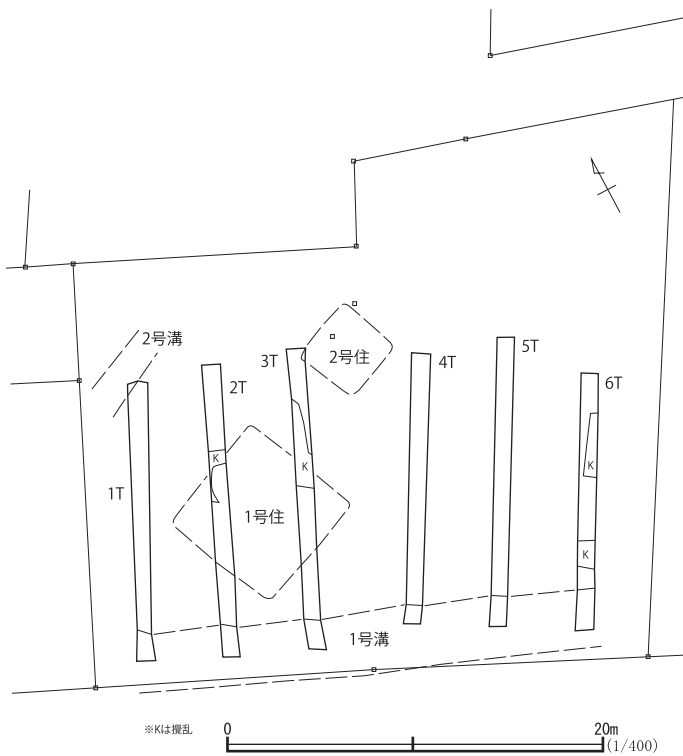
- 1 出土位置・注記: 7トレンチ 時代時期: 弥生時代後期(十王台式) 器種: 大型壺形土器カ 文様: 付加条縄文 (L×L)
- 2 出土位置・注記: 22トレンチ 時代時期: 弥生時代後期カ 器種: - 文様: 付加条縄文 (R×2Rカ), 底面木葉痕



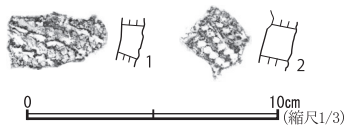
第10図 市毛上坪遺跡第33次調査区



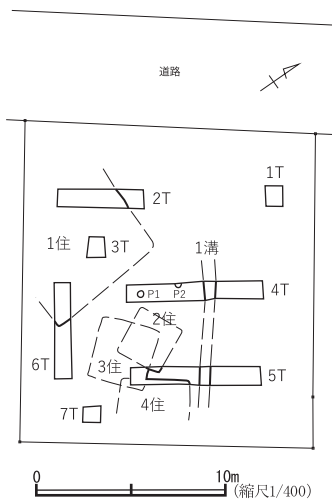
第11図 市毛上坪遺跡第33次調査区出土遺物



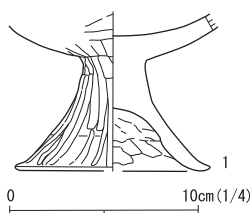
第12図 市毛遺跡第5次・市毛上坪遺跡第35次調査区



第13図 市毛遺跡第5次・市毛上坪遺跡第35次調査区出土遺物



第14図 市毛上坪遺跡第36次調査区



第15図 市毛上坪遺跡第36次調査区出土遺物

### (3) 市毛遺跡第5次・市毛上坪遺跡第35次調査報告

調査地は、那珂川から北方に入り込む浅い谷の谷頭付近に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑であった。調査は6か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.5～0.8mを測る。調査の結果、住居跡2基、溝跡2条が確認された。住居跡は1号住居跡が奈良時代、2号住居跡は遺物がなく時期不明である。溝跡は時期が決定できる遺物がなく時期は不明である。調査区からは、縄文土器・須恵器・土師器・磁器片が出土している。

#### 遺物説明

第13図

- 1 出土位置・注記：2トレンチ1住 時代時期：縄文時代中期カ 器種：不明 文様：単節斜縄文(LR)
- 2 出土位置・注記：3トレンチ 時代時期：縄文時代中期カ 器種：不明 文様：単節斜縄文(LR)

### (4) 市毛上坪遺跡第36次調査報告

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺から250mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は荒地であった。調査は7か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.4～0.9mを測る。

調査の結果、住居跡4基、溝跡1条、ピット2基が確認された。出土遺物から1号住居跡は古墳時代後期と考えられる。2～4号住居跡、溝跡は出土遺物がないため時期は不明である。その他調査区からは、土師器・須恵器・陶器が出土している。

#### 遺物説明

第15図

- 1 台帳：6トレンチ1住 材質：土師器 器種：高杯 残存：杯部10%、胴部60% 法量：高(8.4)、底径10.4 色調：内外面とも赤橙～暗赤褐色。胎土：礫(白微)、砂(白多、透多) 焼成：良好 技法等：外面杯部ヘラ削り後ヘラミガキ、胴部上～中位ヘラナデ・ヘラミガキ、下位ヨコナデ後ヘラミガキ。内面杯部不明、脚部上～中位ナデ・ヘラナデ、下位ヨコナデ。使用痕：備考：脚部内面の大半の器面が剥離している。



第16図 市毛上坪遺跡の調査地点（数字は調査回数）

第4表 市毛上坪遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
0	1979	勝田市教委	本調査	不明	なし
1	1980	勝田市教委	本調査	住居跡1(古墳)	1
2	1985	勝田市教委	本調査	住居跡1(古墳)	なし
3	1985	勝田市教委	試掘調査	なし	2
4	1985	勝田市教委	本調査	住居跡2(平安), 溝跡1, 土坑10	2
5	1986	勝田市教委	試掘	なし	3
6	1991	勝田市教委	試掘	なし	4
7	1992	勝田市教委	本調査	溝跡1	5
8	1996	市教委	試掘	なし	6
9	2006	市教委	試掘	なし	7
10	2006	市教委	本調査	住居跡2(古墳1, 平安1), 土坑1	7
11	2006	市教委	試掘	住居跡2(古墳1, 平安1), 溝跡1	7
12	2012	公社	試掘	住居跡14(古墳か)	8
13	2013	公社	試掘	住居跡1(古墳)	9
14	2014	公社	試掘	住居跡1(古墳), 土坑1	10
15	2015	公社	試掘	住居跡1(古墳), 溝跡1	11
16	2016	公社	試掘	住居跡2(古墳)	12
17	2017	公社	試掘	住居跡2(古墳)	13
18	2017	公社	試掘	住居跡3(平安2, 時期不明1)	13
19	2017	公社	本調査	住居跡4(古墳2, 平安2)	14
20	2017	公社	試掘	住居跡2(時期不明), 溝跡1	14
21	2018	公社	試掘	住居跡3(古墳)	14
22	2018	公社	試掘	住居跡4(弥生1, 古墳3)	14
23	2018	公社	試掘	住居跡3(古墳), 土坑2	14
24	2018	公社	試掘	住居跡4(奈良・平安)	14

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
25	2018	公社	本調査	住居跡5(古墳), 溝跡1, 道跡1, 土坑2	14
26	2018	公社	本調査	住居跡4(古墳)	14
27	2018	公社	本調査	住居跡4(古墳), 溝跡1	14
28	2018	公社	本調査	住居跡4(古墳2, 平安2)	14
29	2019	公社	試掘	住居跡6(古墳4, 時期不明2), 溝跡1	15
30	2019	公社	本調査	住居4(弥生1, 古墳3)	16
31	2020	公社	試掘	なし	16
32	2020	公社	試掘	なし	16

文献

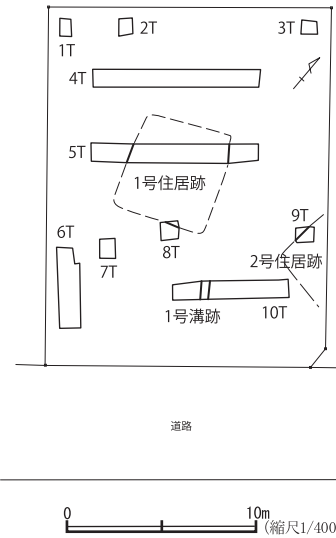
- 1 市内遺跡発掘調査報告書(昭和55年度)
- 2 昭和60年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 昭和61年度市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成3年度市内遺跡発掘調査報告書
- 5 平成4年度市内遺跡発掘調査報告書
- 6 平成8年度市内遺跡発掘調査報告書
- 7 平成18年度市内遺跡発掘調査報告書
- 8 平成24年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 9 平成25年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 10 平成26年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 11 平成27年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 12 平成28年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 13 平成29年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 14 平成30年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 15 令和元年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 16 令和2年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

### 3 三反田蜆塚遺跡

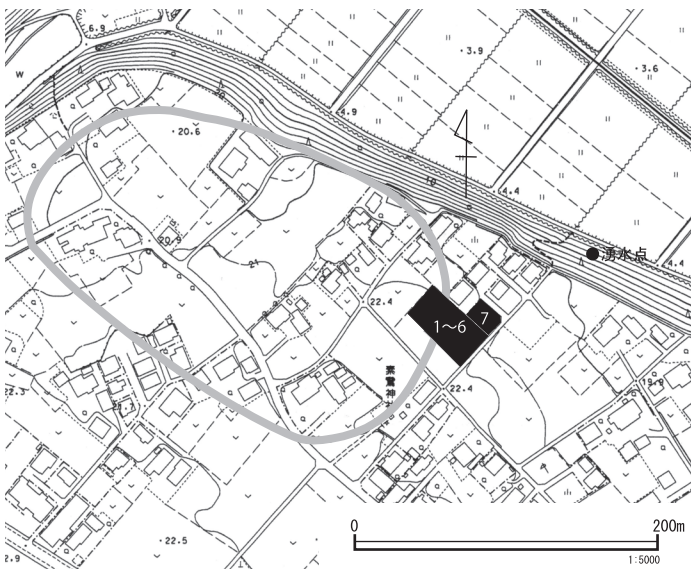
#### (1) 第7次調査報告

調査地は、中丸川低地に面する台地縁辺から40mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑であった。調査は10か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.6～1.0mを測る。

調査の結果、住居跡2基、溝跡1条を確認した。トレンチからの出土遺物から2基の住居跡は古墳時代と推定される。溝跡の時期は不明である。



第18図 三反田蜆塚遺跡第7次調査区



第17図 三反田蜆塚遺跡の調査地点(数字は調査回数)

第5表 三反田蜆塚遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	2009	公社	試掘	住居8以上、溝1、土坑5	1
2	2010	公社	試掘	住居1、溝1、土坑1	2
3	2011	公社	本調査	住居1(古墳)、土坑4、溝2	3
4	2012	公社	試掘	住居2、溝1	4
5	2012	公社	試掘	住居1、土坑1	4
6	2012	公社	本調査	住居3(弥生1、古墳2)、土坑5	5

文献

- 平成21年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成22年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成23年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成24年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成25年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

### 4 赤坂遺跡

#### (1) 第4次調査報告

遺跡は緩い起伏をもつ台地上に位置し、調査地は平坦な地形を呈する。調査時は荒地であった。調査は9か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.5～0.8mを測る。

調査の結果、時期不明の溝跡を1条確認した。調査区から遺物の出土はなかった。



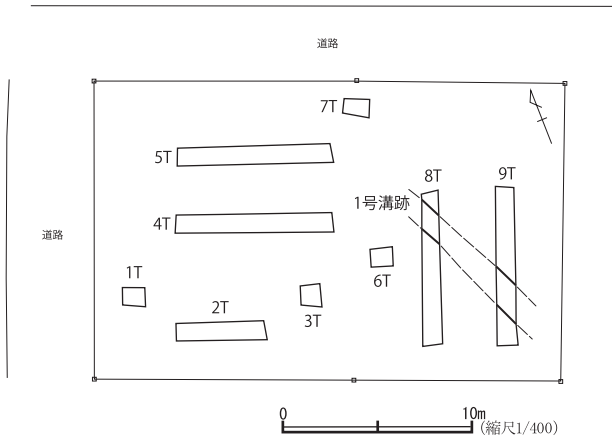
第19図 赤坂遺跡の調査地点(数字は調査回数)

第6表 赤坂遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	2012	公社	試掘	なし	1
2	2014	公社	試掘	なし	2
3	2017	公社	試掘	溝1	3

文献

- 平成24年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成26年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成29年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第20図 赤坂遺跡第4次調査区

## 5 堀口遺跡

### (1) 第36・37次調査報告

調査地は、那珂川低地に面する台地縁辺から70mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地および竹林跡であった。調査は36次が13か所、37次が2か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.2～1.0mを測る。

調査の結果、住居跡31基、土坑48基、溝跡7条、ピット13基を確認した。出土遺物から12・17・20・26・32号住居跡は古墳時代前期、1・6・27・28号住居跡が奈良・平安時代と考えられる。その他の住居跡は出土遺物が少ないため時期不明である。土坑・溝跡についても出土遺物が少ないため時期は不明である。土坑の中には粘土を貼ったものも認められた。また、焼土が堆積し縁を粘土張りにしてある円形の遺構が確認された。

調査区からは、弥生土器片、土師器、須恵器、陶磁器、瓦質土器、瓦、石器、砥石、石臼、鉄滓、艦砲弾片等が出土している。

#### 遺物説明

第23図

1 台帳：4トレンチ 材質：土師器 器種：甕

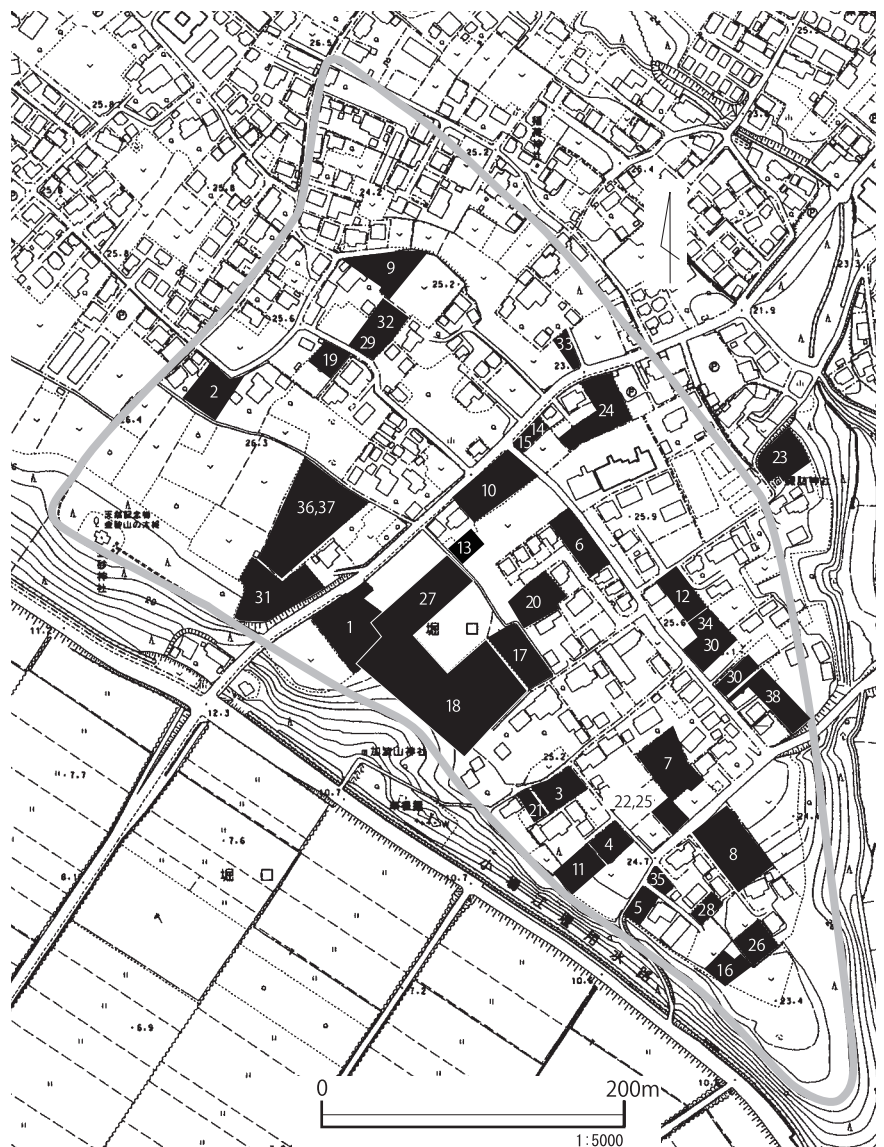
材質：口縁部10% 法量：口径(17.4)、高(6.0) 色調：内外面ともにぶい橙色。胎土：砂(白多、透多、黒少) 焼成：良好 技法等：外面口縁部上位ヨコナデ、下位指押圧、胴部ヘラ削り後ヘラナデ。内面ヘラナデ。使用痕：- 備考：-

2 台帳：7トレンチ12住 材質：土師器 器種：壺 残存：口縁部20% 法量：口径(17.1)、高(5.9) 色調：外面暗褐色。内面明褐～黒色。胎土：礫(白微)、砂(白多、透多) 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。二重口縁。使用痕：- 備考：-

3 台帳：6トレンチ20住 材質：土師器 器種：高杯 残存：杯部20% 法量：高(4.3) 色調：外面浅黄橙色。内面橙色。胎土：砂(白多、透多、灰微) 焼成：良好 技法等：外面ヘラナデ。内面ヘラミガキ。外面鏝を張り付け。使用痕：- 備考：-

4 台帳：6トレンチ西側 材質：土師器 器種：高杯 残存：脚柱部100% 法量：高(9.1) 色調：内外面とも暗赤褐～橙～ぶい橙色。胎土：砂(白少、透多) 焼成：良好 技法等：外面杯部・底部ヘラナデ、脚柱部ヘラミガキ。内面ヘラナデ・ナデ。使用痕：- 備考：-

5 台帳：1トレンチ14住 材質：土師器 器種：高杯 残存：脚柱部80% 法量：高(8.5) 色調：外面橙色。内面赤橙色。胎土：砂(白多、透多、黒少) 焼成：良好 技法等：外面ヘラナデ。内面上位しぼり痕、



第21図 堀口遺跡の調査地点(数字は調査次数)

第7表 堀口遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1979	勝田市教委	本調査	住居17(十王台1,古墳中期3,古墳後期2,奈良4,平安3,時期不明4)	1
2	1979	勝田市教委	本調査	住居2(平安)	2
3	1983	勝田市教委	本調査	住居3(古墳中期1,古墳後期1,平安1)	3
4	1984	勝田市教委	本調査	住居2(古墳1,時期不明1)	4
5	1985	勝田市教委	本調査	住居4(古墳中期1,平安2,時期不明1)	5
6	1992	勝田市教委	本調査	住居2(古墳中期1,奈良1)	6
7	1993	勝田市教委	本調査	住居8(十王台1,古墳中期4,古墳後期1,平安2)	7
8	1996	市教委	本調査	住居6(古墳前期2,古墳中期2,奈良1,平安1)	8
9	2006	市教委	試掘	なし	9
10	2007	市教委	本調査	住居7(古墳前期1,古墳後期1,奈良1,平安4)	10
11	2008	公社	試掘	住居2(奈良・平安1,時期不明1),溝1	11
12	2008	公社	試掘	住居25(弥生中期1,古墳8,奈良・平安2,不明14),土坑3(古墳2,時期不明1),溝1	11
13	2013	公社	試掘	住居2(古墳)	12
14	2013	公社	試掘	住居2(古墳中期1,平安1),溝2	12
15	2013	公社	本調査	住居4(古墳中期1,古墳後期1,平安2),溝1	13
16	2014	公社	試掘	住居1(平安),堀1	13
17	2014	公社	試掘	住居16(弥生1,古墳4,時期不明11),土坑2	14
18	2015	公社	試掘	住居120(弥生3,古墳20,奈良5,平安9,時期不明83),土坑14,土壌墓2,溝2	14
19	2015	公社	試掘	住居1(時期不明)	14
20	2015	公社	試掘	住居5(古墳),土坑5	14
21	2015	公社	試掘	なし	14
22	2015	公社	試掘	住居6(古墳3,平安2,時期不明1)	15
23	2015	公社	試掘	住居1(古墳)	15
24	2015	公社	試掘	住居2(時期不明)	15
25	2016	公社	本調査	住居9(弥生2,古墳4,平安3)	15
26	2016	公社	試掘	なし	15
27	2016	関東文化財振興会	本調査	住居25(弥生2,古墳12,奈良・平安11),掘立1(時期不明),土坑43(奈良・平安9,時期不明34)	18
28	2016	公社	試掘	なし	15
29	2018	公社	試掘	住居8(古墳3,奈良・平安4,時期不明1)	16
30	2019	公社	試掘	住居2(時期不明),溝1	17
31	2020	公社	試掘	住居35(弥生6,古墳17,奈良・平安8,時期不明4),溝1,土坑26	19
32	2020	公社	本調査	住居3(奈良・平安2,時期不明1)	19
33	2020	公社	試掘	なし	19
34	2020	公社	本調査	住居1(古墳),溝1,土坑3	19
35	2020	公社	試掘	土坑1	19

文献

- 1 茨城県勝田市堀口遺跡発掘調査報告書
- 2 市内遺跡発掘調査報告書(昭和54年度)
- 3 市内遺跡発掘調査報告書(昭和58年度)
- 4 市内遺跡発掘調査報告書(昭和59年度)
- 5 市内遺跡発掘調査報告書(昭和60年度)
- 6 平成4年度市内遺跡発掘調査報告書
- 7 平成5年度市内遺跡発掘調査報告書
- 8 平成8年度市内遺跡発掘調査報告書
- 9 平成18年度市内遺跡発掘調査報告書
- 10 堀口遺跡発掘調査報告書
- 11 平成20年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 12 平成25年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 13 平成26年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 14 平成27年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 15 平成28年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 16 平成30年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 17 令和元年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 18 堀口遺跡(特別養護老人ホーム建築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書)
- 19 令和2年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

下位ナデ, 底部ヘラナデ。 使用痕: 外面器面が摩滅している。 備考:

6 台帳:1トレンチ14住 材質:土師器 器種:埴 残存:口縁部40%, 胴部70%, 底部100% 法量:口径(8.9), 高7.3, 底径2.0~2.4 色調:内外面ともにぶい黄橙色。 胎土:砂(白少, 透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 中位~胴部中位ヘラナデ, 下位~底部ヘラ削り。内面口縁部上~中位ヨコナデ, 下位ヘラナデ, 胴部上位ナデ, 中位ヘラナデ, 下位ナデ。底部は凹み底。 使用痕:- 備考:-

7 台帳:10トレンチ 材質:土師器 器種:埴 残存:胴~底部80% 法量:高(5.6), 底部3.3 色調:外面浅黄橙~にぶい橙色。内面橙色。 胎土:砂(白多, 透多, 黒微) 焼成:良好 技法等:外面胴部上~中位ヘラ削り後ヘラミガキ, 下位~底部ヘラ削り。内面ヘラナデ? 使用痕:- 備考:画面は摩滅し, 内面は斑状に剥離している。

8 台帳:13トレンチSK1 材質:土師器 器種:杯 残存:20% 法量:口径(17.3), 高(5.5) 色調:外面にぶい黄橙~にぶい黄褐色。内面橙~にぶい黄褐色~黒色。 胎土:砂(白少, 透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 体部ヘラ削り。内面口縁~体部中位, ヨコナデ, 下位ナデ。 使用痕:- 備考:-

9 台帳:9トレンチ6住 材質:ホルンフェルス 種類:砥石 法量:長12.0, 幅2.2, 厚2.9, 重量153.98g 備考:A・B・C・Dの4面が砥面。 備考:「(董青石ホルンフェルス)塊状, 完品質, 暗灰色, 弱い層構造がみられる。石英, 黒雲母, 白雲母, 長石董青石, 原源は泥岩, 外形は自然礫の片岩, 平滑に研磨されたような面を有す」(矢野徳也氏による)

第24図

1 出土位置:9トレンチ6住 材質:須恵器 器種:杯 残存:底部90% 法量:底径6.6 色調:灰色 胎土:礫(白), 砂(白) 特徴:回転ヘラ切り

2 出土位置:9トレンチ6住 材質:須恵器 器種:杯 残存:底部 法量:底径6.9 色調:赤灰色 胎土:礫(白), 砂(白), 骨針微量 特徴:ヘラ切り後底部外面ヘラナデ。底部外面ヘラ記号「×」。

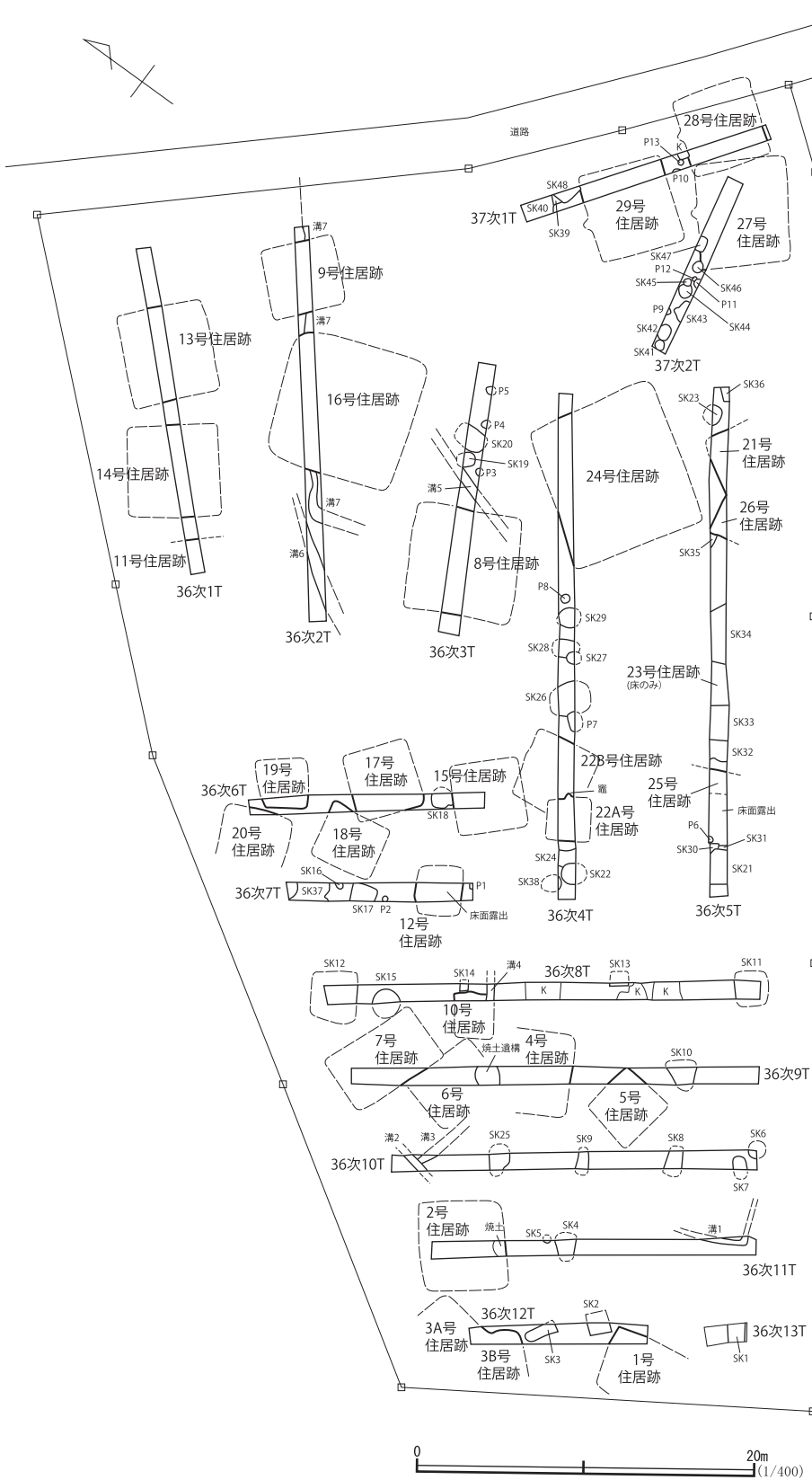
3 出土位置:12トレンチ1住 材質:土師器 器種:甕 残存:口縁部20% 法量:口径(19.0) 色調:橙褐色, 褐色 胎土:礫(白透), 砂(白透多, 白), 白雲母多 特徴:口縁部ヨコナデ。肩部外面ナデ。肩部外面にヘラナデ痕残る。胴部内面ナデ。胴部内面ヘラナデ痕残る。 備考:新治窯付近産

4 出土位置:4トレンチ29土坑 材質:陶器 器種:椀 残存:底部 法量:高台径3.7 特徴:外面体部下に具須で簡略化された若松文を描く。 備考:京・信楽産小杉茶碗(1780~1790年代)

5 出土位置:表採 材質:磁器 器種:椀 残存:底部30% 法量:口径(10.1), 器高5.9, 高台径4.0 特徴:腰部外面に二本圏線を巡らし, そこから上の体部に文様を描く。外面底部外周および高台部外側に一本圏線。内面体部上半に二本圏線間に雷文。腰部内面に一本圏線。見込み中央に文様あり。 備考:肥前産反碗(1830~1870年代)

6 出土位置:11トレンチ 材質:磁器 器種:皿 残存:底部90% 法量:高台径90% 法量:高台径4.5 特徴:内面体部下端二重圏線。底部内面重ね焼き痕。高台設置面露胎。 備考:肥前産染付輪髹皿か(17世紀前半~18世紀)

7 出土位置:6トレンチ17住 材質:磁器 器種:皿 残存:底部外周



第 22 図 堀口遺跡第 36・37 次調査区

30%, 体部 20% 法量: 口径 (3.9), 器高 3.8, 高台径 (8.0) 特徴: 体部外面花文。体部外面唐草文。内面底部周縁に二重圏線。外面腰部および底部周縁に一本圏線。高台外側に二重圏線。備考: 肥前産厚手 U 字高台皿 (1700 ~ 1820 年代)

台式) 器種: 壺形土器 文様: 付加条縄文 (L × L, R × R) 備考: 器内面変色, 3・4 と同一個体

3 出土位置・注記: 2 トレンチ 9 住 時代時期: 弥生時代後期 (十五台式) 器種: 壺形土器 文様: 付加条縄文 (L × L, R × R) 備考: 器内

8 出土位置: 4 トレンチ 材質: 陶器 器種: 二合半徳利 残存: 口縁部欠

失 法量: 底径 6.5 cm 特徴: 外面に「万とく」のへら文字。外面灰釉。

備考: 近代の在産か

9 出土位置: 9 トレンチ 材質: 陶器 器種: 挿鉢 残存: 底部 20% 法量: 底径 (12.6) 色調: 内外面錆釉, 断面明褐色 特徴: 挿目数 7 本, 幅 1.5 cm 備考: 瀬戸・美濃産か

10 出土位置: 6 トレンチ西側 材質: 瓦質土器 器種: 火鉢 残存: 口縁部片 特徴: 口縁部外面に 2 本の隆帯を廻らし, その間に右三巴紋を押印。備考: 幕末~明治頃か

11 出土位置: 表採 材質: 瓦 種類: 軒平瓦 残存: 破片 特徴: 唐草文 備考: 19 世紀以後

12 出土位置: 11 トレンチ 材質: 鉄滓 種類: 鍛冶滓 (椀形滓) 残存: 一部欠失 法量: 883g 特徴: 上下 2 段に椀形滓が重なっており, 下部の滓が一部欠失。

13 出土位置: 9 トレンチ 材質: 鉄滓 種類: 鍛冶滓 (椀形滓) 法量: 重量 136g

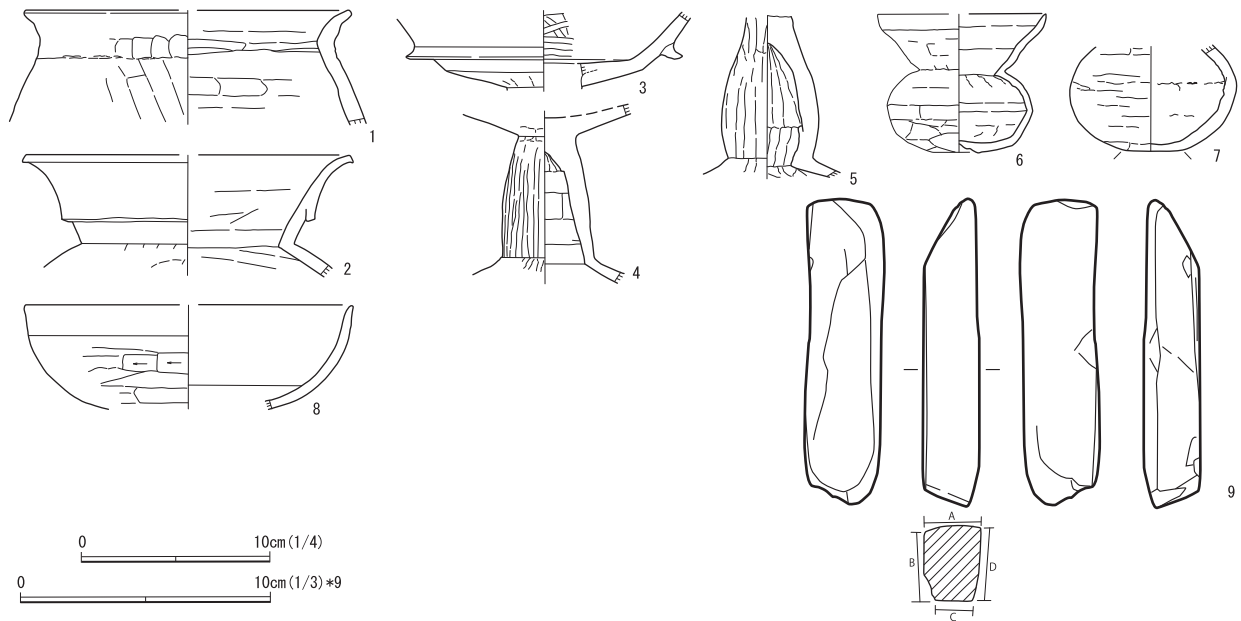
14 出土位置: 1 トレンチ 14 住 材質: 鉄滓 種類: 鍛冶滓 (椀形滓) 残存: 一部欠失 法量: 重量 368g 特徴: 薄い椀形滓が 3 段に重なる

15 出土位置: 表採 材質: 鉄 種類: 艦砲砲弾 残存: 破片 法量: 長 12.8 cm, 重量 948g

#### 第 25 図

1 出土位置・注記: 3 トレンチ 時代時期: 弥生時代後期 (十五台式) 器種: - 文様: 櫛描文 (櫛歯 4 本)

2 出土位置・注記: 2 トレンチ 9 住 時代時期: 弥生時代後期 (十五



第 23 図 堀口遺跡第 36・37 次調査区出土遺物 (1)

面一部変色

4 出土位置・注記：2 トレンチ 9 住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：壺形土器 文様：付加条縄文 (R × R, L × L) 備考：器内面変色，胎土に海綿骨針微量に含む

5 出土位置・注記：表採 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：小型壺形土器カ 文様：付加条縄文 (L × L)，底面調整痕

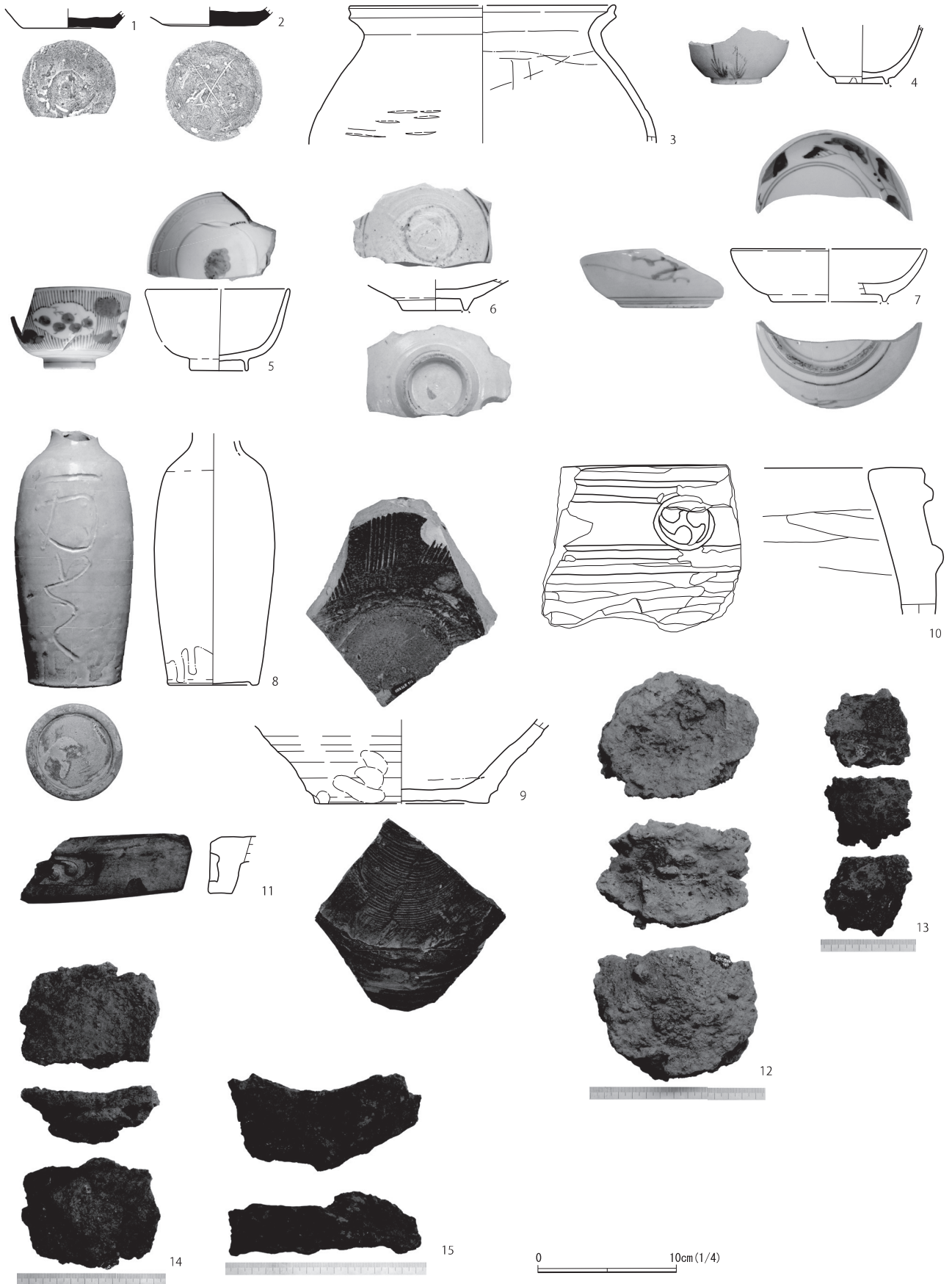
6 出土位置・注記：5 トレンチ 26 住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：高坏形土器 法量：底径 60 mm（残存率 18%）

## (2) 第 38 次調査報告

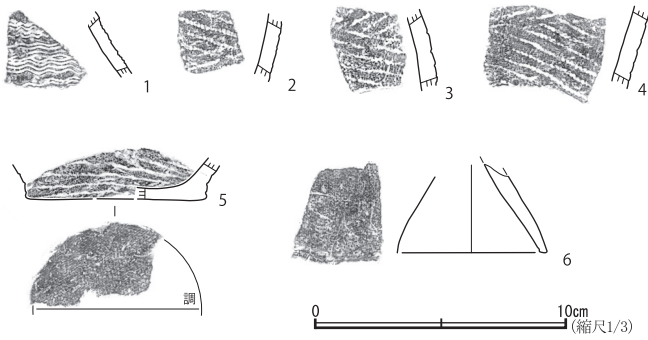
調査地は，那珂川低地から北方に入り込む谷に面する台地縁辺部に位置し，平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。調査は 5 か所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.6～0.9 m を測る。

調査の結果，遺構・遺物ともに確認されなかった。4 トレンチの南端を地表からの深さ 1.2m まで一部深掘りした状況からみると，調査区は全体的に鹿沼パミス層まで削られていると考えられた。おそらく旧地表から 2 m ぐらい削っているのではないだろうか。掘削後，120cm 以上の盛土がなされている。

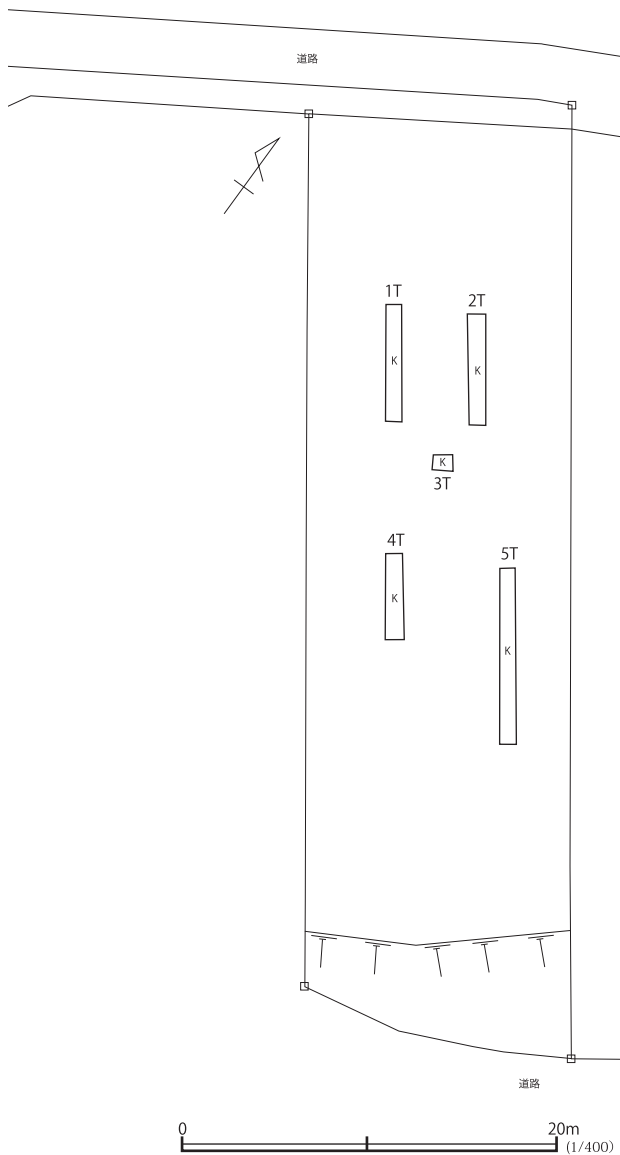




第 24 図 堀口遺跡第 36・37 次調査区出土遺物 (2)



第 25 図 堀口遺跡第 36・37 次調査区出土遺物 (3)



第 26 図 堀口遺跡第 38 次調査区

## 6 市毛下坪遺跡

### (1) 第 21 次調査報告

調査地は、那珂川低地に面する台地縁辺から 400 m ほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は荒地であった。調査は 7 か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.8 ~ 1.1 m を測る。

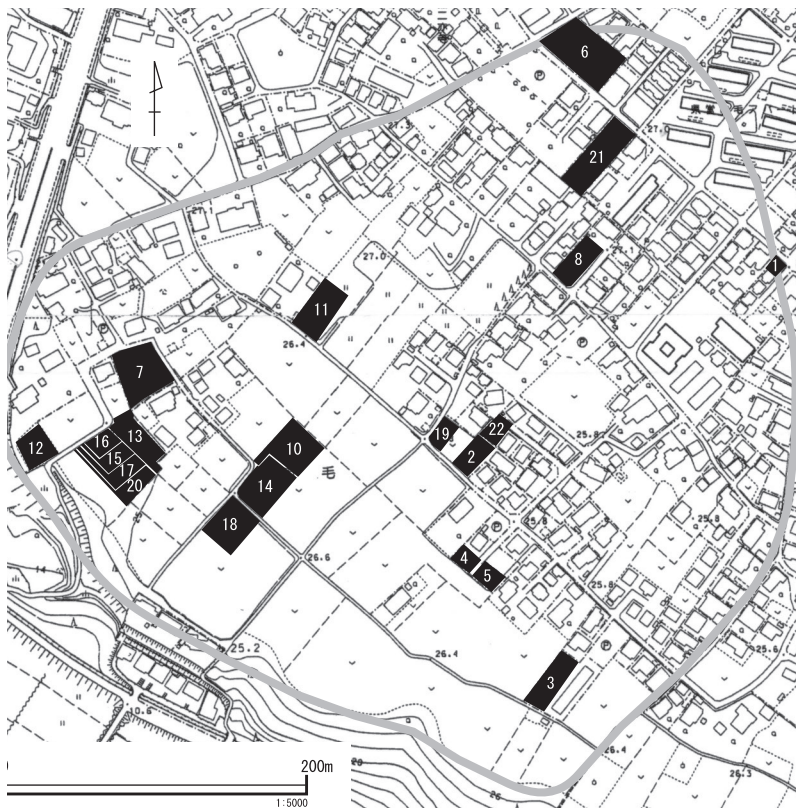
調査の結果、住居跡 5 基、土坑 2 基、溝跡 2 条、ピット 15 基を確認した。出土遺物から 2・4 号住居跡が奈良・平安時代と考えられる。その他の住居跡は出土遺物が少ないため時期不明である。溝跡、土坑、ピットも時期不明である。調査区からは、土師器、須恵器片が少量出土

第 8 表 市毛下坪遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1985	勝田市教委	本調査	土坑 1 (時期不明)	1
2	1987	勝田市教委	本調査	溝 1 (9 世紀)	2
3	1987	勝田市教委	本調査	住居 1 (8 世紀), 溝 2 (時期不明)	2
4	1989	勝田市教委	本調査	住居 1 (9 世紀), 溝 1 (時期不明)	3
5	1989	勝田市教委	本調査	溝 2 (時期不明)	3
6	1989	勝田市教委	本調査	住居 2 (8 世紀), 溝 2 (時期不明)	3
7	1991	勝田市教委	本調査	住居 3 (古墳後期 2, 9 世紀 1)	4
8	1993	勝田市教委	試掘調査	なし	5
9	2006	市教委	試掘調査	なし	なし
10	2012	公社	試掘	住居 3 (9 世紀), 溝 5・土坑 1・ピット 5 (時期不明)	6
11	2014	公社	試掘	住居 4 (平安), 溝 1	7
12	2016	公社	試掘	土坑 4 (近世 2, 時期不明 2)	8
13	2017	公社	試掘	住居 4 (古墳 3, 平安 1)	9
14	2018	公社	試掘	住居 6 (平安), 溝 1・土坑 3	10
15	2018	公社	試掘	溝 1	10
16	2018	公社	試掘	なし	10
17	2018	公社	試掘	溝 1	10
18	2018	公社	試掘	住居 4 (平安 1, 時期不明 3), 溝 5	11
19	2019	公社	試掘	住居 1 (時期不明)	11
20	2020	公社	試掘	住居 4 (平安), 溝 1	12

#### 文献

- 1 昭和 60 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 2 昭和 62 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成元年度勝田市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成 3 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 5 平成 5 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 6 平成 24 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 7 平成 26 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 8 平成 28 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 9 平成 29 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 10 平成 30 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 11 令和元年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 12 令和 2 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第27図 市毛下坪遺跡の調査地点（数字は調査回数）

した。

(2) 第22次調査報告

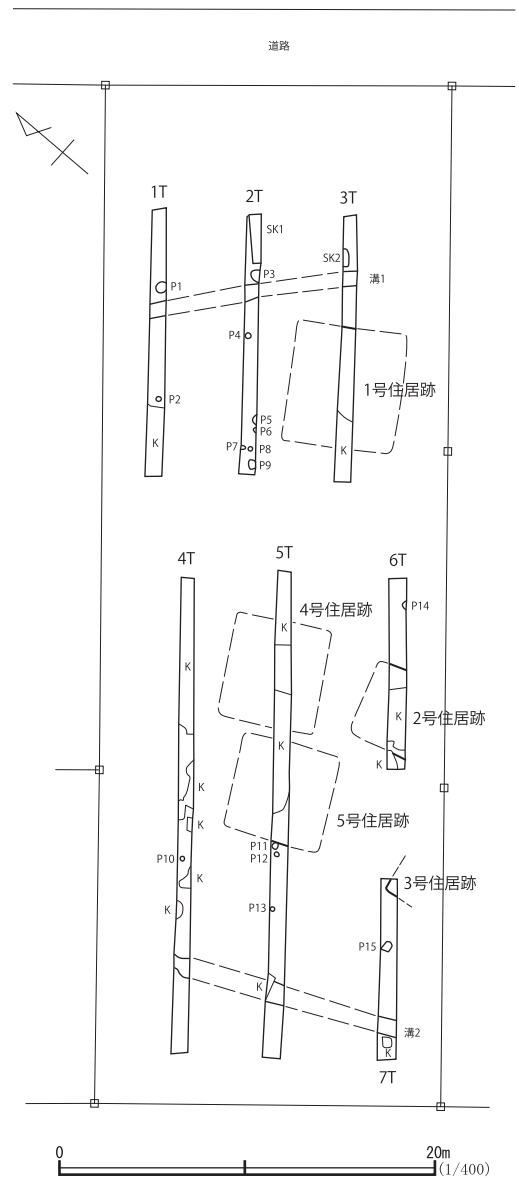
調査地は、那珂川低地に面する台地縁辺から210mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。調査は8か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは1.3～1.4mを測るが、ローム上面までは達しておらず、黒色土中での遺構確認となった。

調査の結果、遺構は確認されなかった。調査区からは、土師器、須恵器片が少量出土した。

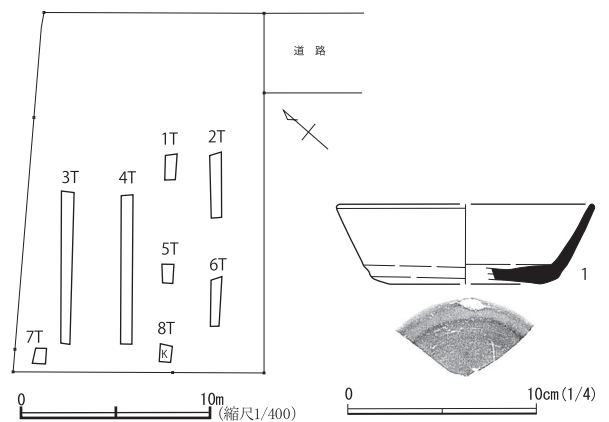
遺物説明

第29図

1 出土位置：1トレンチ 材質：須恵器 器種：杯 残存：20% 法量：口径(13.4)、器高4.2、底径(9.8) 色調：灰色 胎土：砂(白少、透微量) 技法等：底部外面(基本的底部面)回転へら削り。底部外面へら記号。口唇部、外面底部周縁、内面底部が摩滅する。



第28図 市毛下坪遺跡第21次調査区



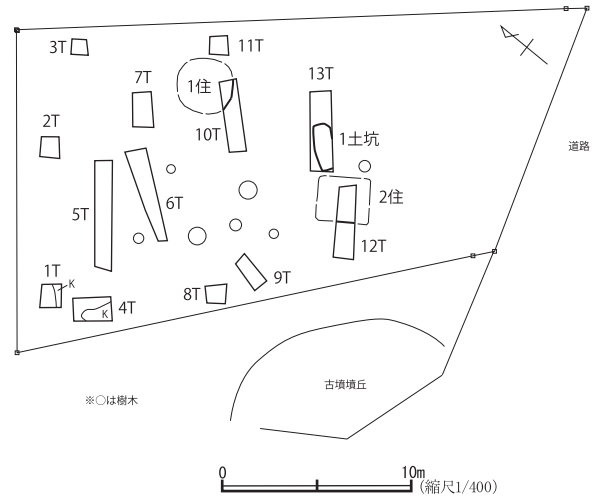
第29図 市毛下坪遺跡第22次調査区と出土遺物

## 7 勝倉古墳群・勝倉富士山遺跡

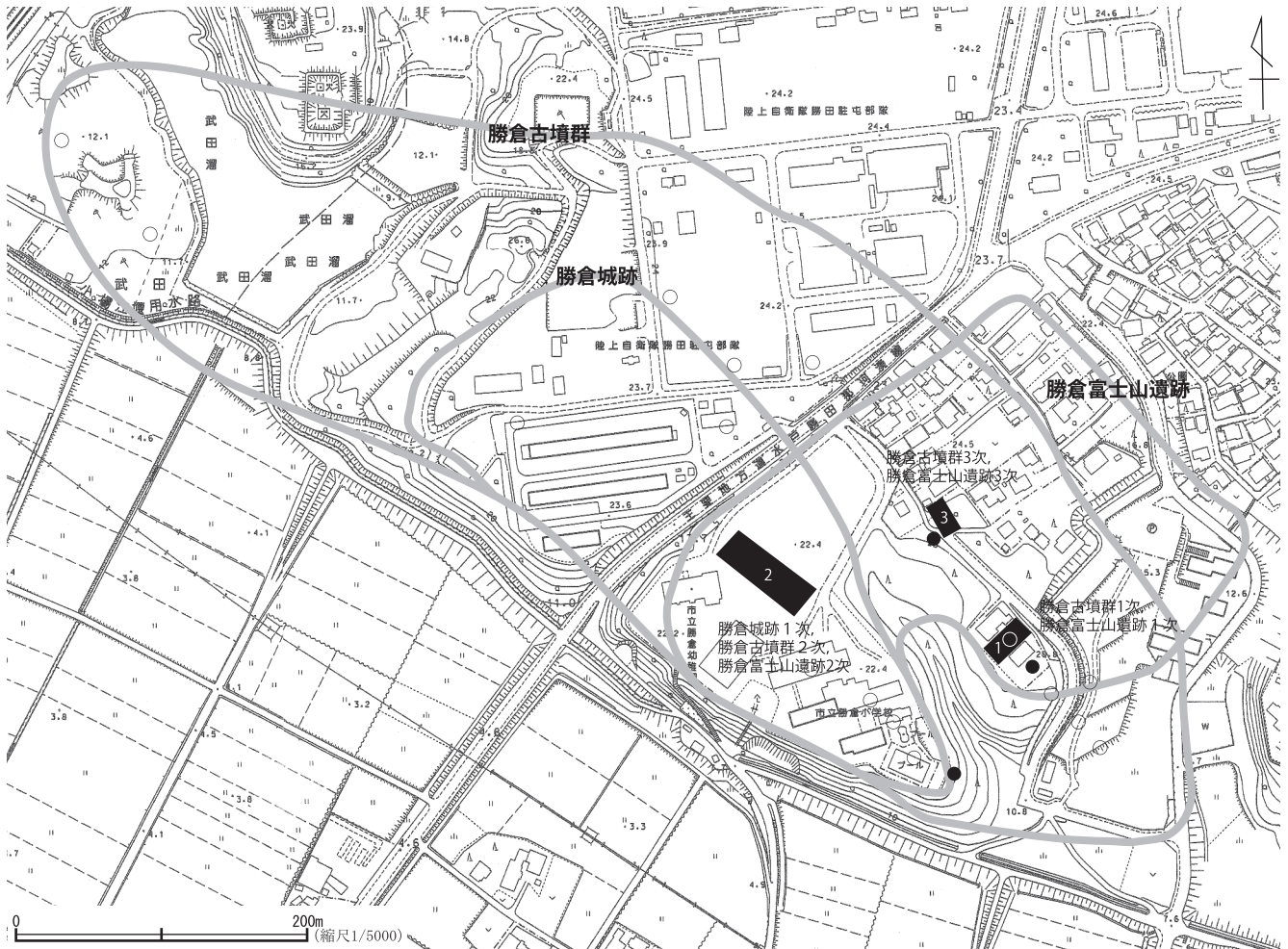
### (1) 勝倉古墳群第3次・勝倉富士山遺跡第3次調査報告

調査地は、那珂川低地から北西方向に伸びる小さな谷の谷奥部北側に位置し、調査区は平坦な地形を呈するが、そこから南側は谷に向けてゆるく傾斜している。ちょうどその傾斜変換点に位置する調査区隣接地に道路で大きく削られた古墳（円墳か）が残る。墳丘径は13 m程度であろう。調査区は調査時は林地であった。調査は13か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.4～0.8 mを測る。

調査の結果、住居跡2基、土坑1基を確認した。出土遺物から住居跡は弥生時代と考えられる。長方形の土坑は出土遺物が少ないため時期不明であるが、覆土が住居跡と共通する黒褐色土を主体とするため、弥生時代に



第31図 勝倉古墳群第3次・勝倉富士山遺跡第3次調査区



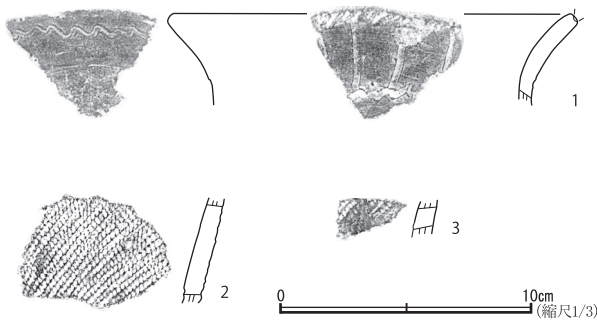
第30図 勝倉古墳群・勝倉富士山遺跡の調査地点（調査区の数字は調査の順番、●は現存する古墳、○は湮滅した古墳を示す。）

第9表 勝倉古墳群・勝倉富士山遺跡・勝倉城跡調査一覧

調査順	調査回数	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	勝倉古墳群1次、勝倉富士山遺跡1次	1997	市教委	試掘	古墳周溝1	1
2	勝倉城跡1次、勝倉古墳群2次、勝倉富士山遺跡2次	2015	公社	試掘	勝倉城堀跡1（中世）、土坑1（縄文）	2

文献

- 平成9年度市内遺跡発掘調査報告書
- 平成27年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第32図 勝倉古墳群第3次・勝倉富士山遺跡第3次調査区出土遺物

なる可能性もあろう。調査区からは、弥生土器片、須恵器片が出土した。須恵器片は古墳時代の可能性があり、古墳と関係する資料かもしれない。

### 遺物説明

第32図

- 1 出土位置・注記：12トレンチ 時代時期：弥生時代中期 器種：甕形土器 法量：口径162mm（残存率12%） 文様：口唇部付加条縄文（LR+2R）、器内外面の口縁部沈線文（竹管カ）
- 2 出土位置・注記：12トレンチ 時代時期：弥生時代中期 器種：— 文様：単節斜縄文（LR）
- 3 出土位置・注記：13トレンチSK1 時代時期：弥生時代中期 器種：— 文様：単節斜縄文（LR） 備考：胎土に海綿骨針含む

## 8 市毛本郷坪遺跡

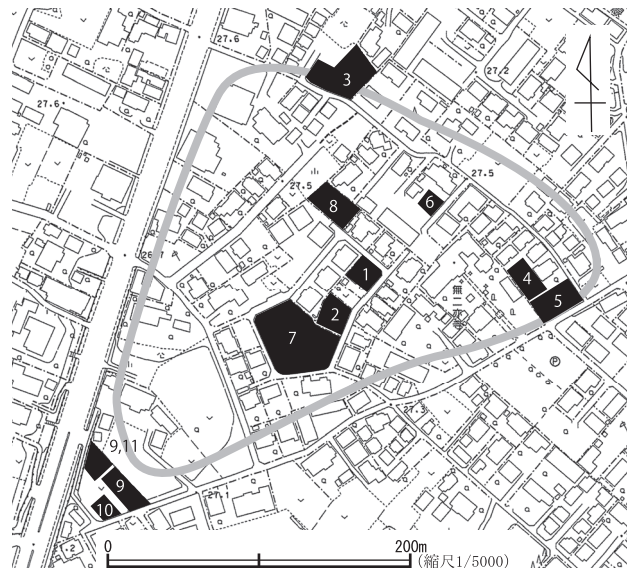
### (1) 第10次調査報告

調査地は、那珂川低地から北方へ入り込む小さな谷（現在は国道6号線となる。）を望む台地上に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は8か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.5m～0.9mを測る。調査の結果、住居跡は4基確認された。出土遺物から、2号住居跡が古墳時代後期と考えられ、それ以外の住居跡は時期不明である。1・2号土坑は深さが60cm以上あることから、井戸の可能性があり、2号土坑からは7世紀後半の須恵器杯が出土している。調査区からは土師器片・須恵器片が出土している。

### 遺物説明

第35図

- 1 出土位置：6トレンチ2号土坑 注記：— 材質：須恵器 器種：杯 残存：底部40%、体部30% 法量：口径（9.8）、器高3.6、底径（8.2） 色調：明灰色 胎土：砂（白、透） 技法等：回転へら切り。底部中央に板状圧痕。底部外面やや磨滅。 備考：産地不明
- 2 出土位置：5トレンチ3号土坑 注記：— 材質：須恵器 器種：甕



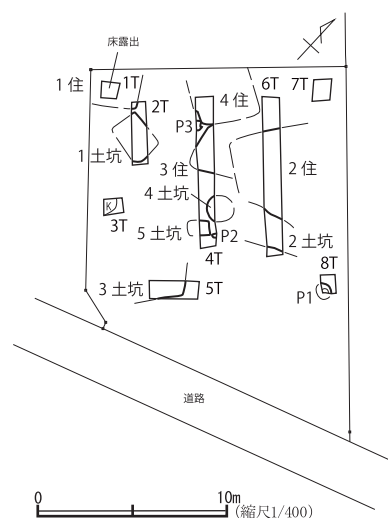
第33図 市毛本郷坪遺跡の調査地点（数字は調査回数）

第10表 市毛本郷坪遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1980	勝田市教委	本調査	住居2（古墳1、平安1）	1
2	1980	勝田市教委	本調査	住居1（古墳）、土坑3、溝1	1
3	1987	勝田市教委	本調査	住居3（平安）、土坑2	2
4	1989	勝田市教委	本調査	住居1（古墳）	3
5	1990	勝田市教委	本調査	住居1（奈良）	4
6	1994	市教委	本調査	溝1	5
7	2016	公社	試掘	住居跡10（奈良・平安）、土坑1、溝1	6
8	2016	公社	試掘	住居跡4（奈良・平安）	6
9	2018	公社	試掘	住居跡11（古墳、平安、時期不明）土坑2、溝1	7

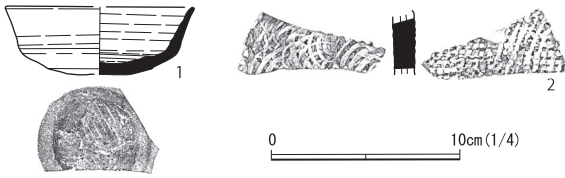
### 文献

- 1 市内遺跡発掘調査報告書
- 2 昭和62年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成元年度市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成2年度市内遺跡発掘調査報告書
- 5 平成6年度市内遺跡発掘調査報告書
- 6 平成28年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 7 平成30年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

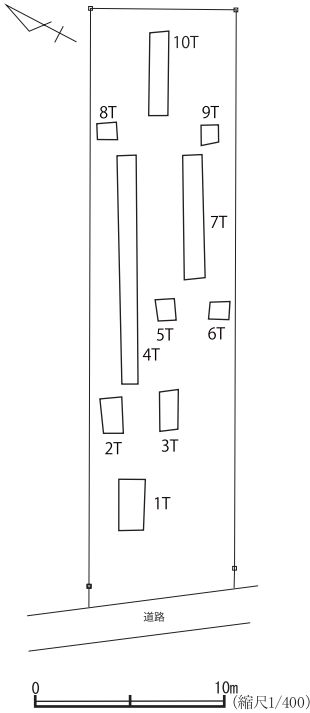


第34図 市毛本郷坪遺跡第10次調査区

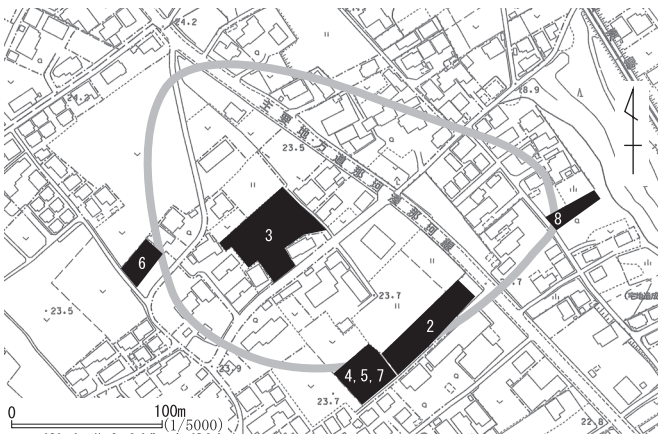
残存：胴部片 法量：— 色調：灰色 胎土：— 技法等：外面格子文叩き、内面同心円文当て具痕。焼成硬質。 備考：産地不明



第 35 図 市毛本郷坪遺跡第 10 次調査区出土遺物



第 36 図 平井遺跡第 8 次調査区



第 37 図 平井遺跡の調査地点 (数字は調査回数)

第 11 表 平井遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	2002	市教委	本調査	住居 1	なし
2	2014	公社	試掘	住居 1 (縄文), 溝 1	1
3	2015	公社	試掘	溝 2, 土坑 2	2
4・5・7	2020	公社	試掘	住居 2 (平安), 溝 1, 土坑 3	3
6	2020	公社	試掘	住居 1 (時期不明), 溝 1	3

文献

- 1 平成 26 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 2 平成 27 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 3 令和 2 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

## 10 本郷東遺跡

### (1) 第 7 次調査報告

調査地は、本郷川の低地から北東方向へ入り込む小さな谷の谷頭付近に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は荒地であった。調査は 12 か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.5 ~ 0.7 m を測る。調査の結果、住居跡 1 基、溝跡 1 条、ピット 3 基が確認された。いずれの遺構も出土遺物はないため時期は不明である。調査区からは、縄文土器片・近代の陶器、石器が出土している。



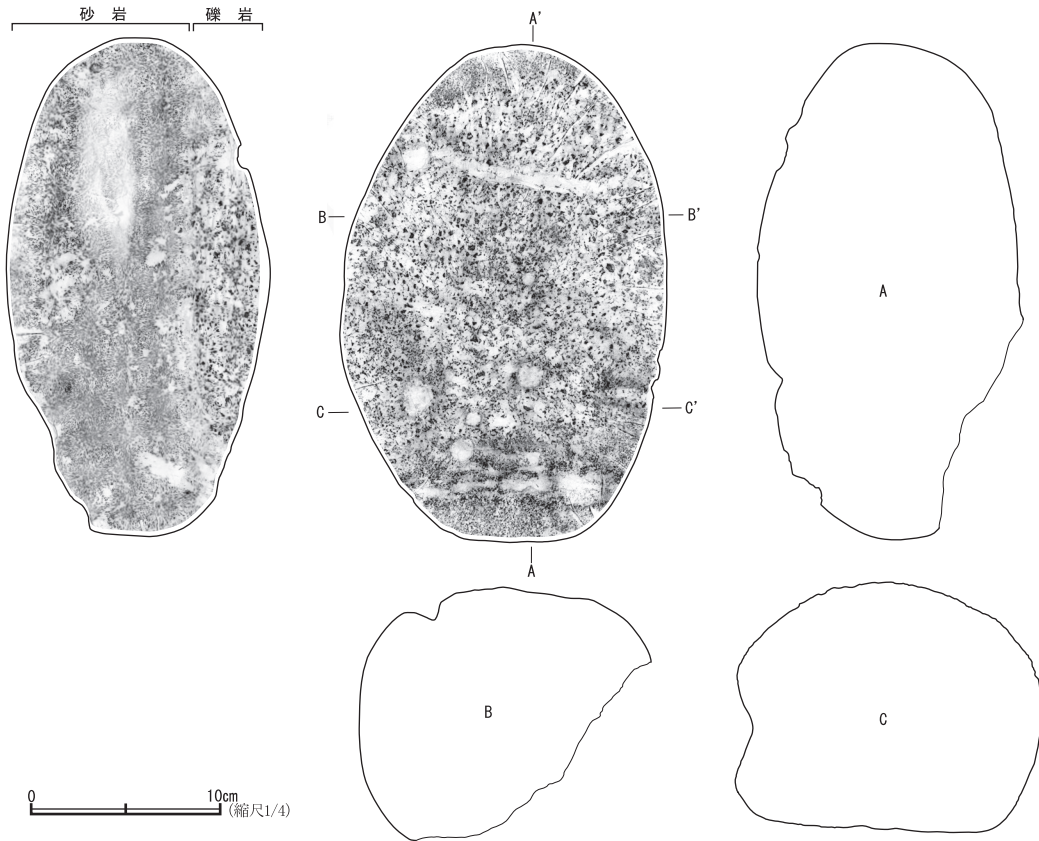
第 38 図 本郷東遺跡の調査地点 (数字は調査回数)

第 12 表 本郷東遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	2010	公社	試掘	住居跡 6 (古墳), 土坑 1	1
2	2010	公社	試掘	住居跡 2 (弥生 1, 不明 1), ピット 26	1
3	2010	公社	本調査	住居跡 1 (古墳)	1
4	2016	公社	試掘	住居跡 3 (古墳 2, 奈良・平安 1)	2
5	2016	公社	本調査	住居跡 4 (古墳 3, 不明 1)	2
6	2017	公社	試掘	なし	3

文献

- 1 平成 22 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 2 平成 28 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成 29 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

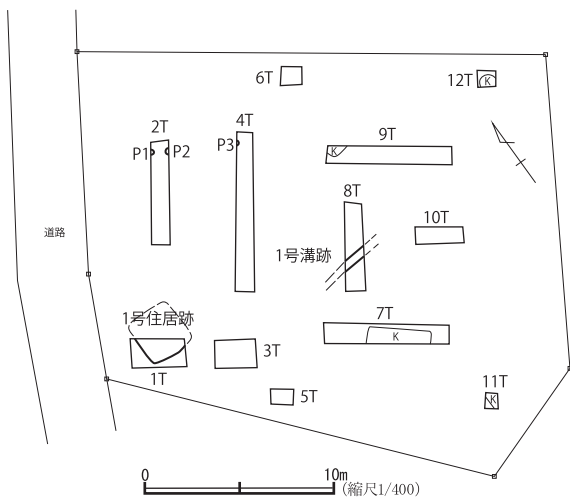


第 39 図 本郷東遺跡第 7 次調査区出土遺物

## 11 勝倉若宮遺跡

### (1) 第 6 次調査報告

調査地は、那珂川低地から北方に入り込む小さな谷の谷頭に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は 1 か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.7 m を測る。調

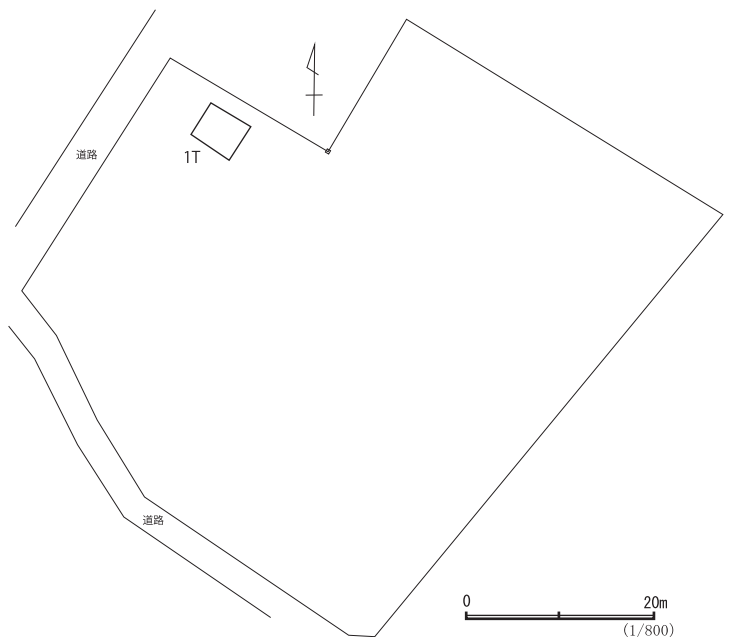


第 40 図 本郷東遺跡第 7 次調査区

### 遺物説明

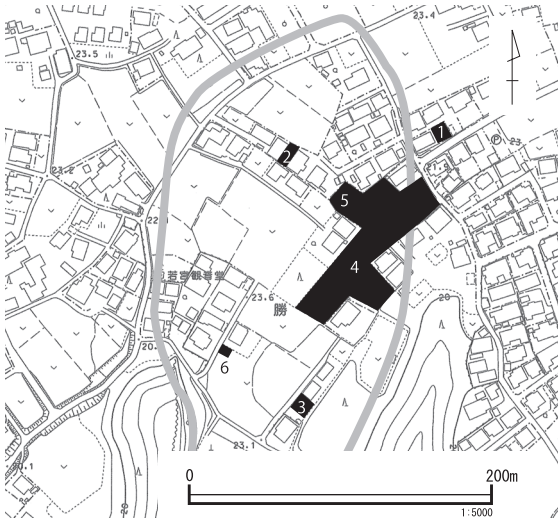
第 39 図

1 出土位置・注記：6 トレンチ 時代時期：縄文時代カ 器種：凹石・砥石 石材：礫岩・アルコース質中粒砂岩 法量：長 26.3 cm、幅 17.3 cm、高 13.6 cm、重量 7.7 kg 備考：石材が礫岩と砂岩に別れ、礫岩が砂岩を侵食しているため層位では礫岩が上位（矢野徳也氏による）。石器の表面礫部の部分には、4 か所の凹み、さらに横位には溝が 2 本上下にある。砂岩の側部には砥面があり、この石器は凹石のほか、砥石など様々な用途に使用された痕跡が残る。



第 41 図 勝倉若宮遺跡第 6 次調査区

査の結果、遺構・遺物は確認されなかった。



第 42 図 勝倉若宮遺跡の調査地点 (数字は調査回数)

第 13 表 勝倉若宮遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1984	勝田市教委	試掘	なし	1
2	1985	勝田市教委	本調査	住居跡 3 (弥生後期 1, 古墳前期 1, 平安 1)	2
3	1987	勝田市教委	本調査	住居跡 1 (奈良・平安)	3
4	2014	公社	試掘	住居跡 10 (古墳 4, 奈良・平安 6), 溝 3, ビット 1	4
5	2017	公社	本調査	住居跡 2 (古墳 1, 平安 1), 土坑 1, ビット 1	5

文献

- 1 昭和 59 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 2 昭和 60 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 昭和 62 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成 26 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 5 平成 29 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第 43 図 大成町遺跡・殿塚古墳群・大平 C 遺跡の調査地点 (○印は墳丘が失われた古墳の推定位置)

第 14 表 殿塚古墳群調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1959	大森信英	本調査	円墳 1 (横穴式石室, 線刻あり)	1
2	1989	勝田市教委	試掘	不明	なし
3	1993	勝田市教委	本調査	円墳 1 (1 号墳)	2
4	2007	市教委	試掘	円墳 1 (1 号墳)	3

文献

- 1 勝田市津田・西山古墳群調査報告
- 2 平成 5 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成 19 年度市内遺跡発掘調査報告書

## 12 大成町遺跡・殿塚古墳群・大平 C 遺跡

### (1) 大成町遺跡第 1 次・殿塚古墳群第 5 次調査報告

調査地は、中丸川低地を望む台地縁辺部付近に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。調査は 16 か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.3 ~ 0.8 m を測る。調査の結果、古墳 1 基 (周溝部)、土坑 1 基、溝 1 条が確認された。出土遺物はないため、いずれの遺構も時期は不明である。

確認された古墳は、地権者である川崎純徳氏からのご教示や、昭和 20 年撮影の航空写真 (『茨城県大平古

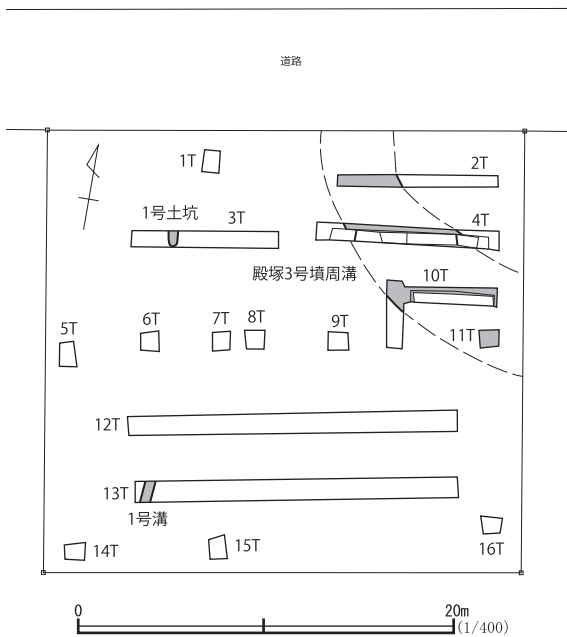
第 15 表 大平 C 遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1985	勝田市教委	本調査	住居跡 1 (古墳後期)、土坑 1	1
2	1985	勝田市教委	本調査	住居跡 1 (古墳中期)	1
3	1988	勝田市教委	試掘	なし	2
4	1992	勝田市教委	試掘	住居跡 1 (時期不明)、土坑 1	3
5	2003	市教委	本調査	古墳周溝 1	4
6	2005	市教委	本調査	住居跡 1 (古墳後期)	5

文献

- 1 昭和 60 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 2 昭和 63 年度勝田市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成 4 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成 15 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 5 平成 17 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書





第 44 図 大成町遺跡第 1 次・殿塚古墳群第 5 次調査区



第 45 図 姫塚古墳 (殿塚 3 号墳) 位置復元案  
(背景写真は Google マップから引用)

墳』所収)などを参考にすると、線刻壁画を有していた殿塚古墳(旧金上古墳)の南東部に所在した姫塚古墳(殿塚3号墳とする。)と推定される。今回の調査状況からみて径25mほどの円墳が復元できる。いずれの古墳も昭和30年代の付近一帯の造成工事により削平されてしまったが、今回の試掘調査により姫塚古墳の位置が判明したことで、殿塚古墳のより詳細な位置が推定できたことは重要な成果といえよう。

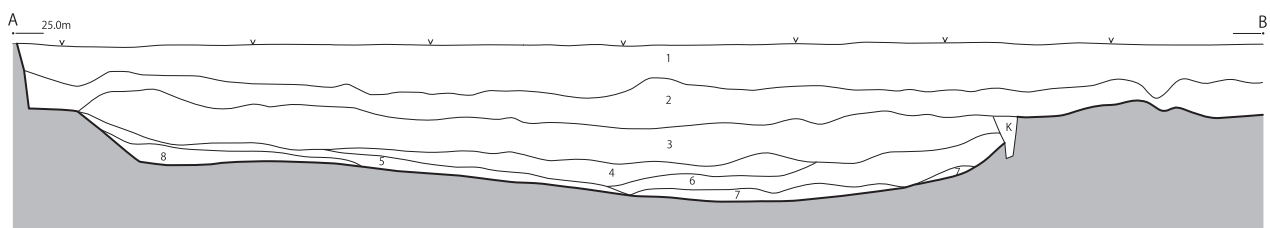
## (2) 大平 C 遺跡第 7 次・殿塚古墳群第 6 次調査報告

調査地は、中丸川低地を望む台地縁辺部付近に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。調査は10か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.5～0.9mを測る。調査の結果、住居跡が2基確認された。1号住居跡から弥生土器、2号住居跡から土師器が出土しており、それぞれ弥生時代と古墳時代の住居跡と考えられる。調査区からは、縄文土器、石製模造品が出土した。

### 遺物説明

第 47 図

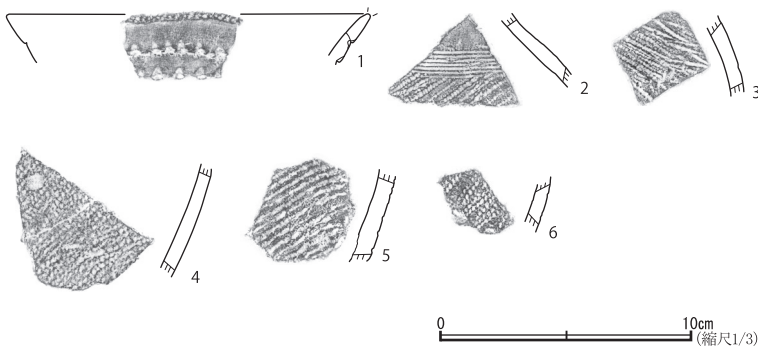
- 1 出土位置・注記：3トレンチ1住 時代時期：弥生時代後期(松原式カ) 器種：中型壺形土器カ 法量：口径144mm(残存率10%) 文様：口唇部縄文(LRカ)、口縁部刺突文(棒状工具) 備考：器内外面変色、遺物番号2と3同一個体カ
- 2 出土位置・注記：3トレンチ1住 時代時期：弥生時代後期(松原式カ) 器種：壺形土器カ 文様：櫛描文(多条櫛目7本)、付加条縄文(LR+R、軸縄3本カ) 備考：器外面一部変色、炭化物付着
- 3 出土位置・注記：3トレンチ1住 時代時期：弥生時代後期 器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文(LR+R、軸縄3本カ)
- 4 出土位置・注記：3トレンチ1住 時代時期：弥生時代後期 器種：壺形土器カ 文様：単節斜縄文(LR)カ
- 5 出土位置・注記：3トレンチ1住 時代時期：弥生時代後期 器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文(R-Sカ)
- 6 出土位置・注記：3トレンチ1住 時代時期：弥生時代後期 器種：



- 土層説明**
- |                              |                    |
|------------------------------|--------------------|
| 2 褐色(ローム粒多量含む ローム小ブロック含む 表土) | 5 明褐色(ローム土多量混じる)   |
| 3 黒褐色(ロームブロック少量含む 黒ボク土多量混じる) | 6 黒褐色(ローム粒含む)      |
| 1 褐色(盛土)                     | 7 明褐色(ロームブロック多量含む) |
| 4 暗褐色                        | 8 黄褐色(ローム土主体)      |



第 46 図 殿塚 3 号墳周溝土層断面

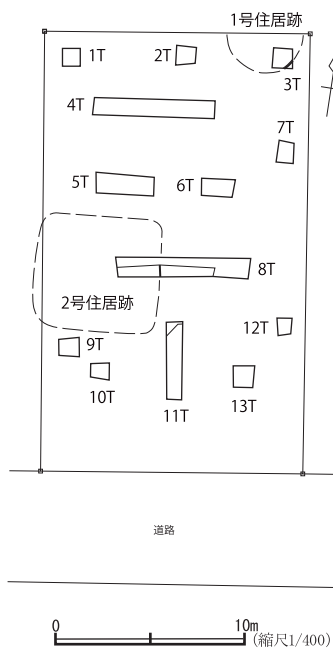


第47図 大平C遺跡第7次・殿塚古墳群第6次調査区

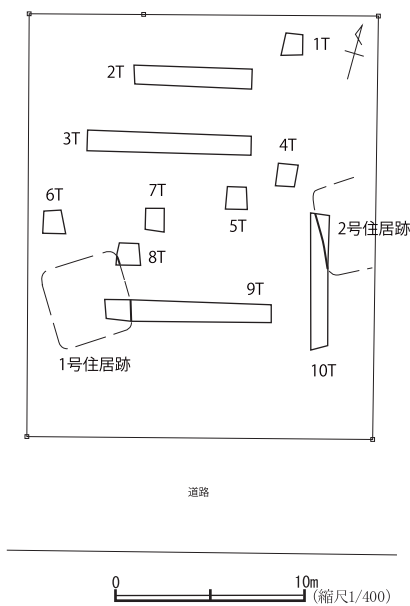
壺形土器カ 文様：付加条縄文(LR+R, 軸縄3本カ)

### (3) 大平C遺跡第8次・殿塚古墳群第7次調査報告

調査地は、中丸川低地を望む台地縁辺部付近に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は10か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.6～0.8mを測る。調査の結果、住居跡が2基確認された。出土遺物はなく時期は不明である。調査区からも遺物は出土しなかった。



第48図 大平C遺跡第7次・殿塚古墳群第6次調査区

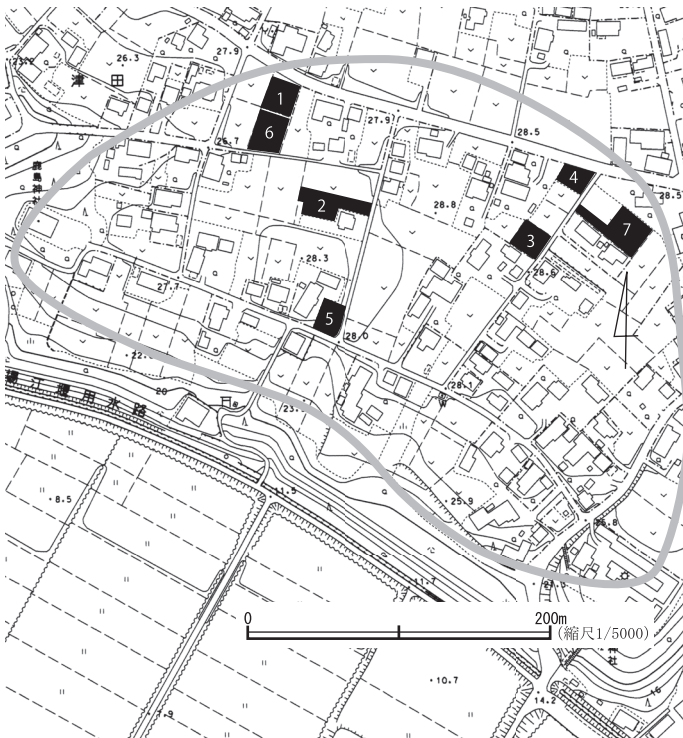


第49図 大平C遺跡第8次・殿塚古墳群第7次調査区

## 13 上馬場遺跡

### (1) 第7次調査報告

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺から230mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は14か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.6～1.1mを測る。調査の結果、時期不明の土坑1基が確認された。調査区からの出土遺物はない。なお調査区はトレンチャーによる攪乱が密に入る状況であった。



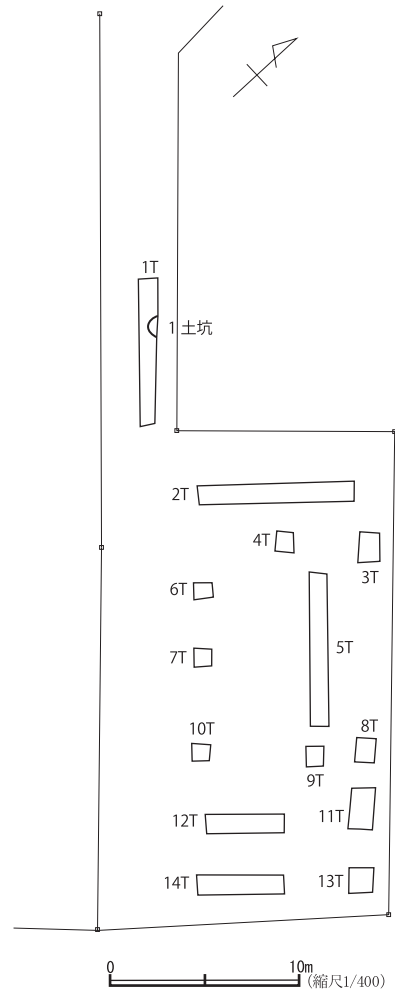
第50図 上馬場遺跡の調査地点（数字は調査回数）

第16表 上馬場遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	主な遺構	文献
1	1979	勝田市教委	本調査	なし	1
2	2008	公社	試掘	なし	2
3	2012	公社	試掘	住居跡3（奈良1、不明2）	3
4	2012	公社	試掘	住居跡1（平安1）、溝3、炭窯1（近代）	3
5	2018	公社	試掘	ビット1	4
6	2020	公社	試掘	ビット1	5

#### 文献

- 1 上馬場遺跡発掘調査報告書
- 2 平成20年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成24年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成30年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 5 令和2年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第51図 上馬場遺跡第7次調査区

## 14 西中根遺跡

### (1) 第6次調査報告

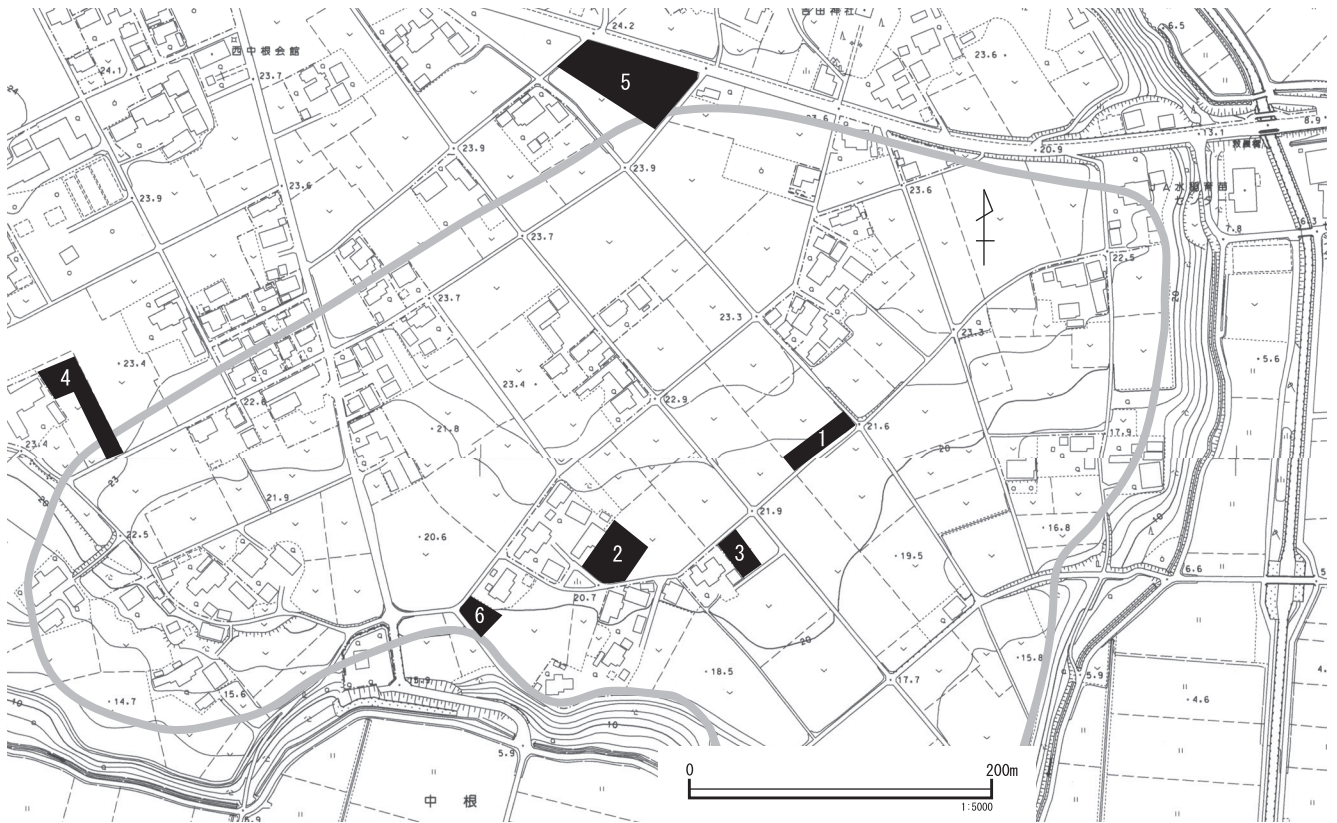
調査地は、中丸川低地を望む台地縁辺から40mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。調査は7か所のトレンチを設定し、重機に

第17表 西中根遺跡調査一覧

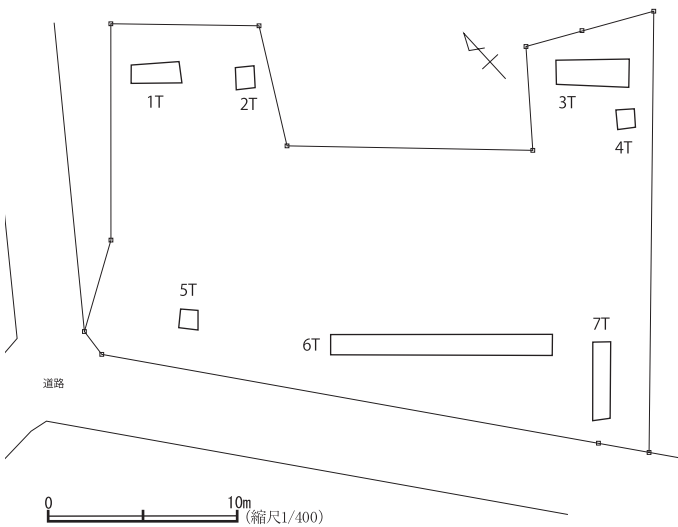
次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1993	勝田市教委	本調査	土坑1	1
2	1999	市教委	本調査	土坑	2
3	2011	公社	試掘	なし	3
4	2017	公社	試掘	住居跡1基（古墳）	4
5	2019	公社	試掘	溝9、土坑1	5

#### 文献

- 1 平成4年度市内遺跡発掘調査報告書
- 2 平成11年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成23年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成29年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 5 令和元年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第52図 西中根遺跡の調査地点（数字は調査回数）



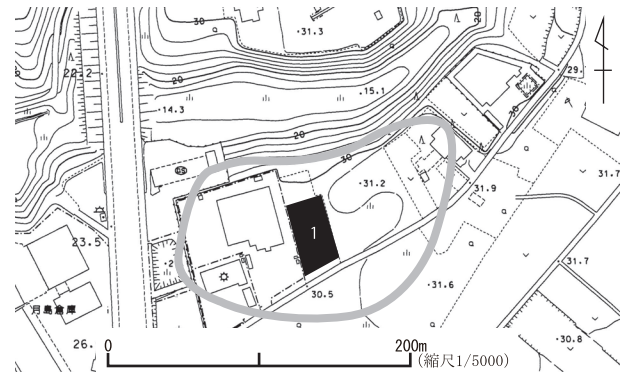
第53図 西中根遺跡第6次調査区

よる表土除去を実施した。確認面までの深さは0.2～0.5mを測る。調査の結果、遺構・遺物ともに確認されなかった。

## 15 部田野路I遺跡

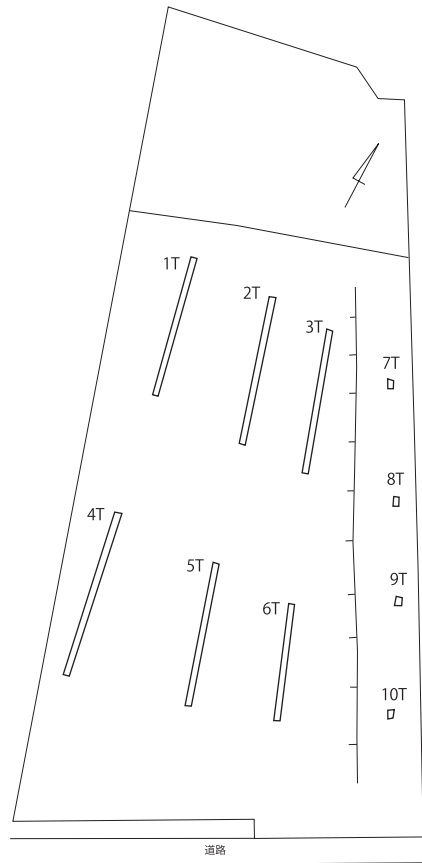
### (1) 第1次調査報告

調査地は、本郷川から東方に入り込む谷に面する台地縁辺部に位置し、調査時は平坦な地形を呈する荒地で



第54図 部田野路I遺跡の調査地点（数字は調査回数）

あった。調査は10か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチ設定の際、隣地に居住している方より、当調査区が20年ほど前に谷を埋め立てて平坦地にされたのご教示いただいたので、全体の様子を見ながら表土除去を進めて行った。その結果、全体的に埋められた場所であることが確認されたため、各トレンチの深さは0.8～1.2mにとどめた。以上のような状況のため、遺構・遺物は確認されなかった。



第55図 部田野狝ノ遺跡第1次調査区

## 16 地蔵根遺跡・勝倉台館跡

### (1) 地蔵根遺跡第5次・勝倉台館跡第2次調査報告

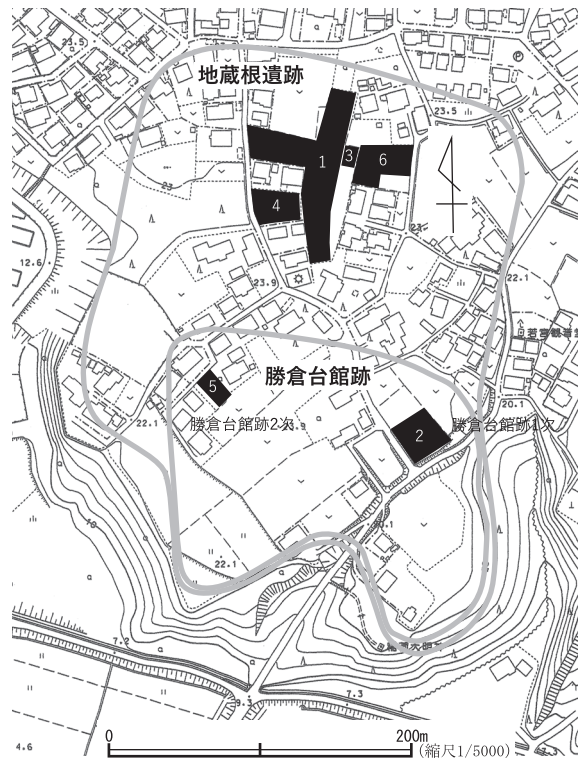
調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺部から80mほど離れた場所に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は8か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.3～0.9mを測る。調査の結果、住居跡5基、溝跡1条を確認した。出土遺物から1号住居跡は平安時代、3号住居跡は古墳時代と考えられる。2・4・5号住居跡、溝跡は出土遺物が少ないため時期不明である。その他調査区からは、弥生土器・土師器・須恵器が出土した。

#### 遺物説明

第58図

1 出土位置：6トレンチ 材質：土師器 器種：有台杯 残存：底部（高台部15%） 法量：高台径（7.5） 色調：明褐色 胎土：黒雲母細片多、骨針少 技法等：底部外面回転ヘラ削り。底部内面一方向ヘラミガキ。高台端部接地面が凹む。高台端部外側が欠ける（使用痕）。

第59図



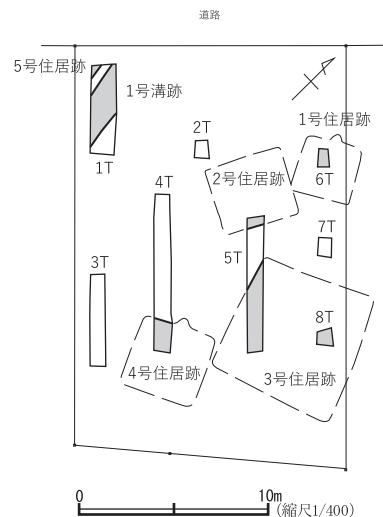
第56図 地蔵根遺跡・勝倉台館跡の調査地点  
(数字は地蔵根遺跡の調査次数)

第18表 地蔵根遺跡調査一覧

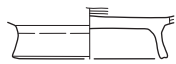
次	調査年度	調査主体	調査種別	主な遺構	文献
1	2015	公社	試掘	住居1（時期不明）、井戸1（近世以後）、溝3	1
2	2016	公社	試掘	住居3（古墳後期1、奈良1、平安1）	2
3	2017	公社	試掘	なし	3
4	2018	公社	試掘	住居2（時期不明）、溝1	3

文献

- 1 平成27年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 2 平成28年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成30年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

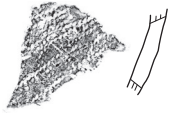


第57図 地蔵根遺跡第5次・勝倉台館跡第2次調査区



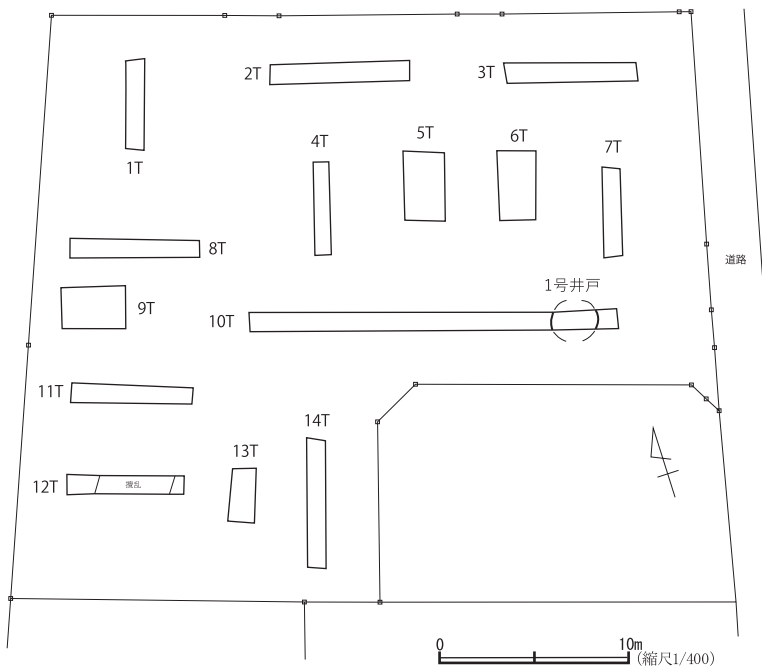
0 10cm (1/4)

第 58 図 地蔵根遺跡第 5 次・勝倉台館跡第 2 次調査区出土遺物 (1)



0 10cm (縮尺1/3)

第 59 図 地蔵根遺跡第 5 次・勝倉台館跡第 2 次調査区出土遺物 (2)



第 60 図 地蔵根遺跡第 6 次調査区

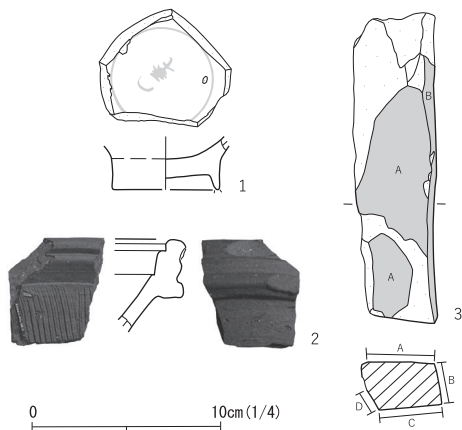
## (2) 地蔵根遺跡第 6 次調査報告

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺部から 250 m ほど離れた場所に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は荒地であった。調査は 14 か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.5 ~ 1.0 m を測る。調査の結果、土坑 1 基を確認し、サブトレンチを入れたところ、かなり深い土坑である可能性がわかった。上層から出土した陶磁器からみると、江戸時代の井戸ではないかと思われた。なお調査区からの出土遺物はなかった。

### 遺物説明

#### 第 61 図

- 1 出土位置：10 トレンチ 1 号井戸 材質：磁器 器種：碗  
残存：底部（高台部 35%） 法量：高台径（5.4） 特徴：  
内面体部下端一本圈線。見込みに銘あり。 備考：肥前産厚  
手碗
- 2 出土位置：10 トレンチ 1 号井戸 材質：陶器 器種：播  
鉢 残存：口縁部片
- 3 出土位置：10 トレンチ 1 号井戸 材質：石 器種：砥石  
残存：大きく欠ける 法量：現存長 16.3、幅 4.0、厚さ 2.5、  
重量 364.4g 特徴：4 面使用 備考：「〈白雲母石英片岩〉  
片状、劈開弱い、褐白色、白雲母、石英、褐色黒雲母、日立  
変成岩大雄院層か、外形に複方向の研磨面を有す」(矢野徳  
也氏による)



第 61 図 地蔵根遺跡第 6 次調査区出土遺物

- 1 出土位置・注記：5 トレンチ 時代時期：弥生時代後期 器種：不明  
文様：付加条縄文(LR+R, 軸縄 1 段 3 条) カ

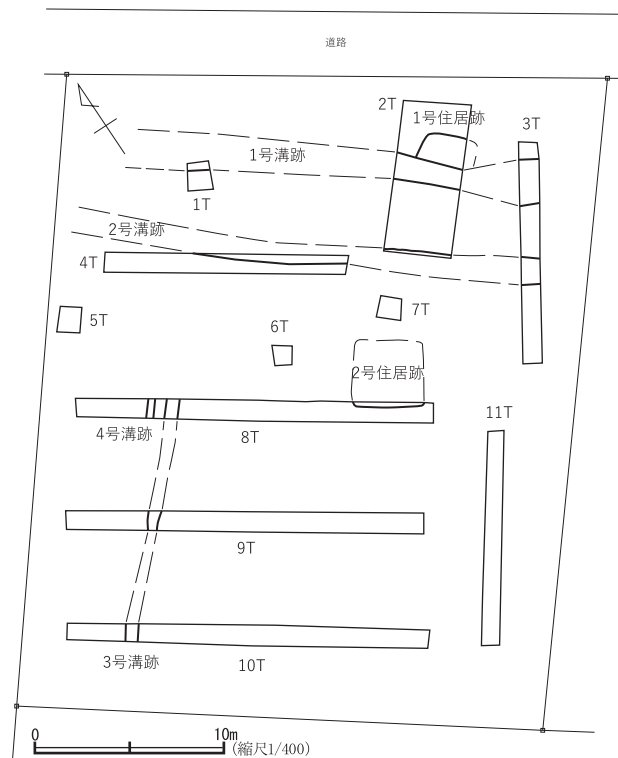
## 17 大房地遺跡

### (1) 第18次調査報告

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺部から250mほど離れた場所に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は11か所のトレンチを設定し、



第62図 大房地遺跡の調査地点（数字は調査回数）



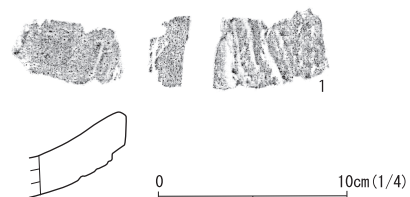
第63図 大房地遺跡第18次調査区

第19表 大房地遺跡調査一覧

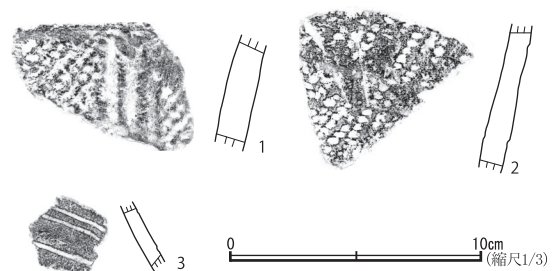
次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1981	勝田市教委	本調査	井戸1(時期不明)、住居1(時期不明)	1
2	1982	勝田市教委	本調査	溝1(中世)、土坑1(縄文中期)	2
3	1986	勝田市教委	本調査	住居2(縄文1、平安1)	3
4	1986	勝田市教委	本調査	土坑2(時期不明)	3
5	1988	勝田市教委	試掘	なし	4
6	1988	勝田市教委	試掘	なし	4
7	1988	勝田市教委	本調査	住居3(縄文中期2、古墳後期1)、土坑15	4
8	1995	市教委	本調査	溝2(時期不明)	5
9	1999	市教委	本調査	住居1(縄文中期1)	6
10	2000	市教委	本調査	住居1(縄文中期1)	7
11	2001	市教委	本調査	住居1(縄文中期1)	8
12	2002	市教委	本調査	溝3(時期不明)	9
13	2003	市教委	本調査	住居2(縄文中期)、土坑3(縄文中期1、時期不明2)	10
14	2006	市教委	試掘	なし	11
15	2007	市教委	試掘	土坑1(時期不明)	12
16	2007	市教委	試掘	不明遺構3(時期不明)	12
17	2012	公社	試掘	溝4、土坑1(縄文後期)	13

#### 文献

- 1 昭和56年度市内遺跡発掘調査報告書
- 2 昭和57年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 昭和61年度市内遺跡発掘調査報告書
- 4 昭和63年度勝田市内遺跡発掘調査報告書
- 5 平成7年度市内遺跡発掘調査報告書
- 6 平成11年度市内遺跡発掘調査報告書
- 7 平成12年度市内遺跡発掘調査報告書
- 8 平成13年度市内遺跡発掘調査報告書
- 9 平成14年度市内遺跡発掘調査報告書
- 10 平成15年度市内遺跡発掘調査報告書
- 11 平成18年度市内遺跡発掘調査報告書
- 12 平成19年度市内遺跡発掘調査報告書
- 13 平成24年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第64図 大房地遺跡第18次調査区出土遺物(1)



第65図 大房地遺跡第18次調査区出土遺物(2)

重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.3～0.9 mを測る。調査の結果、住居跡2基、溝跡4条を確認した。住居跡・溝跡とも時期不明である。調査区からは、縄文土器・弥生土器・土師器・瓦・瓦質土器が出土した。

### 遺物説明

#### 第64図

1 出土位置・注記：3トレンチ 材質：瓦 種類：平瓦 残存：側縁部片 法量：厚さ2.1、重量74.5g 色調：明褐色 胎土：礫（白少、白透少、灰少）、砂（白透） 技法等：凸面縄叩きか。

#### 第65図

1 出土位置・注記：4トレンチ 時代時期：縄文時代中期（加曽利E2式） 器種：深鉢型土器カ 文様：単節斜縄文（LR）、沈線文 備考：器内面磨き

2 出土位置・注記：8トレンチ 時代時期：縄文時代中期 器種：深鉢型土器カ 文様：捺糸文（L）カ 備考：胎土に黒みをおびた金雲母含む

3 出土位置・注記：4トレンチ 時代時期：弥生時代中期（足洗式カ） 器種：壺形土器カ 文様：沈線文（太い半截竹管）

第20表 三反田遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1973	調査会	本調査	住居3（古墳）、土坑5（縄文1）、溝1	1・2
2	1977	調査会	本調査	住居2（古墳）、古墳1（円墳）、土坑4	2・3
3	1978	調査会	本調査	住居4（古墳）	4
4	1984	調査会	本調査	住居5（古墳）、土坑2、溝5	5
5	1990	勝田市教委	本調査	住居5（古墳）、溝2	6
6	2016	公社	試掘	住居1（古墳）、溝3、土坑1	7
7	2017	公社	本調査	住居7（古墳6、平安1）、溝1、土坑1（縄文）	8
8	2018	公社	本調査	住居4（古墳）、方形周溝墓3、石組2、溝4、道1、土坑3	8

#### 文献

- 1 三反田遺跡
- 2 三反田遺跡（一・二次）
- 3 三反田遺跡群調査報告書
- 4 三反田遺跡調査報告書（第3次）
- 5 三反田遺跡調査報告書（第4次）
- 6 三反田遺跡発掘調査報告書（第5次）
- 7 平成29年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 8 三反田遺跡第7・8次発掘調査報告書

## 18 三反田遺跡・三反田古墳群

### (1) 三反田遺跡第9次・三反田古墳群第6次調査報告

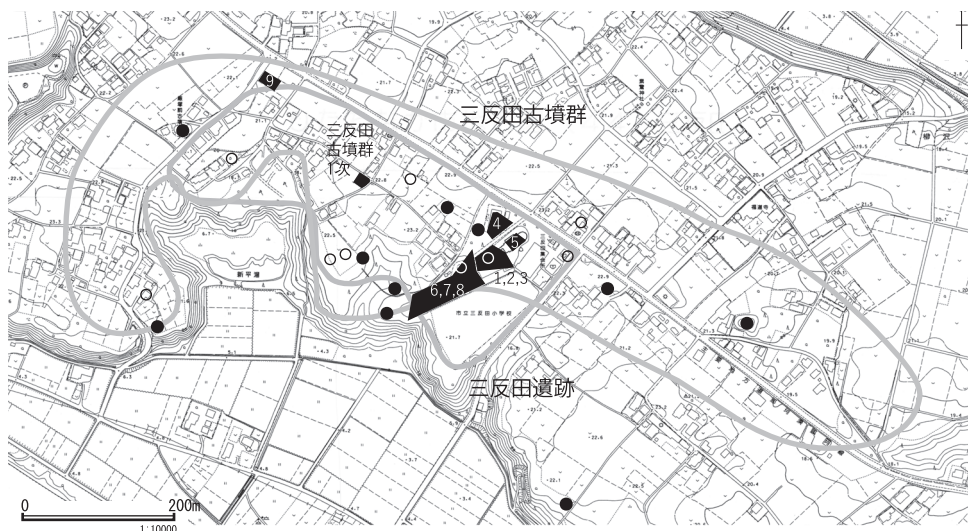
調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺部から190 mほど離れた場所に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は荒地であった。調査は9か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.1～0.3 mを測る。調査の結果、遺構、遺物ともに確認されなかった。確認面で鹿沼パミス層が確認できたことからみて、調査区は全体的に1.5 m以上削られているのではないかと考えられる。

第21表 三反田古墳群調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	2009	公社	試掘	住居3（古墳前期）、溝3	1
2	2017	公社	試掘	長方墳1	2
3	2019	公社	試掘	古墳周溝（二重周溝）	3
4	2020	公社	試掘	古墳周溝1、溝1	4
5	2020	公社	試掘	古墳周溝1	4

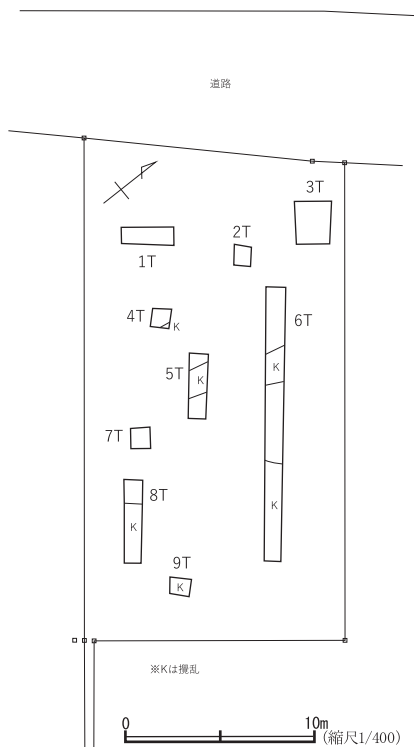
#### 文献

- 1 平成21年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 2 平成29年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 3 令和元年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 4 令和2年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第66図 三反田遺跡・三反田古墳群の調査地点（数字は調査回数）





第 67 図 三反田遺跡第 9 次・三反田古墳群第 6 次調査区

## 19 磯崎東遺跡

### (1) 第 1 次調査報告

調査地は太平洋に突き出す台地上に位置し、北側に隣接して酒列磯前神社が存在する。遺跡北側の崖下には磯崎漁港があり、そこには現在も湧水をみることができる。調査地は平坦な地形を呈し、調査時は畑地であった。調査は 14 か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.4～1.0 m を測る。調査の結果、住居跡 1 1 基、溝跡 5 条、土坑 1 9 基、ピット 3 6 基が確認された。出土遺物から 6, 7, 9, 10 号住居跡は、奈良・平安時代と考えられる。溝跡、土坑跡は出土遺物が少ないため時期不明である。その他、調査区からは土師器、須恵器、石器が確認された。

#### 遺物説明

第 70 図

- 1 出土位置：3 トレンチ 7 住 材質：須恵器 器種：杯 残存：30%  
法量：口径 (14.9), 器高 4.2, 底径 (9.6) 色調：灰色 胎土：礫 (白, 白透少), 砂 (白, 灰少), 骨針微量 技法等：底部外面回転ヘラ削り。口縁部ややゆがむ。備考：木葉下産産か
- 2 出土位置：7 トレンチ 6 住 材質：須恵器 器種：杯 残存：体部 30%, 底部外周 20% 法量：口径 (14.0), 器高 5.0, 底径 (6.8) 色調：上半部褐色, 下半部灰色 (重ね焼き痕) 胎土：礫 (白多, 灰少), 骨針

微量 技法等：体部下端および底部手持ちヘラ削り

- 3 出土位置：3 トレンチ 7 住 材質：須恵器 器種：甕 残存：底部片  
法量：— 色調：外面褐色, 内面灰色, 断面外側明褐色・内側黒灰色  
胎土：礫 (白少, 灰少), 砂 (透多), 骨針微量 技法等：底部外面平行叩き。内面ヘラナデ後ナデ。

- 4 出土位置：10 住 材質：土師器 器種：甕 残存：上半部 20% (口縁部 10%) 法量：口径 (23.4) 色調：暗褐色, 外面一部橙褐色 胎土：礫 (白透多), 白雲母多 技法等：外面肩部縦方向ヘラナデ。胴部外面縦方向ヘラミガキ。内面胴部上半横方向ヘラナデ・胴部下半粘土接合痕残る。口縁部ヨコナデ。備考：新治窯付近産

- 5 出土位置：10 トレンチ 9 住 注記：— 材質：鉄 器種：釘か 残存：先端部 法量：残存長 6.0, 重量 19.5g

- 6 出土位置：3 トレンチ 7 住 注記：S1 材質：石 器種：台石・砥石 残存：50% 法量：長 14.2, 幅 19.9, 厚 4.6, 重量 1735.3g 色調：灰色 特徴：平坦面の一部に研磨痕 A が認められ、その端部に薄く鉄分の付着がみられる (トーン部)。凸面は敲打痕のような荒れた面 B が認められる。備考：「〈アルコース質含細礫粗粒砂岩〉弱い層理あり、帯褐淡灰色、淘汰悪い、円磨やや悪い、固結している、礫 (チャート, 石英, 流紋岩, 長石), 砂粒 (石英, 長石, チャート, 黒雲母), 外形は自然礫 (亜円礫) の一部、大きな平面が一面あり、かなり平滑だが、細礫が凸出している。食面の可能性あり。」(矢野徳也氏による)

- 7 出土位置：10 住 材質：石 器種：敲石・砥石 残存：完形 法量：長 17.8, 幅 12.8, 厚 7.0 色調：灰色 特徴：敲打痕 5 ヲ所 (A,B,C,E,F), 研磨痕 1 ヲ所 (D) が認められる。備考：「〈アルコース質含細礫粗粒砂岩〉

第 22 表 磯崎東古墳群調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1989	調査会	本調査	古墳 2	1
2	1990	那珂湊市教委	本調査	石棺 2	なし
3	1991	調査会	本調査	横穴式石室 1	なし
4	1995	市教委	本調査	石棺 1	2
5	2004	市教委	試掘	周溝 1	3
6	2007	市教委	試掘	なし	4
7	2011	市教委	試掘	石棺 1	なし
8	2011	公社	試掘	石室 4, 古墳 1 (横穴式石室 1)	5
9	2011	市教委	本調査	同上	なし
10	2012	公社	試掘	古墳 1 (石室 1, 周溝), 溝 2, 土坑 1	6
11	2014	県文化課	工事立合	石棺 2	なし
12	2016	県文化課	工事立合	石棺 6	なし
13	2020	公社	試掘	なし	7

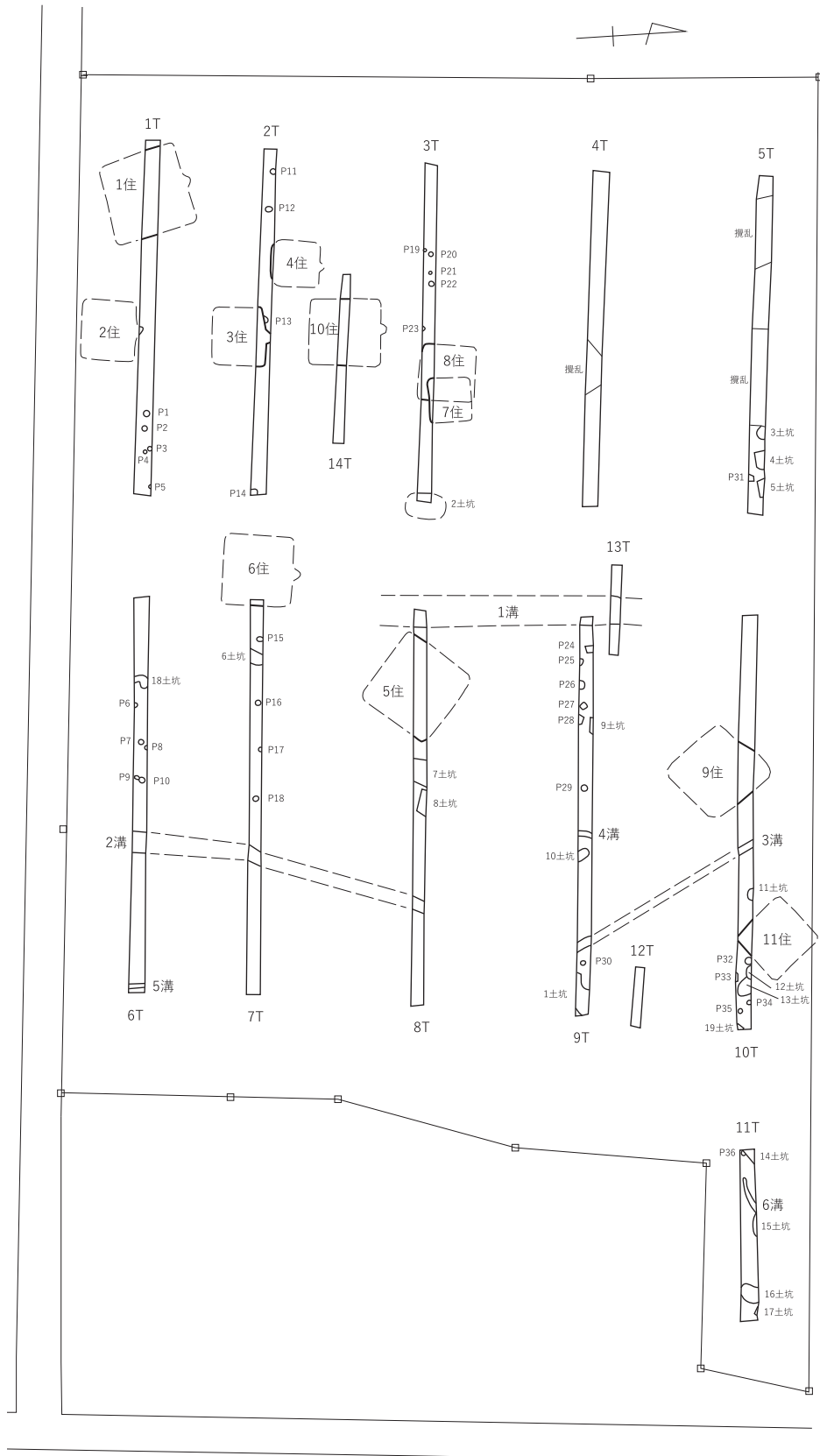
#### 文献

- 1 那珂湊市磯崎東古墳群
- 2 平成 7 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成 16 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成 19 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 5 平成 23 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 6 平成 25 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 7 令和 2 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第 68 図 磯崎東遺跡・磯崎東古墳群の調査地点 (数字は調査回数)

塊状、帯褐淡灰色、淘汰やや悪い、円磨やや悪い、固結している、礫（チャート、石英、オルソコーツァイト、流紋岩）、砂粒（石英、長石、チャート、黒雲母）、外形は自然礫（亜円礫）、2面の大きな平面に研磨が見られ、両面中央に叩打による凹部がある。」（矢野徳也氏による）



第 69 図 磯崎東遺跡第 1 次調査区

## 20 高野富士山遺跡

### (1) 第15・16・17次調査報告

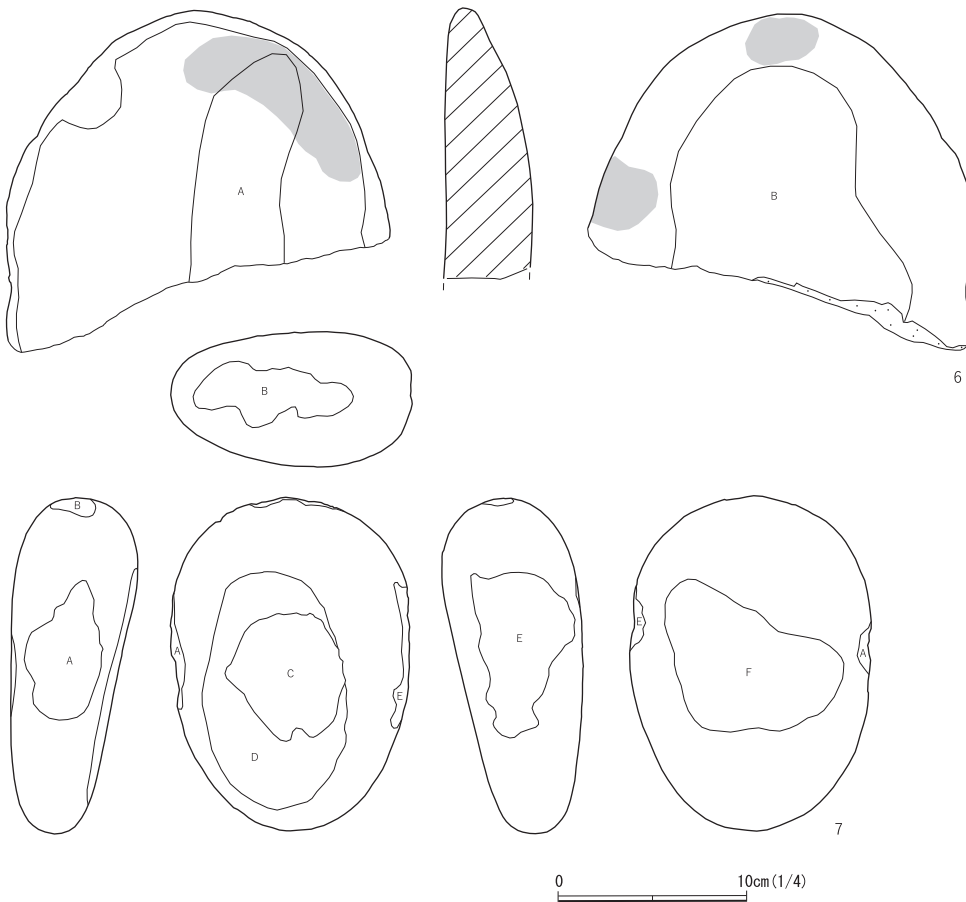
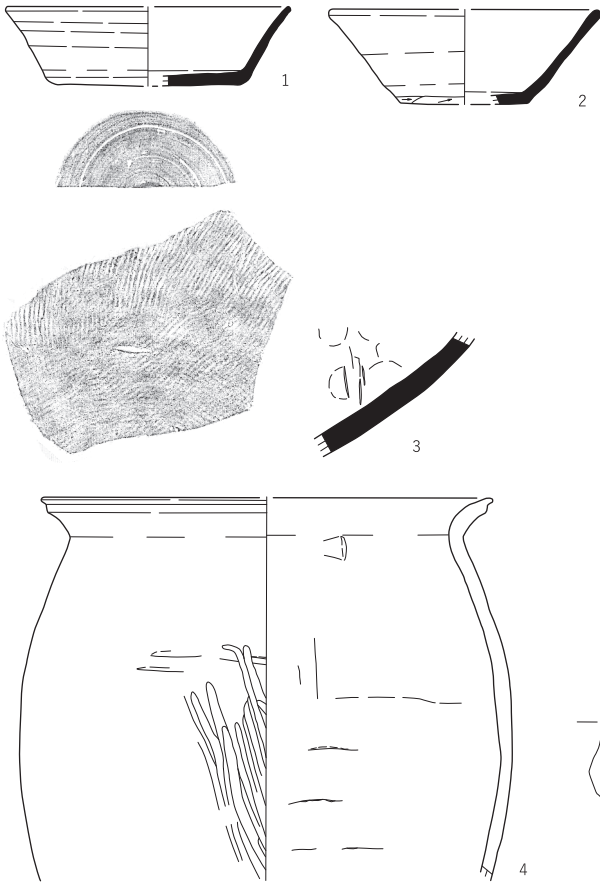
調査地は新川が流れる旧真崎浦の低地から南西方向に入り込む二つの谷に挟まれた台地上に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。

**第15次調査** 調査は7か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.5～1.0 mを測る。調査の結果、住居跡2基、溝跡1条が確認された。出土遺物から2号住居跡は奈良時代と考えられる。1号住居跡および1号溝跡は遺物がなく時期不明である。調査区からは土師器・須恵器が出土している。

#### 遺物説明

第73図

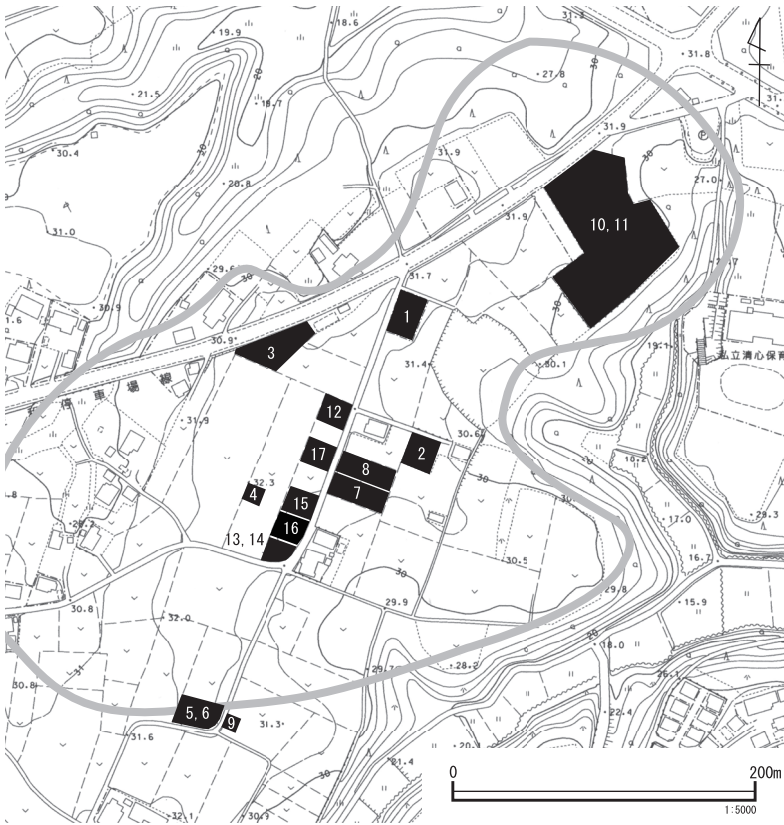
1 出土位置：2住 材質：土師器 器種：甗 残存：50% 法量：口径(26.5)、器高27.3、底径(8.4) 色調：外面褐色・黒色、内面茶褐色 胎土：礫(白少、白透少)、砂(白、白透、透) 技法等：胴部外面縦方向ヘラ削り→下端部斜方向ヘラ削り→縦方向ヘラミガキ。口縁部ヨコナデ。胴部内面上半部および口縁部横方向ヘラミガキ。



第70図 磯崎東遺跡第1次調査区出土遺物(1)

**第16次調査** 調査は9か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.4～0.7 mを測る。調査の結果、住居跡4基、溝跡1条が確認された。住居跡・溝跡は出土した遺物がなく時期不明である。調査区からは土師器・須恵器が出土している。

**第17次調査** 調査は8か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.5～0.6 mを測る。調査の結果、溝跡1条が確認されたが、遺物がなく時期不明である。調査区からは土師器・須恵器が出土している。



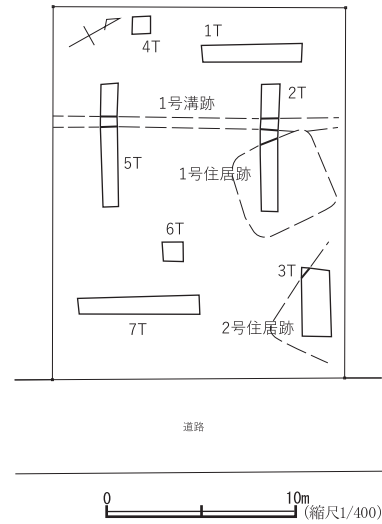
第 71 図 高野富士山遺跡の調査地点

第 23 表 高野富士山遺跡調査一覧

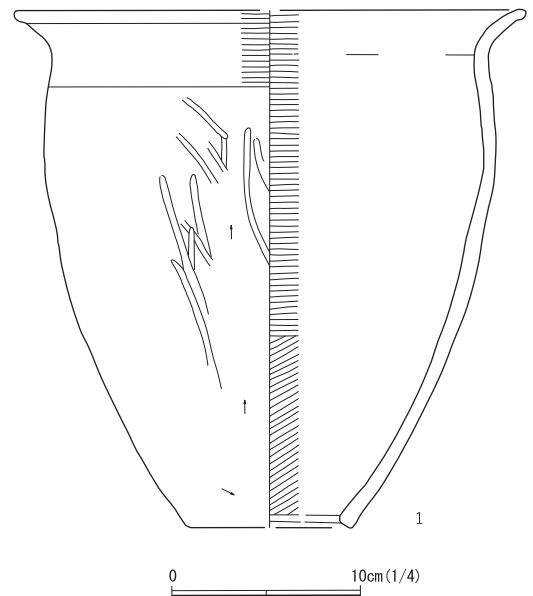
次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1982	勝田市教委	試掘	なし	1
2	1989	勝田市教委	試掘	住居 1(古墳)	2
3	2001	市教委	本調査	土坑墓 1(近世), 住居 1(古墳)	3
4	2007	市教委	試掘	なし	4
5	2010	公社	試掘	住居 3(平安), 土坑 2	5
6	2010	公社	本調査	住居 1(平安)	5
7	2013	公社	試掘	なし	6
8	2015	公社	試掘	なし	7
9	2017	公社	試掘	なし	8
10	2017	公社	試掘	住居 3(古墳~奈良), 溝 1	8
11	2017	毛野考古学 研究所	本調査	住居 3(奈良・平安), 土坑 1, 溝 1	9
12	2018	公社	試掘	住居 1(古墳), 土坑 1	10
13	2020	公社	試掘	住居 2(平安 1, 時期 不明 1)	11
14	2020	公社	本調査	住居 2(平安 1, 時期 不明 1)	11

文献

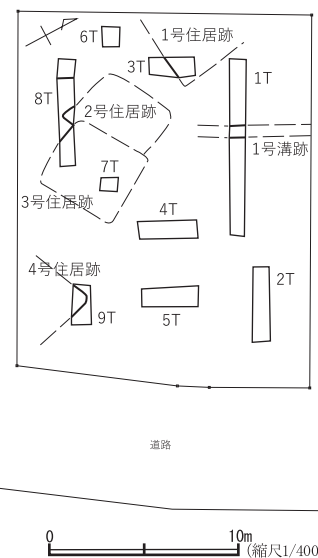
- 1 昭和 57 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 2 平成元年度勝田市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成 13 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成 19 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 5 平成 22 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 6 平成 25 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 7 平成 27 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 8 平成 29 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 9 高野富士山遺跡
- 10 平成 30 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 11 令和 2 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



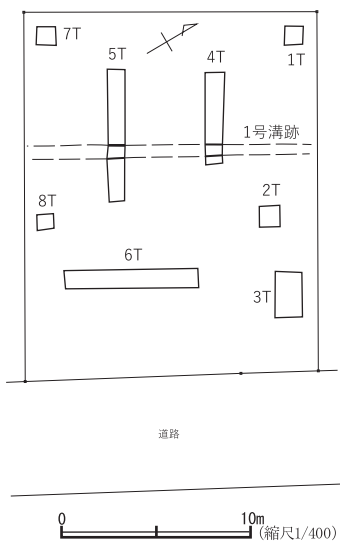
第 72 図 高野富士山遺跡第 15 次調査区



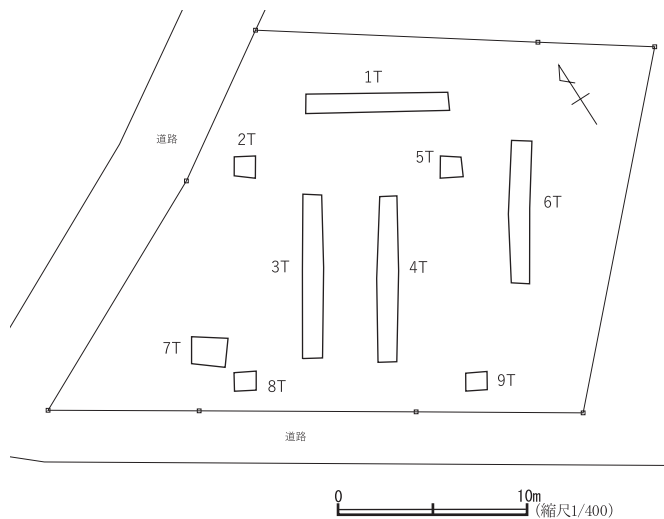
第 73 図 高野富士山遺跡第 15 次調査区出土遺物



第 74 図 高野富士山遺跡第 16 次調査区



第 75 図 高野富士山遺跡第 17 次調査区

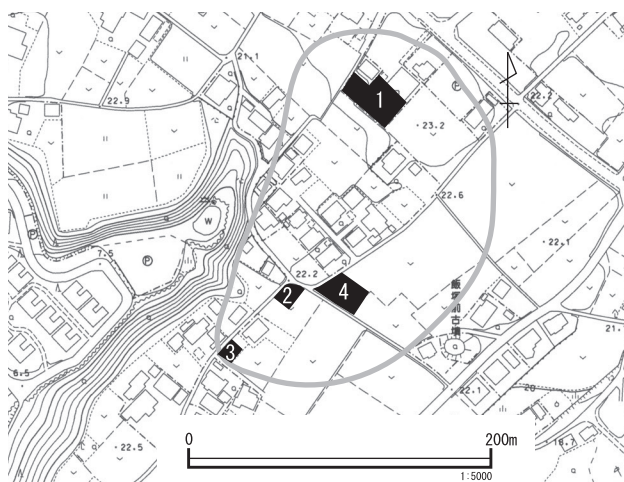


第 77 図 飯塚前遺跡第 4 次調査区

## 21 飯塚前遺跡

### (1) 第 4 次調査報告

調査地は那珂川低地から北東方向に入り込む小谷に面する台地縁辺部から 60 m ほどのところに位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は 9 か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.5 ～ 0.8 m を測る。調査の結果、遺構・遺物ともに確認されなかった。



第 76 図 飯塚前遺跡の調査地点

第 24 表 飯塚前遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	主な遺構	文献
1	1996	市遺跡調査会	本調査	溝 1, 土坑 2	1
2	2011	公社	試掘	土坑 1	2
3	2020	公社	試掘	なし	3

文献

- 1 内手遺跡発掘調査報告書
- 2 平成 23 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 3 令和 2 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

# III 本調査報告

## 1 市毛上坪遺跡第 34 次調査報告

### (1) 調査の経過

所在地 / ひたちなか市市毛字上坪 1206 番 4 期間 / 令和 3 年 5 月 11 日～6 月 3 日 担当 / 田中美零, 佐々木義則 面積 / 59 m<sup>2</sup> 時代 / 古墳 遺構 / 竪穴住居跡 3 基 (古墳時代)

調査地は, 那珂川低地を望む台地縁辺から 140 m ほど離れた地点に位置し, 平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。今回の調査は個人住宅建築に伴う発掘調査であり, 建物部分を中心に調査区が設定された。当地区は試掘調査 (第 33 次調査) がなされているが, 今回の調査により試掘結果とほぼ同様の遺構配置が確認されている。住居跡の番号は今回の本調査に伴い新たに付け直した。なお調査区は全体的にかなり深く攪乱が入っており, 遺構の遺存状況はよくなかった。以下, 簡単に調査の経過を記す。

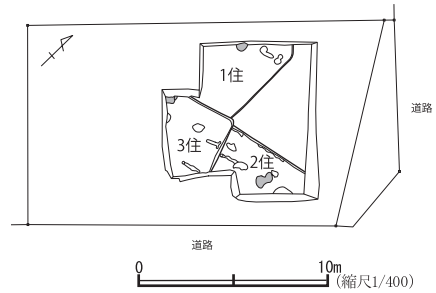
5 月 11 日: 調査区設定。 5 月 12～14 日: 重機による表土除去。 5 月 14 日: 遺構確認, 掘り込み開始。

5 月 25 日: 図面・写真による記録作業開始。 6 月 2 日: 調査区全体図作成。 6 月 3 日: 重機による埋め戻し。現場撤収。

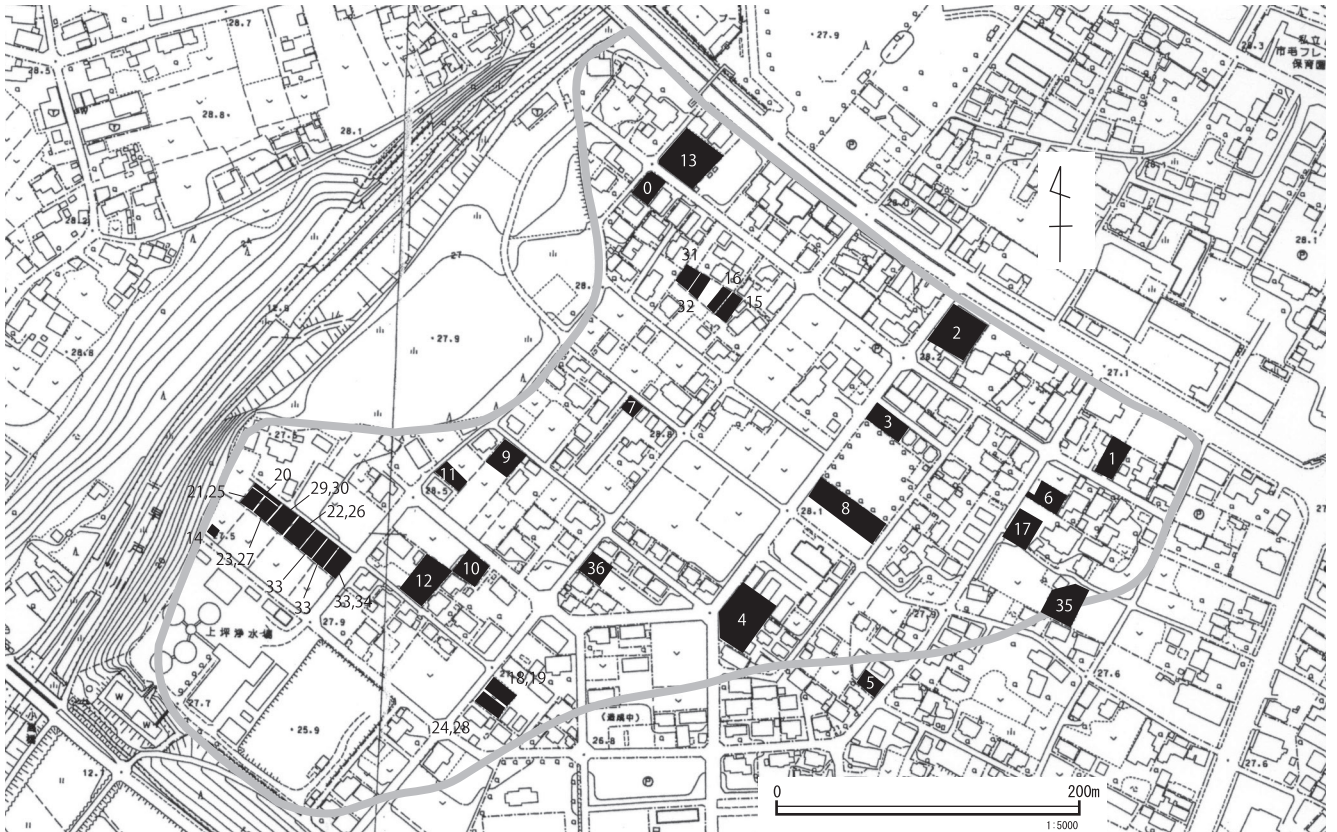
### (2) 住居跡

#### 第 1 号住居跡

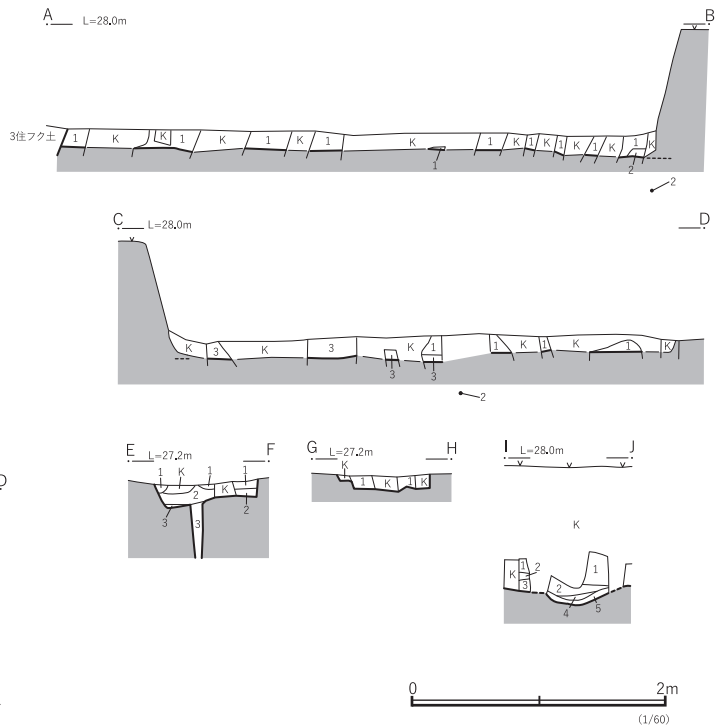
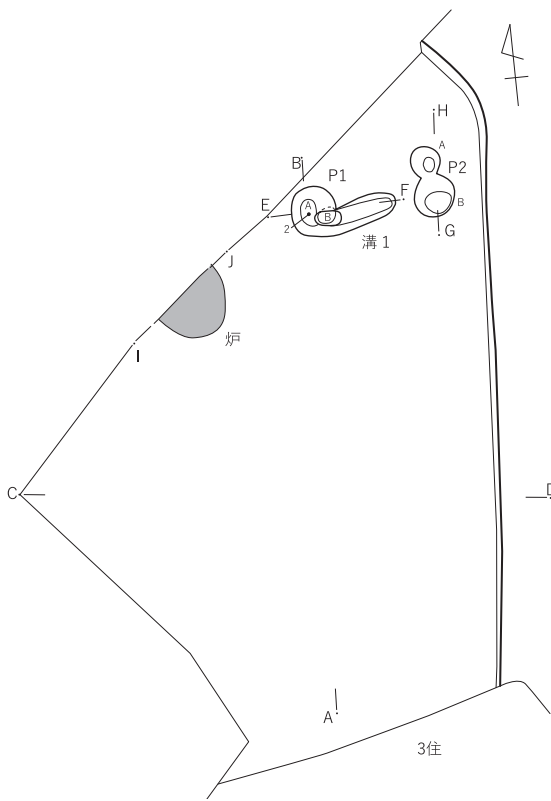
**遺構** 第 1 号住居跡は第 3 号住居跡と重複し, 土層からみて新旧関係は第 1 号住居跡→第 3 号住居跡となる。方形を呈すると思われる住居跡の北西部のみの調査であり, 住居の規模は不明である。東壁からみて主軸方向は, N-4° -E を測る。ピットは P1 が支柱穴であろう。深さからみて P1B が支柱穴と思われるが, 径が小さいことが気になる。ピットの深さは, P1A が 20cm, P1B



第 79 図 市毛上坪遺跡第 34 次調査区



第 78 図 市毛上坪遺跡の調査地点 (数字は調査次数)



**土層説明**

AB・CD 土層断面

- 1 褐色（ローム粒含む）
- 2 明褐色（ロームブロック多量含む）
- 3 明褐色（ローム粒多量含む）

EF 土層断面

- 1 暗褐色（ローム粒少量含む）
- 2 明褐色（ローム小ブロック・ローム粒含む）
- 3 黄褐色（ローム土）

IJ 土層断面

- 1 暗褐色（ローム粒・焼土粒少量含む）
- 2 明褐色（ローム粒多量含む 焼土粒含む）
- 3 黄褐色（ローム粒主体）
- 4 黄褐色（ローム土が焼けてカリカリしている）
- 5 黄褐色（5層ほどではないが焼けている）

GH 土層断面

- 1 明褐色（ローム小ブロック多量含む）

第80図 市毛上坪遺跡第34次調査区第1号住居跡

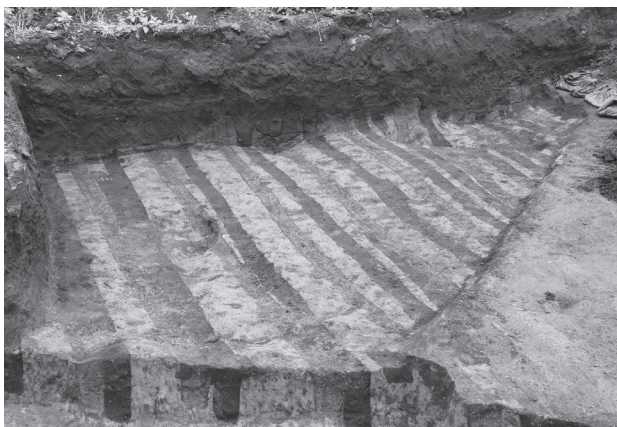
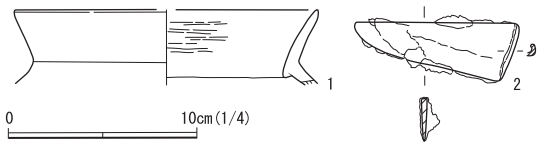


写真2 市毛上坪遺跡第34次調査区第1号住居跡掘形

が64cm以上を測る。P1から東に向けて長さの短い深さ19cmほどの浅い溝が伸びており、長さは短い位置からみて間仕切溝となる可能性がある。床面に硬化面は認められなかった。炉は一部の確認にとどまるが、焼土の堆積はあまりみられなかった。住居掘形は特に掘り込みはみられなかったが、床面の一部が浅くくぼむ部分が認められた。



第81図 市毛上坪遺跡第34次調査区第1号住居跡出土遺物

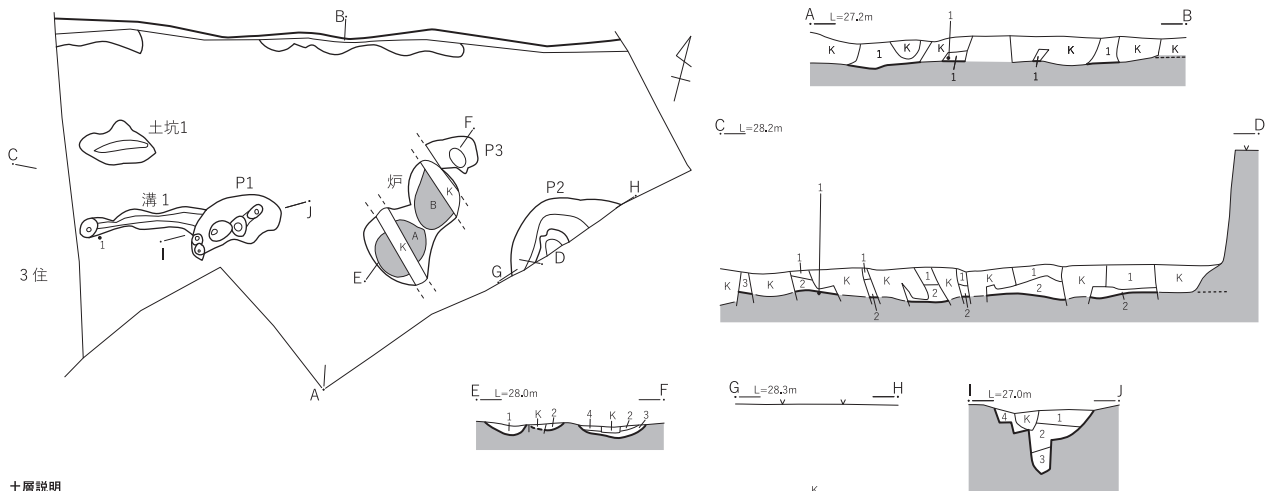
遺物は覆土中より土師器小片が出土しているほか、ピット1覆土中より鎌が出土しており注目される。土器の年代は不明瞭であるが、古墳時代前期になるとと思われる。

**遺物説明**

第81図

- 1 台帳：1住1区 材質：土師器 器種：甕 残存：口縁部10% 法量：口径（16.0）、高（4.0） 色調：外面黒褐～黒色。内面橙～にぶい橙色。胎土：砂（白多、透多） 焼成：良好 技法等：外面ヨコナデ。内面ヨコナデ後ヘラミガキ。使用痕：外面スス状物附着。備考：—
- 2 台帳：1住I2 材質：鉄 種類：鎌 法量：長8.7、最大幅3.0、厚0.3、重量31.16g 備考：—





**土層説明**

**AB 土層断面**

- 1 明褐色（ローム多量含む 炭化物粒微量含む）

**CD 土層断面**

- 1 褐色（ローム粒含む 明褐色土混じる）
- 2 明褐色（ローム粒多量含む）
- 3 暗褐色

**EF 土層断面**

- 1 褐色（ローム粒やや多量含む、ローム小ブロック含む）
- 2 橙色（焼土）
- 3 黄褐色（ローム土が焼けている）
- 4 褐色（焼土粒含む）

**GH 土層断面**

- 1 褐色（ローム粒多量含む、ローム小ブロック含む、黒褐色土小ブロック含む）

- 2 褐色（ローム粒含む、黒褐色土混じる）
- 3 明褐色（ローム粒・ロームブロック含む）
- 4 黄褐色（ローム小ブロック・黒褐色土粒含む）

**IJ 土層断面**

- 1 褐色（ローム粒含む）
- 2 明褐色（ロームブロック多量含む）
- 3 明褐色（ローム粒多量含む ローム小ブロック含む）
- 4 黄褐色（ローム土主体）

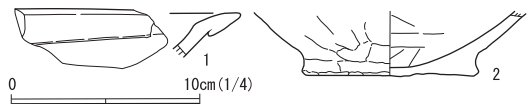
第 82 図 市毛上坪遺跡第 34 次調査区第 2 号住居跡



写真 3 市毛上坪遺跡第 34 次調査区第 2 号住居跡掘形

**第 2 号住居跡**

**遺構** 第 2 号住居跡は第 3 号住居跡と重複し、遺物からみて新旧関係は第 2 号住居跡→第 3 号住居跡となる。住居北側の一部のみの調査であり、北壁からみて主軸方向は N-12° -W を測る。竪穴部の規模は不明である。ピットは P1・2 が支柱穴と思われ、ピットの深さは P1 が 60cm、P2 が 57cm を測る。P1 から西側に向けて間仕切溝と考えられる浅い溝状の窪みが伸びる。その北側に土坑 1 が見られるが、これは覆土からみて後世の土



第 83 図 市毛上坪遺跡第 34 次調査区第 2 号住居跡出土遺物

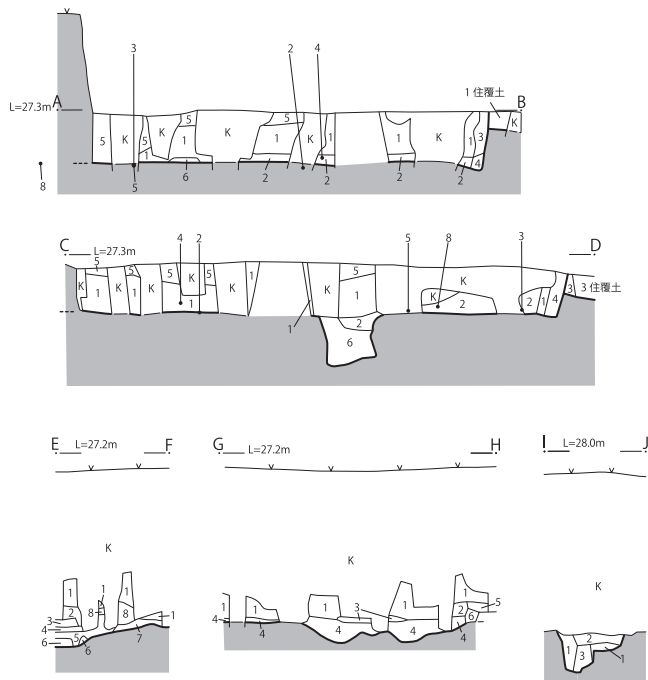
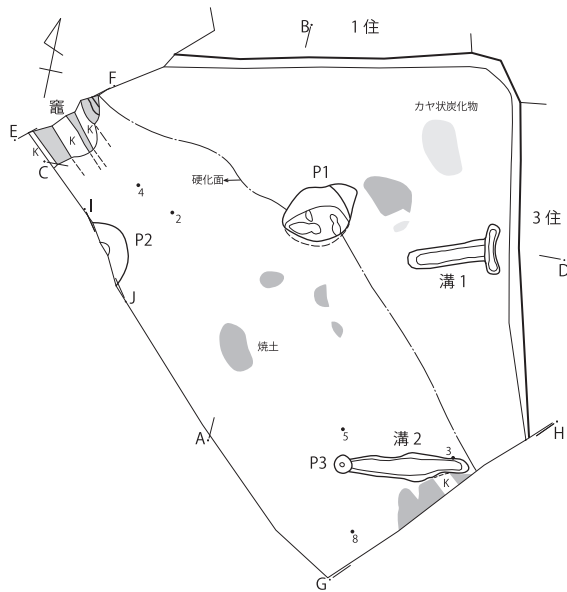
坑であろう。住居跡北壁の高さは 20 cm であり、部分的に壁際に壁周溝と思われる窪みを有していた。炉は隣接して A と B の 2 か所確認された。炉 A・B とも径 0.4m ほど床面が焼けている状況であり、焼土がよく残っていた。床面は全体的に硬化している。住居掘形は間仕切溝付近を除く部分で確認したところ、全体的に掘り込みが認められたので、住居跡全体を 10～20 cm 程掘り込むようである。

遺物は床面から土師器壺（1）が出土している。炉をもつ住居跡であることや遺物からみて時期は古墳時代中期になるのであろう。

**遺物説明**

第 83 図

- 1 台帳：2住 P16 材質：土師器 器種：壺 残存：口縁部 5% 法量：一色調：内外面とも浅黄橙色。胎土：砂（白多、黒少）焼成：良好



**土層説明**

**AB 土層断面**

- 1 明褐色（ローム小ブロック・ローム粒・白褐色粘土粒多量含む  
白褐色粘土小ブロック含む 焼土粒・白褐色粘土ブロック  
・ロームブロック少量含む）
- 2 明褐色（ローム粒・白褐色粘土粒多量含む 焼土粒少量含む）
- 3 暗褐色（ローム粒含む 白褐色粘土粒少量含む）
- 4 褐色（ローム小ブロック多量含む）
- 5 褐色（ローム粒・ローム小ブロック少量含む）
- 6 明褐色（焼土）

**CD 土層断面**

- 1 明褐色（ローム小ブロック・ローム粒・白褐色粘土粒多量含む  
白褐色粘土小ブロック含む 白褐色粘土粒ブロック・焼  
土粒・ロームブロック少量含む
- 2 明褐色（ローム粒・白色粘土粒多量含む 焼土粒少量含む）
- 3 暗褐色（ローム粒含む。白褐色粘土粒少量含む）
- 4 褐色（ローム小ブロック含む）
- 5 褐色（ローム粒・ローム小ブロック含む 焼土粒少量含む ロ  
ームブロック微量含む）

**EF 土層断面**

- 1 明褐色（ローム粒・白褐色粘土粒含む）
- 2 褐色（白褐色粘土粒多量含む ローム粒・焼土粒含む）
- 3 明褐色（焼土ブロック・白褐色粘土粒多量含む）
- 4 褐色（焼土粒多量含む 灰混じる）
- 5 褐色（白褐色粘土小ブロック・ローム粒・焼土粒含む）
- 6 黄褐色（ロームブロック多量含む）
- 7 明褐色（ローム小ブロック多量含む 白褐色粘土粒含む）
- 8 白褐色（カマド粘土）

**GH 土層断面**

- 1 褐色（ローム粒多量含む ローム小ブロック少量含む）
- 2 褐色（ローム粒含む 焼土粒少量含む 1層より暗色）
- 3 明褐色（焼土）
- 4 明褐色（ローム小ブロック多量含む 暗褐色土混じる 住居堀  
形埋土）
- 5 暗褐色（ローム粒多量含む 2住アクト）
- 6 黄褐色（ロームブロック主体 2住掘形埋土）

**IJ 土層断面**

- 1 黄褐色（ロームブロック主体）
- 2 明褐色（ローム粒多量含む）
- 3 黄褐色（ローム粒主体）



第 84 図 市毛上坪遺跡第 34 次調査区第 3 号住居跡

技法等:内外面とも口縁部ヨコナデ, 頸部ヘラナデ。 使用痕:— 備考:

2 台帳:2住 材質:土師器 器種:甕 残存:底部 50% 法量:高 (3.4),  
底径 9.0 色調:外面にぶい橙~暗褐~黒色。内面にぶい褐色。 胎土:  
砂 (白多, 透多) 焼成:良好 技法等:内外面ともヘラナデ。 使用痕:  
外面全体が二次焼成を受けている。 備考:—

**第 3 号住居跡**

**遺構** 第 3 号住居跡は第 1・2 号住居跡と重複する。  
新旧関係は第 1・2 号住居跡→第 3 号住居跡となる。住  
居跡の北東部のみの調査であり, 竪穴部の規模は不明で  
あるが竈位置からみておそらく一辺 7m ほどの方形の住  
居跡になるだろうと思われる。壁高は 0.4 m ほどを測り  
壁周溝はみられない。ピットは 3 つあり, 深さは P1 が

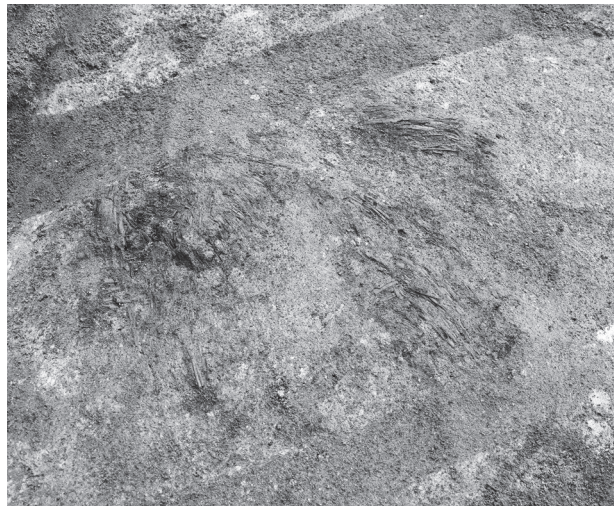
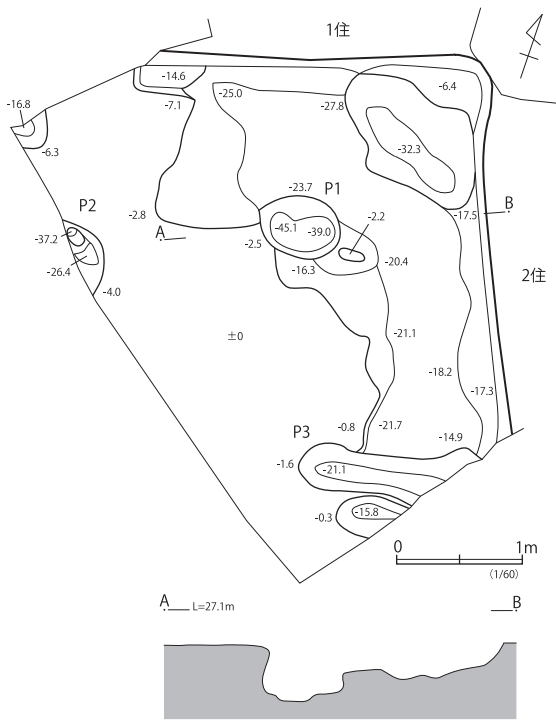


写真 4 市毛上坪遺跡第 34 次調査区第 3 号住居跡カヤ状炭化物

40cm, P2が30cm, P3が20cmを測る。位置からみてP1が支柱穴であろう。床面は北西隅部を除く部分が硬化していた。竈穴部覆土はローム小ブロックを多量に含む明褐色土が厚く堆積するので人為的埋土の可能性が高い。竈は大部分が調査区外に位置し、崩壊土の一部が確認されている。なお床面状には部分的に焼土やカヤ状炭化物が遺存していたことから、当住居跡は火事にあつた後埋め戻されたのであろう。北西部隅で確認されたカヤ状炭化物は床面に密着した状況で出土したが、茎の方向が住居対角線方向に並ぶことから、屋根材であった可能性が高いと思われる。なお住居掘形を調査したところ、竈前と住居中央部を掘り残す状況が確認された。



第85図 市毛上坪遺跡第34次調査区第3号住居跡掘形



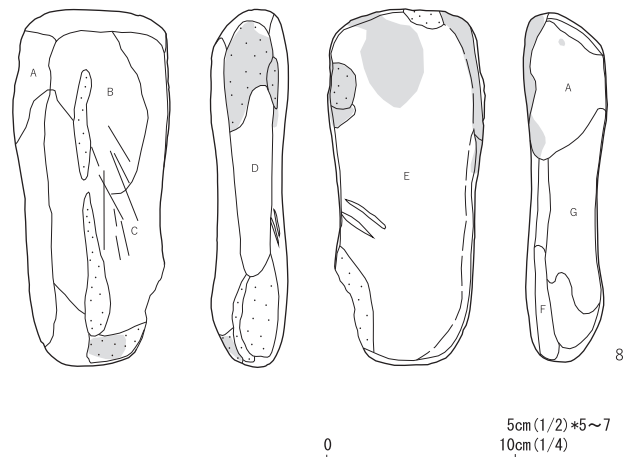
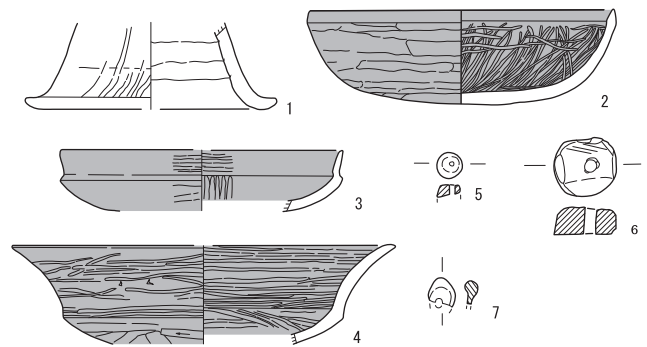
写真5 市毛上坪遺跡第34次調査区第3号住居跡掘形

遺物は、竈前床面に杯2が伏せられた状態で出土した。また土師質の小玉が間仕切溝と思われる溝2付近の床面から出土している。このほか砂岩製の砥石8が床面から出土した。

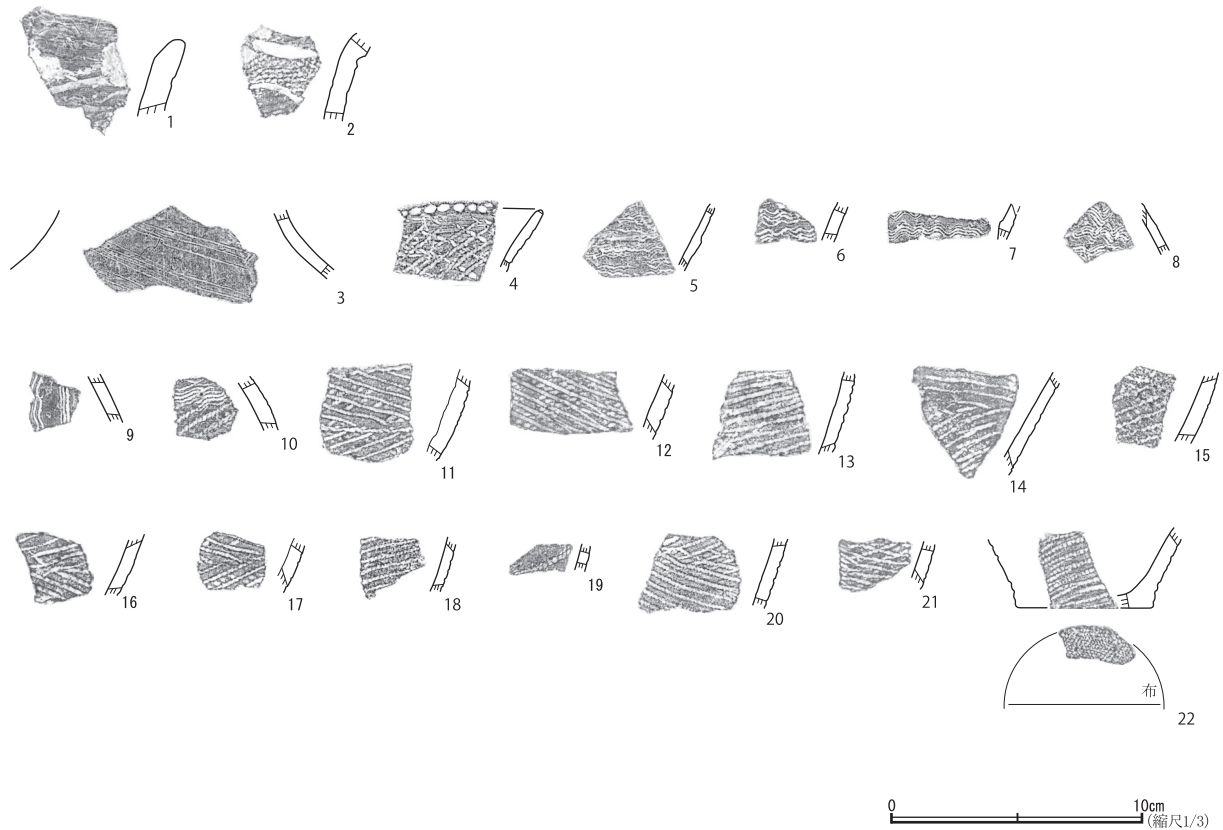
### 遺物説明

第86図

- 1 台帳:3住3区 材質:土師器 器種:高杯 残存:脚部10% 法量:高(4.6),底径(13.3) 色調:外面橙色。内面褐灰色。胎土:礫(白微),砂(白多,透多) 焼成:良好 技法等:外面ヨコナデ後ヘラミガキ。内面上位ヘラナデ,下位ヨコナデ。使用痕:— 備考:—
- 2 台帳:3住P2 材質:土師器 器種:杯 残存:ほぼ完形 法量:口径16.0,高5.0 色調:内外面とも褐~暗褐~黒色。胎土:砂(白多,透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ,体部上~中位~ヘラ削り後ヘラミガキ,下位ヘラ削り。内外面とも黒色処理。使用痕:— 備考:—
- 3 台帳:3住P8 材質:土師器 器種:杯 残存:10% 法量:口径(14.8),高(3.3) 色調:外面黒褐色。内面にぶい橙~暗褐色。胎土:砂(白少,透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ,体部ヘラナデ・ヘラミガキ。内面口縁~体部上位,ヨコナデ後ヘラミガキ。内外面とも黒色処理。使用痕:— 備考:—
- 4 台帳:3住P1,2・4区 材質:土師器 器種:杯 残存:20% 法量:口径(20.4),高(5.3) 色調:内外面ともぶい黄橙~暗褐色。胎土:砂(白多,透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ,体部上位ヘラナデ,下位ヘラ削り。内面ヘラミガキ。内外面とも黒色処理。使用痕:— 備考:—



第86図 市毛上坪遺跡第34次調査区第3号住居跡出土遺物



第 87 図 市毛上坪遺跡第 34 次調査区出土遺物

- 5 台帳：3 住玉 2 材質：土師質 種類：玉 法量：直径 0.7, 厚 (0.4), 重量 0.168g 備考：片側が欠損している。
- 6 台帳：3 住 3 区 材質：滑石 種類：玉 法量：長 1.5, 幅 1.6, 厚 0.7, 重量 3.44g 備考：「〈滑石片岩〉片状, 微粒, 半透明白色, 劈開完全の鉱物, 滑石, 緑泥石, 透閃石, 外形は研磨した製品で, 中央にせん孔あり, 一端面は平滑だが, 対する端面はやや不規則面となっている。外周は軸方向の切削痕あり」(矢野徳也氏による)
- 7 台帳：3 住 4 区床 材質：玉髓 種類：勾玉? 法量：長 0.7, 幅 0.7, 厚 0.4, 重量 0.23g 備考：片側が欠損している。「〈滑石?〉塊状, 半透明白色, 微晶質, 硬度たいへん低い, 微粒黒色不透明物質を含む, 性状では滑石か葉ろう石の可能性はあるが, 組織含有物質等肉眼での決定は難しい。外形は研磨した製品の破片で, 割れた部分にせん孔痕がある。せん孔部分の周囲が摩滅して薄くなり割れたものか。」(矢野徳也氏による)
- 8 台帳：3 住 S2 材質：石 種類：砥石 法量：長 18.8, 幅 8.0, 厚 4.0, 重量 832.1g 特徴：砥石として用いられ鉄が付着する (トーン部分)。砥面は D・E・G 面。刃部調整の刻線あり (C 部分)。A・B・F 部分は敲打痕。砥石に転用されたようである。

### (3) 調査区出土遺物

各遺構の時期と異なる可能性が高い遺物や, 表土から出土した遺物である。

#### 遺物説明

第 87 図

- 1 出土位置・注記：2 住掘形 時代時期：縄文時代中期カ 器種：深鉢

- 型土器カ 文様：口縁部沈線文, 縄文一部あり
- 2 出土位置・注記：2 住 1 区 時代時期：縄文時代中期カ 器種：深鉢型土器カ 文様：沈線文, 単節斜縄文 (LR) 備考：縄文で施文後沈線内擦消し磨く, 器内面磨き, 胎土に海綿骨針含む
- 3 出土位置・注記：1 住 4 区 時代時期：弥生時代 器種：壺形土器カ 法量：最大径 120 mm (残存率 18%) 文様：沈線文 (尖ったへら状工具) 備考：器内面磨き, 器外面赤彩あり
- 4 出土位置・注記：1 住 2 区 時代時期：弥生時代後期 (十王台式) 器種：壺形土器カ 文様：口唇部刻み (棒状工具), 口縁部付加条縄文 (R-S, L-Z)
- 5 出土位置・注記：1 住 2 区 時代時期：弥生時代後期 (十王台式) 器種：不明 文様：櫛描文 (櫛歯 3 本以上) 備考：胎土に金雲母含む
- 6 出土位置・注記：1 住 2 区 時代時期：弥生時代後期 (十王台式カ) 器種：大型壺形土器カ 文様：櫛描文 (櫛歯 4 本)
- 7 出土位置・注記：3 住 1 区 時代時期：弥生時代後期 (十王台式) 器種：大型壺形土器カ 文様：櫛描文 (櫛歯 5 本カ) 備考：器内面剥落
- 8 出土位置・注記：3 住 3 区 時代時期：弥生時代後期 器種：不明 文様：櫛描文 (櫛歯 5 カ) 備考：胎土に海綿骨針含む
- 9 出土位置・注記：3 住 3 区 時代時期：弥生時代後期 器種：不明 文様：櫛描文 (櫛歯 3 本以上) 備考：胎土に海綿骨針含む
- 10 出土位置・注記：3 住 3 区 時代時期：弥生時代後期 (十王台式カ) 文様：櫛描文 (櫛歯 5 本カ), 付加条縄文 (R-S)
- 11 出土位置・注記：2 住 2 区 時代時期：弥生時代後期 (十王台式) 器種：大型壺形土器 文様：付加条縄文 (L×R, R×L)
- 12 出土位置・注記：3 住掘形 時代時期：弥生時代後期 (十王台式) 器種：大型壺形土器 文様：付加条縄文 (L×Rカ)

- 13 出土位置・注記：1住4区 時代時期：弥生時代後期（十王台式）  
器種：大型壺形土器 文様：付加条縄文（R-S）
- 14 出土位置・注記：1住 時代時期：弥生時代後期（十王台式カ） 器種：壺形土器 文様：付加条縄文（R-S, L-Z カ）
- 15 出土位置・注記：2住2区 時代時期：弥生時代後期（十王台式カ）  
器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文（L-Z, R×R）
- 16 出土位置・注記：2住1区 時代時期：弥生時代後期（十王台式）  
器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文（L-Z, R-S）
- 17 出土位置・注記：3住3区 時代時期：弥生時代後期（十王台式）  
器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文（L×R, R×L） 備考：器内面剝落
- 18 出土位置・注記：3住3区 時代時期：弥生時代後期（十王台式カ）  
器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文（R-S） 備考：器内面変色）
- 19 出土位置・注記：1住 時代時期：弥生時代中・後期 器種：不明  
文様：燃糸文（R）カ 備考：胎土に海綿骨針含む
- 20 出土位置・注記：2住2区 時代時期：弥生時代後期 器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文（R-S, L-Z） 備考：器内面変色
- 21 出土位置・注記：2住3区 時代時期：弥生時代後期 器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文（R-S） 備考：器内面変色
- 22 出土位置・注記：3住3区 時代時期：弥生時代後期 器種：小型壺形土器カ 法量：底径54mm（残存率20%） 文様：付加条縄文（LR+2Rカ），底面布目痕 備考：器内面変色

## 2 本郷東遺跡第8次調査報告

### (1) 調査の経過

所在地 / ひたちなか市馬渡字本郷東 3776 番 期間 / 令和3年8月31日～9月16日 担当 / 田中美零, 佐々木義則 面積 / 12 m<sup>2</sup> 時代 / 奈良時代 遺構 / 竪穴住居跡 1 基 (奈良時代)

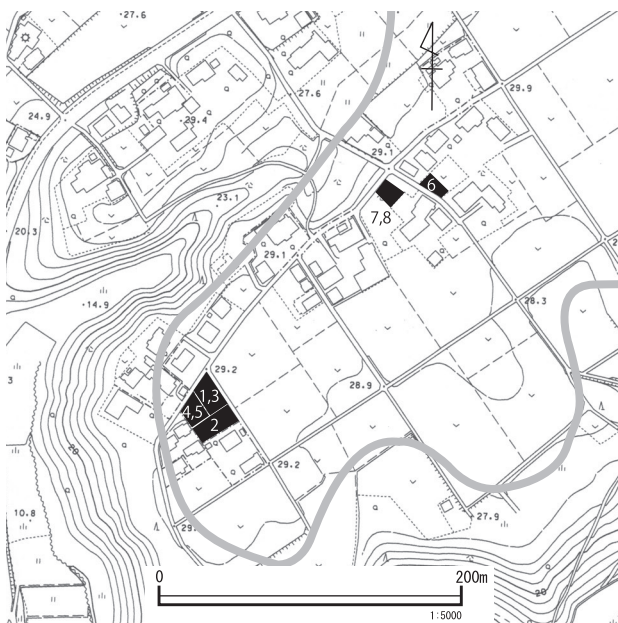
調査地は、本郷川の低地から北東方向へ入り込む小さな谷の谷頭付近に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は荒地であった。今回の調査は個人住宅建築に伴う発掘調査であり、浄化槽部分を中心に調査区が設定された。当地区は試掘調査（第7次調査）がなされているが、今回の調査では試掘結果とほぼ同様の遺構配置が確認された。住居跡の番号は今回の本調査において新たに付け直した。以下、簡単に調査の経過を記す。

8月31日：調査区設定。 9月8日：重機による表土除去。遺構確認，掘り込み開始。 9月10日：図面・写真による記録作業開始。 9月15日：調査区全体図作成。 9月16日：重機による埋め戻し。現場撤収。

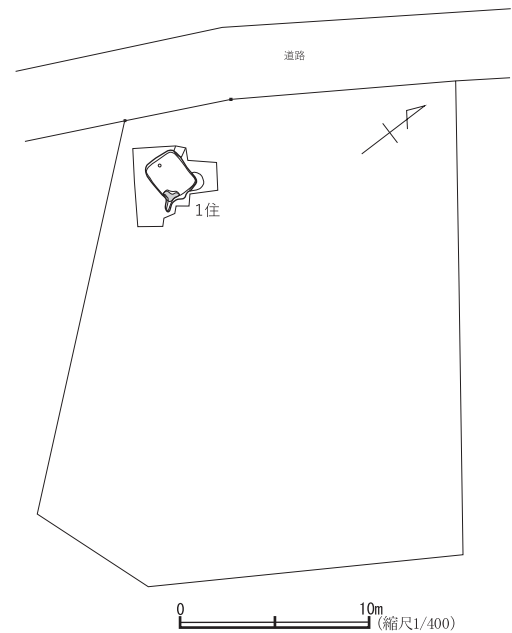
### (2) 住居跡

#### 第1号住居跡

**遺構** 第1号住居跡は他遺構との重複はない。竪穴部の規模は2.5×2.0 m，面積5 m<sup>2</sup>で，形状は長方形である。主軸方向はN-106° -Eを測る。壁高は東壁0.5m，西壁0.6m，南壁0.5m，北壁0.5mを測る。壁周溝は確



第88図 本郷東遺跡の調査地点 (数字は調査回数)



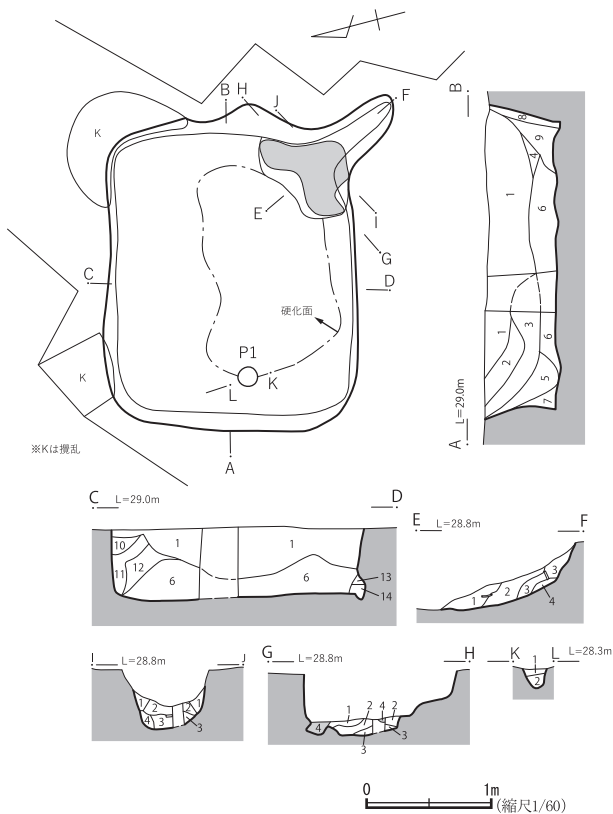
第89図 本郷東遺跡第8次調査区

認できなかったが、住居掘形の調査の際に壁周溝が確認されたので存在していたのかもしれない。ピットは出入口ピットと思われるP1が深さ18cmを測る。支柱穴はない。床面は竈前を中心に南側が硬化していた。竪穴部覆土は第1層の暗褐色土以外は、色調やロームブロックの入り方などからみて人為的埋土のように思われる。竈は竪穴部南東隅に設置され煙道がやや長く伸びる。床面は全く焼けておらず、焼土の堆積もみられなかったため、あまり使用していないのであろう。竈材となる白色粘土は竈手前に少量みられたのみであったので、住居廃絶に際し、竈材を持ち出しているのかもしれない。

住居掘形は床中央部分を深く掘り窪めており、その窪みをロームブロック主体の土により埋め戻している状況が確認できた。

遺物は南壁中央部付近の床面から須恵器杯(1)が逆さに置かれた状態で出土した。その須恵器杯の口縁部には複数個所に油煙が付着していたことから、当住居跡で灯火器として使用されていたのだろう。また竈中層に土師器甕(3)が上から流れ込んだかのように出土している。その土師器甕は底部が抜け、内面が煤けて剥離が顕著にみられることから、煙突として煙出し部分に設置されていたのではないかと推測される。

なお覆土の遺物は土層断面の位置を境として、北東部から右回りにI区、II区、III区、IV区として取り上げている。



第90図 本郷東遺跡第8次調査区第1号住居跡

土層説明

AB・CD土層断面

- 1 暗褐色（ローム粒含む）
- 2 褐色（ローム粒含む）
- 3 明褐色（ローム粒多量含む）
- 4 黒褐色（ローム粒含む）
- 5 黒褐色（ローム粒含む）
- 6 暗褐色（ローム粒やや多量含む  
ローム小ブロック少量含む）
- 7 褐色（ローム粒多量含む）
- 8 明褐色（ロームブロック多量含む）
- 9 明褐色（ローム土多量含む）
- 10 暗褐色
- 11 明褐色（ロームブロック多量含む）
- 12 黒褐色（ローム粒含む）
- 13 黄褐色（ローム土）
- 14 明褐色（ローム粒多量含む）

EF土層断面

- 1 暗褐色（ローム粒・白褐色粘土粒やや多量含む）
- 2 暗褐色（ローム粒・白褐色粘土粒多量含む  
焼土粒含む）
- 3 暗褐色（ローム粒多量含む）
- 4 黄褐色（ローム土主体）

GH土層断面

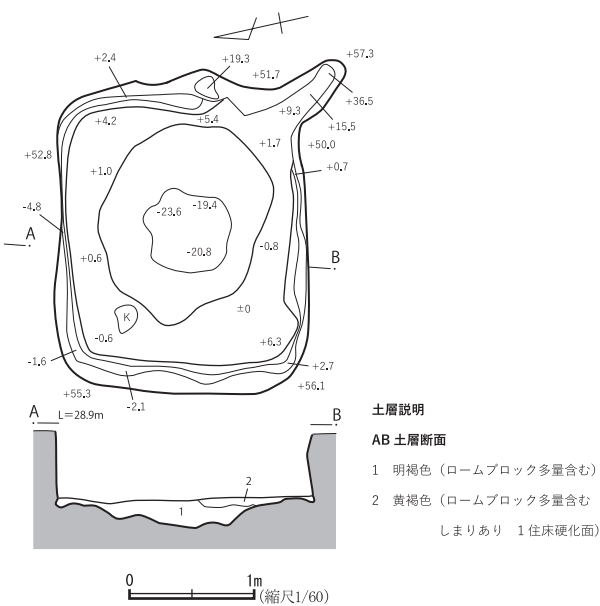
- 1 暗褐色（ローム粒多量含む 白褐色粘土粒含む）
- 2 褐色（ローム粒非常に多量含む）
- 3 暗褐色（ローム粒多量含む）
- 4 白褐色（粘土（カマド材））

IJ土層断面

- 1 明褐色（ローム粒多量含む）
- 2 暗褐色（ローム粒・白褐色粘土粒やや多量含む）
- 3 暗褐色（ローム粒・白褐色粘土粒多量含む  
焼土粒含む）
- 4 褐色（白褐色粘土粒多量含む）

KL土層断面

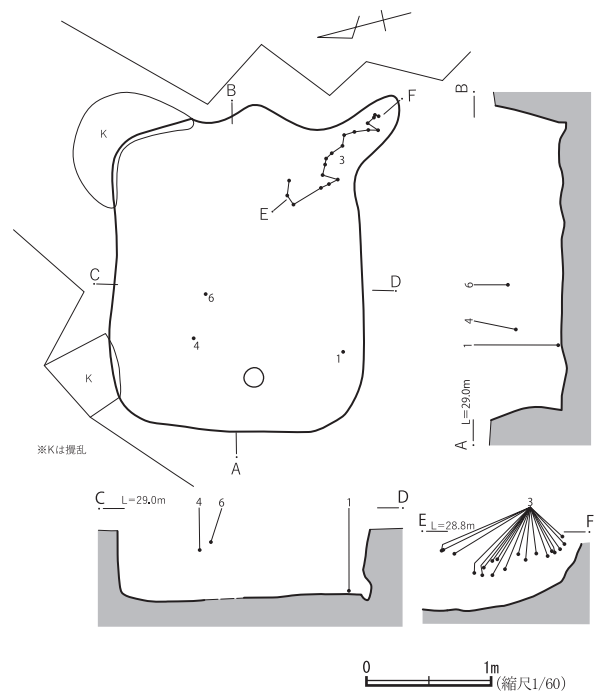
- 1 褐色（ローム粒多量含む）
- 2 明褐色（ローム粒とても多く含む）



土層説明

AB土層断面

- 1 明褐色（ロームブロック多量含む）
- 2 黄褐色（ロームブロック多量含む  
しまりあり 1住床硬化面）



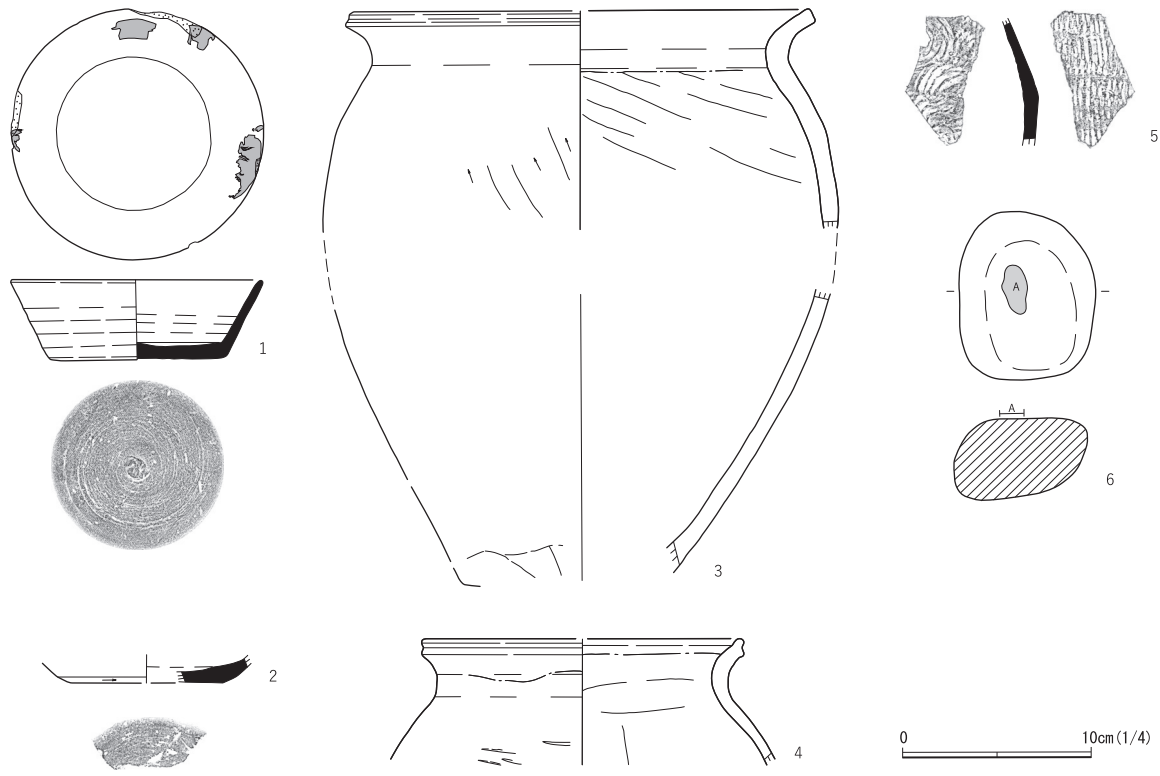
第92図 本郷東遺跡第8次調査区第1号住居跡遺物出土状況

遺物説明

第93図

1 注記:P22 材質:須恵器 器種:杯 残存:完形 法量:口径13.1, 器高4.2, 底径9.0 色調:灰色 胎土:礫(白, 灰少), 骨針 技法等:底部外面回転へう削り。外面底部周縁と口唇部内側が摩擦減着。口唇部がところどころ欠ける。口縁部内面3ヵ所と体部内面1ヵ所に油煙付着。口唇部が欠けた部分に油煙が付着しているため、使用痕の残る杯を灯火器に転用したことがわかる。

2 注記:4区 材質:須恵器 器種:杯 残存:底径(8.0) 色調:灰色 技法等:底部および二次底部面回転へう削り。備考:新治窯産  
3 注記:P9・12, 表土(以上, 上半部・口縁あり), P3・5・8・17(以上, 上半部・口縁なし), P6・10・11・13・14・15・16・18・19・20・21・23・24・2区, 掘形(以上, 下半部) 材質:土師器 器種:甕 残存:上半部60%(口縁部10%), 下半部30%(下端部は全周する), 底部なし 法量:口径(24.0) 色調:橙色, 暗褐色, 黒褐色 胎土:礫(白,



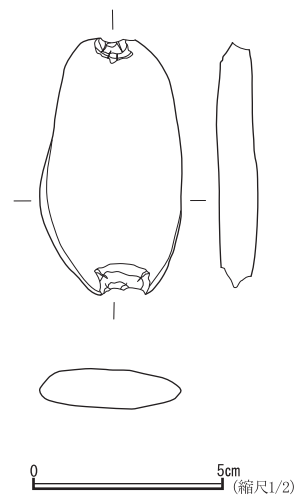
第93図 本郷東遺跡第8次調査区第1号住居跡出土遺物

白透), 砂 (透, 白褐, 白透), 赤色粒 技法等: 外面胴部上半斜方向ヘラ削り。外面胴部下端横方向ヘラ削り。内面胴部上半斜方向ナデ。口縁部内面が黒色に汚染する。外面スス附着。内面剥離顕著, 一部スス附着。  
備考: 底部が抜けているので, 煙突に転用したものか。

4 注記: P1・4区 材質: 土師器 器種: 甕 残存: 口縁部 15% 法量: 口径 (16.6) 色調: 褐色 胎土: 礫 (白透少), 白雲母少 技法等: 肩部外面縦方向ヘラナデ。胴部内面横方向ヘラナデ。口縁部ヨコナデ。頸部内面横方向ナデ。口縁部ススける。

5 注記: 1区 材質: 須恵器 器種: 甕 残存: 胴部片 法量: 一 色調: 灰色 胎土: 礫 (白, 白透) 技法等: 胴部外面縦位平行叩き。胴部内面同心円文叩き。

6 注記: S2 材質: 石 残存: 一部欠失 器種: 叩石 残存: 一部欠失 法量: 長 8.9, 幅 7.2, 厚 4.1, 重量 426.6g 色調: 赤褐色 特徴: 平坦面に浅い敲打痕 A が 1 ヲ所みられる。全体的に火を受けて赤くなり一部ススけている。備考: 「〈細粒黒雲母花崗岩〉塊状, 等晶質, 斑晶なし, 被熱による褐赤色変色, 石英, 長石, 黒雲母, 外形自然礫 (亜円礫), 端部に敲打痕あり」(矢野徳也氏による)



第94図 本郷東遺跡第8次調査区出土遺物

### (3) 調査区出土遺物

各遺構の時期と異なる可能性が高い遺物や, 表土から出土した遺物である。

#### 遺物説明

第94図

1 出土位置・注記: 1住2区 時代時期: 縄文時代カ 器種: 石錘 石材: 閃緑岩 法量: 長 6.8, 幅 3.8, 高 1.0, 重量 42.1g



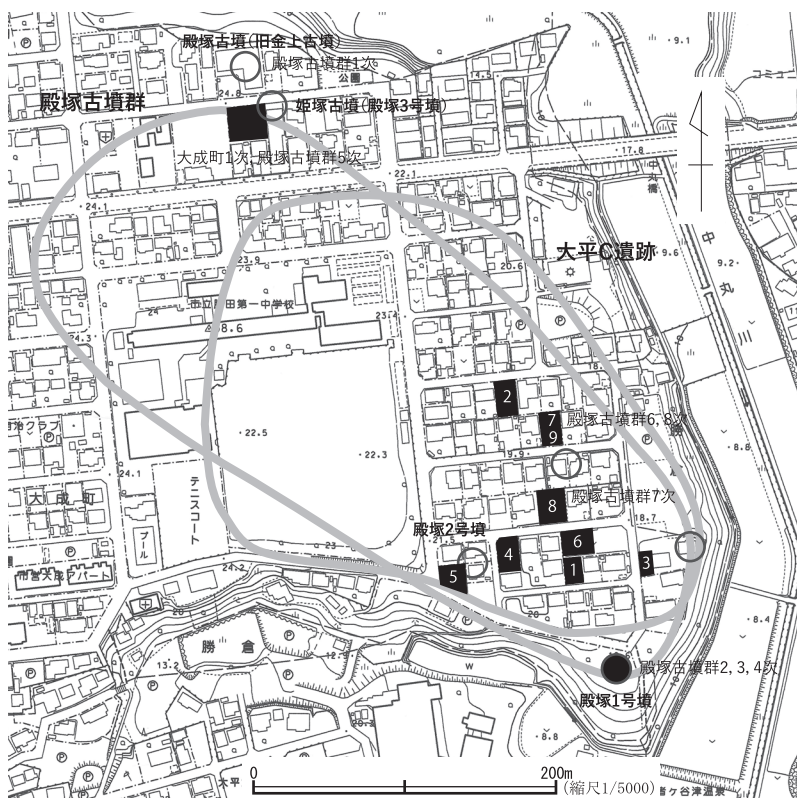
### 3 大平C遺跡第9次・殿塚古墳群第8次 調査報告

#### (1) 調査の経過

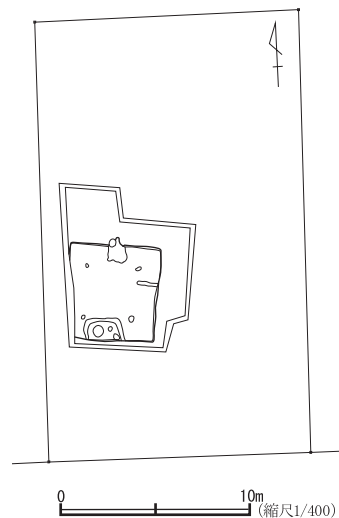
所在地 / ひたちなか市大成町 44 番 13 期間 / 令和 3 年  
10 月 5 日～10 月 26 日 担当 / 田中美零, 佐々木義則  
面積 / 30 m<sup>2</sup> 時代 / 古墳時代 遺構 / 竪穴住居跡 1 基  
(古墳時代後期)

調査地は, 中丸川低地を望む台地縁辺部付近に位置し,  
平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。今回の調  
査は個人住宅建築に伴う発掘調査であり, 宅地部分を  
中心に調査区が設定された。当地区は試掘調査(大平  
C 第 7 次・殿塚古墳群第 6 次調査)がなされているが,  
今回の調査では試掘結果とほぼ同様の遺構配置が確認さ  
れた。住居跡の番号は今回の本調査において新たに付け  
直した。以下, 簡単に調査の経過を記す。

10 月 5 日: 調査区設定。 10 月 6 日: 重機による表  
土除去。遺構確認, 掘り込み開始。 10 月 14 日: 図面  
作成開始。 10 月 24 日: 器材撤収 10 月 25 日: 重機  
による埋め戻し。 10 月 26 日: 現場撤収。



第 95 図 大平 C 遺跡・殿塚古墳群の調査地点 (数字は大平 C 遺跡の調査次数)  
(○印は墳丘が失われた古墳の推定位置)



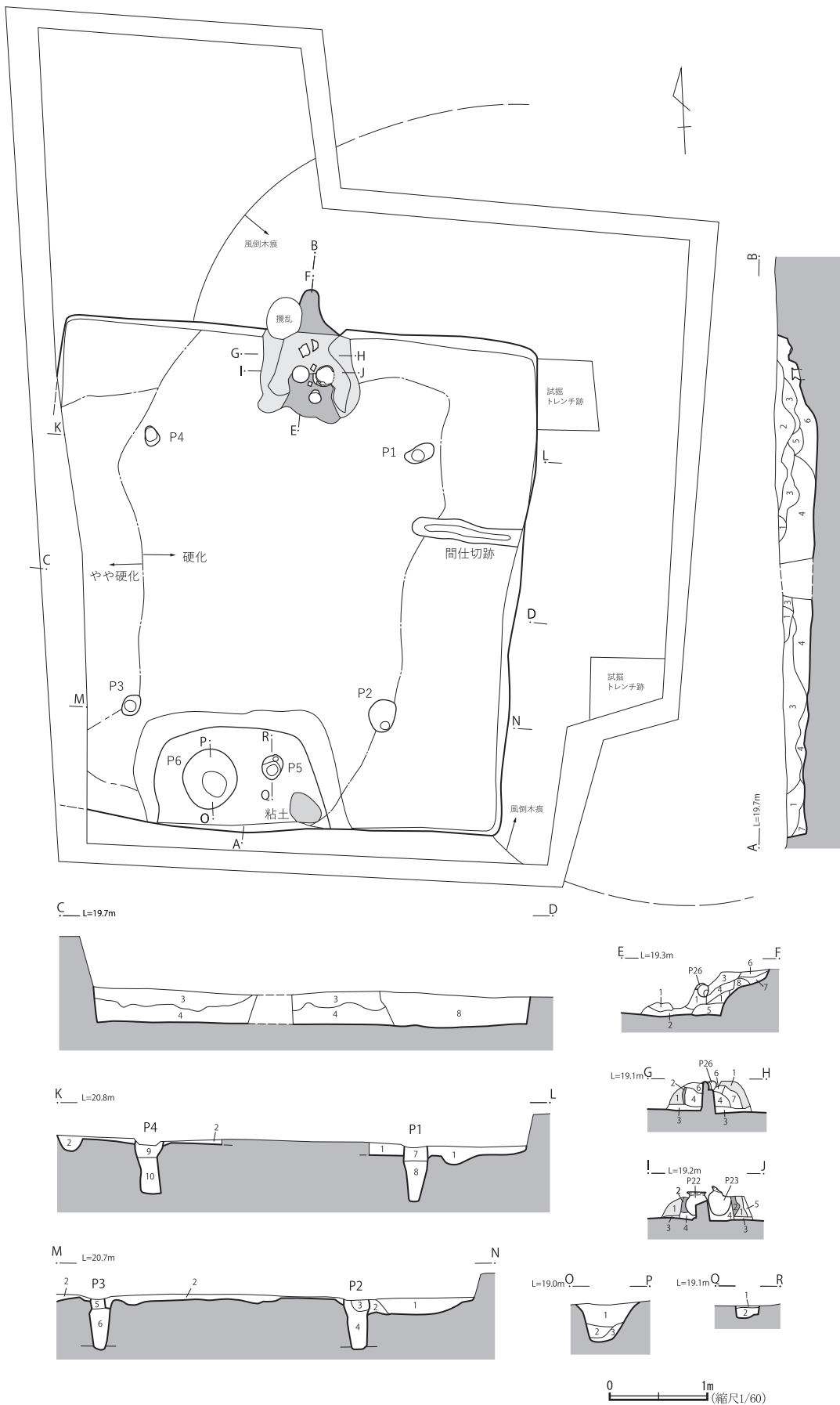
第 96 図 大平 C 遺跡第 9 次・殿塚古墳群第 8 次調査区

#### (2) 住居跡

##### 第 1 号住居跡

**遺構** 第 1 号住居跡は西壁が大部分調査区外となる  
が, 竪穴部の規模は 5.1 × 4.9 m, 面積 25.0 m<sup>2</sup> で, 形  
状は正方形である。主軸方向は N-5° -W を測る。壁高  
は東壁 0.3m, 西壁 0.4m, 南壁 0.2m, 北壁 0.4m を測る。  
壁周溝は確認されなかった。ピットは出入口ピットと思  
われる P5 が深さ 16cm を測る。出入口部分は 4 cm 程

高くなっており, そこに比較的大きなピット  
である P6 が掘られていた。支柱穴は P1 ~ P4  
と思われ, 深さは P1 が 60cm, P2 が 51cm,  
P3 が 54cm, P4 が 56cm を測る。床面は竈前  
から出入口ピットにかけてかなり硬化し, また  
西壁付近の床面もやや硬化がみられた。硬化し  
ていない東壁付近床面には間仕切溝が 1 ヲ所  
確認されている。竪穴部覆土は上層 (第 3 層)  
の黒茶褐色土は自然埋土と思われるが, 下層 (第  
4 層) は, 色調やロームブロックの入り方など  
からみて人為的埋土のように思われた。竈は北  
壁中央に設置され煙道は短い。焚口部や煙道部  
がよく焼けており, 焼土の堆積がみられた。竈  
材となる白色粘土の遺存状況も良く, 竈に土師  
器甕が二つ掛けられたままの状態であったこと  
もあり, 使用時の状況をかなりよく残す貴重な  
事例といえる。住居跡形は時間の都合から北側  
と南側のみの調査となったが, 住居四隅部分  
をやや掘り窪めている様相が捉えられた。南側の



土層説明

AB・CD 土層断面

- 1 黒褐色
- 2 黒茶褐色 (ローム粒少量含む)
- 3 黒茶褐色 (ローム粒・黒色土・黒色粒少量含む 焼土粒微量含む)
- 4 茶褐色 (ローム粒多量含む 黒色粒・ロームブロック少量含む ローム大ブロック微量含む)
- 5 黄褐色 (ロームブロック・粘土ブロック・ローム粒多量含む)
- 6 褐色 (ローム粒多量・粘土ブロック多量含む 黒色粒・焼土粒少量含む)
- 7 黄褐色 (ローム粒多量含む 黒色土少量含む)
- 8 明褐色 (ロームブロック・ローム粒・礫大多量含む)

EF 土層断面

- 1 褐色 (焼土粒多量含む 焼土ブロック含む)
- 2 褐色 (焼土粒含む)
- 3 暗褐色 (褐色土混じる カマド粘土少量混じる)
- 4 褐色 (カマド粘土少量混じる)
- 5 暗褐色 (焼土粒少量含む)
- 6 明褐色 (ローム土混じる)
- 7 暗褐色
- 8 暗褐色 (カマド粘土混じる)

GH・IJ 土層断面

- 1 白褐色 (カマド粘土 砂質)
- 2 赤橙色 (カマド粘土が焼けたもの)
- 3 黒褐色 (カマド粘土少量混じる)
- 4 褐色 (焼土小ブロック多量含む 焼土混じる)
- 5 褐色 (カマド粘土混じる)
- 6 褐色 (カマド粘土混じる)
- 7 褐色 (カマド粘土・焼土少量混じる)

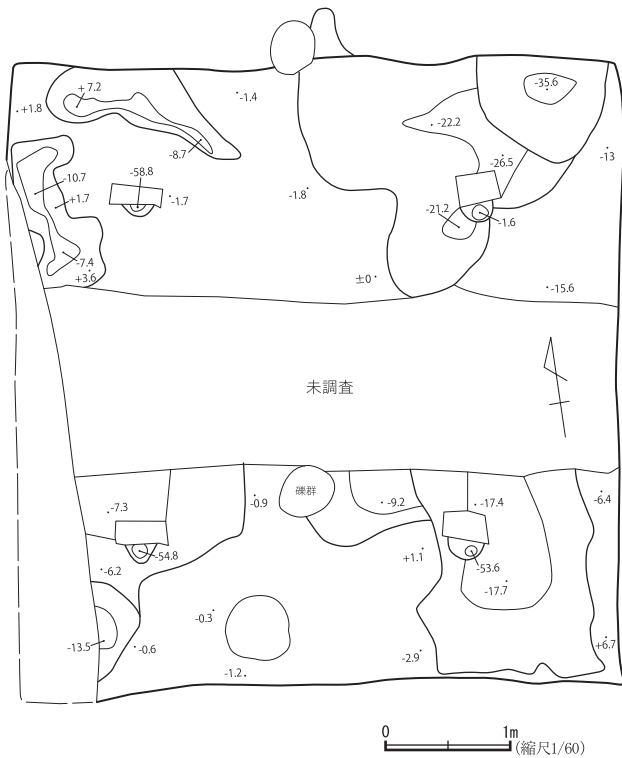
KL 土層断面

- 1 黒褐色 (ローム粒含む)
- 2 明褐色 (ローム粒多量含む)

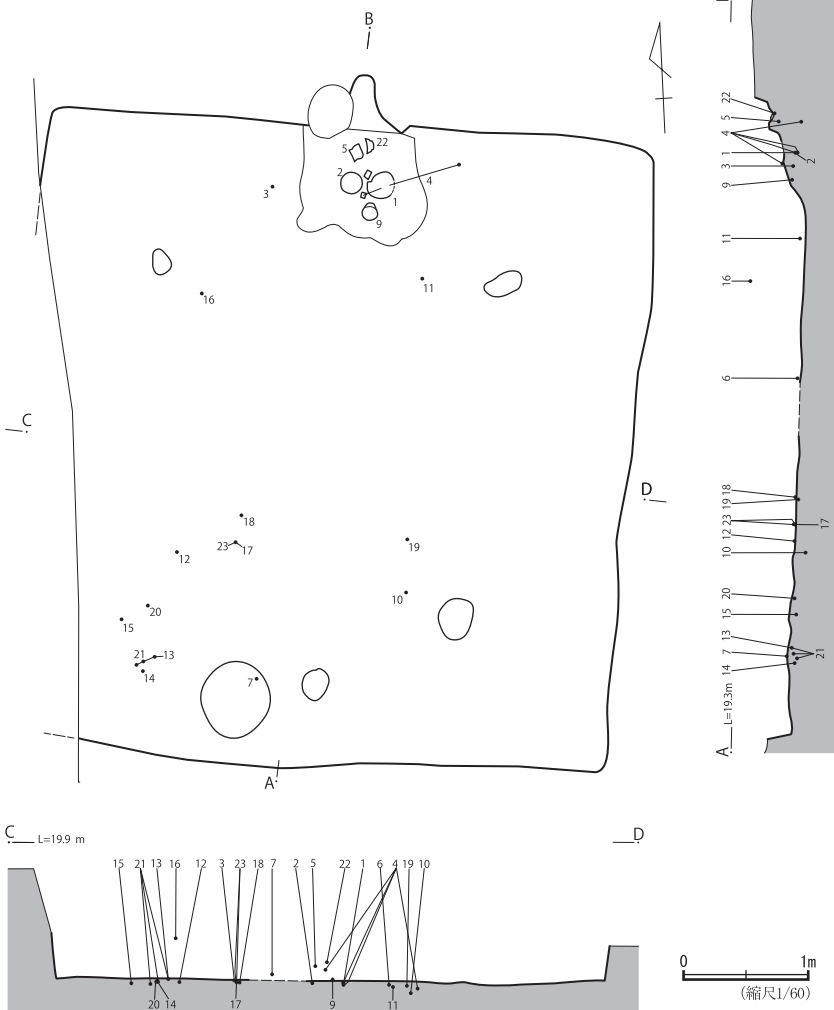
MN 土層断面

- 1 黒褐色 (ローム粒少量含む)
- 2 褐色 (ローム粒多量含む 1層混じる)
- 3 明褐色 (ローム粒主体)

第 97 図 大平 C 遺跡第 9 次・殿塚古墳群第 8 次調査区第 1 号住居跡



第98図 大平C遺跡第9次・殿塚古墳群第8次調査区第1号住居跡掘形  
(数字は±0からの比高差 (cm) を示す。)



第99図 大平C遺跡第9次・殿塚古墳群第8次調査区第1号住居跡遺物出土状況

掘形床面中央付近に2~3cmほどの礫が集中して出土した場所がみられたが、住居と重複する風倒木痕の覆土中に多く含まれる小礫(下層の礫層の礫が持ち上げられたものと考えられる。)と同じものであるので、人為的な礫群ではない可能性が高い。

遺物は完形もしくはほぼ完形の土器が竈及び床面から多数出土した。

竈付近からは、竈に掛けられた状態で2個の甕(1・2)が出土している。竈に向かって右手の甕(1)のほうがやや大きい。それら甕(1・2)に接する北側と南側からは小型壺(5)・杯(22)・鉢(9)が出土するが、これらは置かれていたというより、上方から転がり落ちてきたようにみえる。竈脇床面からは甑(3)が外面を上に向けた状態でつぶれて出土していた。おそらく伏せて床に置かれていたのだろう。竈前からは床に伏せ置かれた杯(11)が出土している。

住居床面南半分からは小型甕と多くの杯が出土した。

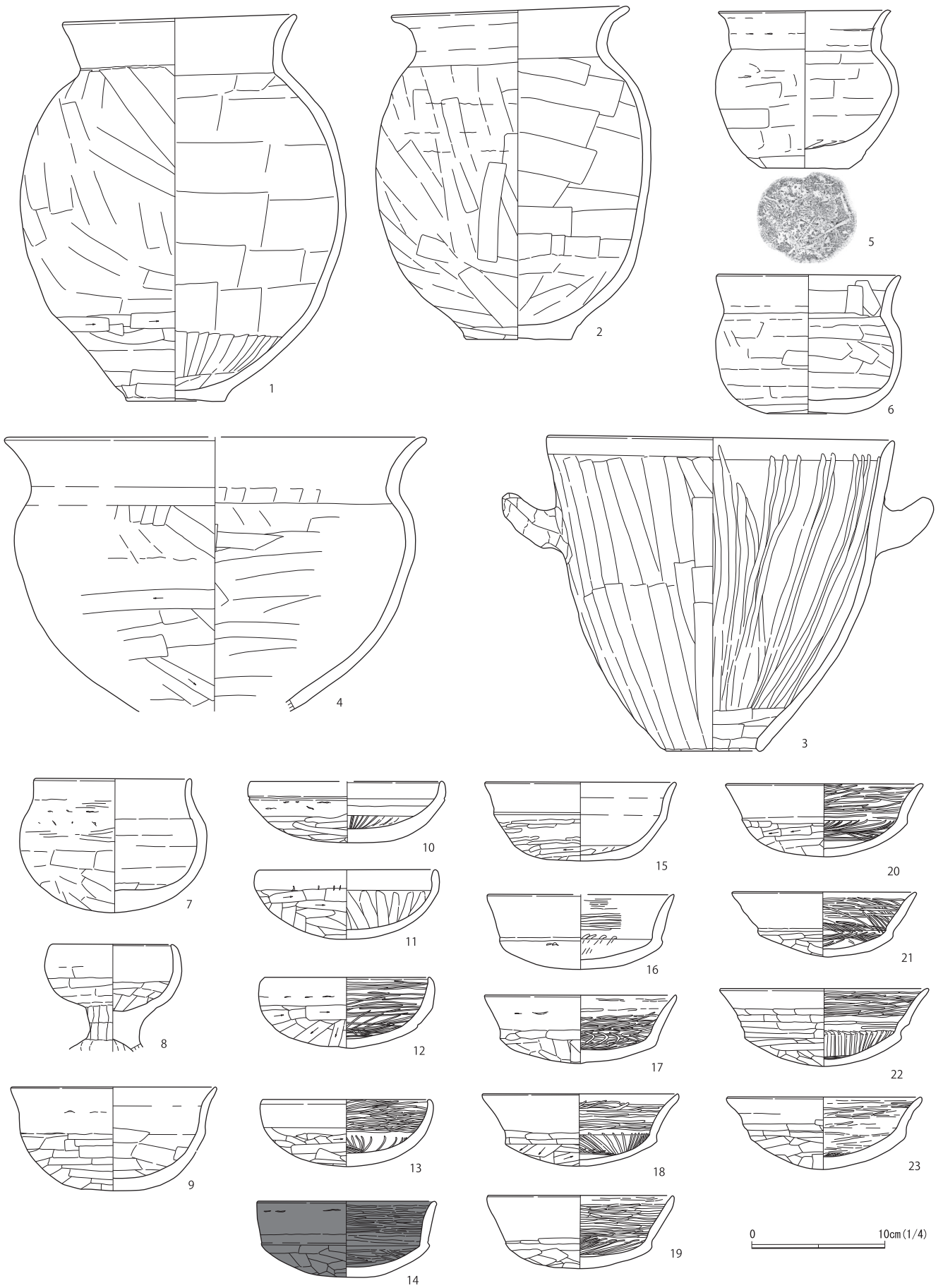
杯(10)以外は完形もしくはほぼ完形の土器である。床面に上向きで置かれていたものは小型甕(6)・杯(10・13・15・17・19・20・23)、下向きで置かれていたものは杯(12・14・18・21)である。このほか住居南壁近くにあるP6の縁あたりから出土した関係の鉢(7)は、斜め上向きの状態で出土した。

### 遺物説明

第100図

1 台帳:P23, 7次8トレンチ2住 材質:土師器  
器種:甕 残存:90% 法量:口径17.3, 高28.5~29.0, 底径7.5 色調:内外面とも橙~にぶい橙~暗褐色。胎土:礫(白微), 砂(白多, 透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 胴部上~中位ヘラナデ・ヘラ削り, 下位~底部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ。使用痕:一  
備考:一

2 台帳:P22 材質:土師器 器種:甕 残存:100% 法量:口径17.7, 高24.3~25.0, 底径7.9 色調:外面橙~浅黄橙~暗褐~黒色。内面橙色。胎土:礫(白微), 砂(白多, 透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 胴部上~中位ヘラナデ・ヘラ削り, 下位~底部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ。使用痕:外面胴部下位~底部が被熱し, 一部器面が剥離している。備考:一



第100图 大平C遺跡第9次・殿塚古墳群第8次調査区第1号住居跡出土遺物

3 台帳:P18, 4区 材質:土師器 器種:甗 残存:95% 法量:口径25.8, 高23.3~23.7, 孔径6.6 色調:外面橙~黒色。内面橙色。胎土:礫(白微), 砂(白多, 透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ・ヘラ削り, 把手部指ナデ。内面口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ・ヘラミガキ, 孔周辺のみヘラ削り。 使用痕:— 備考:—

4 台帳:P1・20・23・24・27・28, 1・4区・掘形 材質:土師器 器種:鉢 残存:20% 法量:口径(31.3), 高(20.5) 色調:外面橙~黒色。内面橙~にぶい橙色。胎土:礫(白微), 砂(白多, 透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 胴部上位ヘラナデ・ヘラ削り, 中~下位ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ。 使用痕:— 備考:—

5 台帳:P26 材質:土師器 器種:小型壺 残存:100% 法量:口径12.7, 高11.8, 底径6.5 色調:内外面とも浅黄橙~橙~褐灰~褐色。胎土:砂(白多, 透多, 灰微) 焼成:良好 技法等:外面口縁部横ナデ, 胴部ヘラナデ, 胴部下位~底部ヘラ削り。底面木葉痕。内面口縁部横ナデ, 胴部ヘラナデ。口縁部に若干輪積痕がみられる。 使用痕:外面胴部がやや被熱している。 備考:—

6 台帳:P3 材質:土師器 器種:小型甕 残存:90% 法量:口径13.5, 高10.5 色調:内外面ともにぶい橙~暗褐色。胎土:砂(白多, 透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 胴部上~中位ヘラナデ, 下位ヘラ削り。輪積痕がみえる。内面ヘラナデ。 使用痕:— 備考:—

7 台帳:P6 材質:土師器 器種:鉢 残存:100% 法量:口径11.6, 高10.0 色調:外面橙~浅黄橙~にぶい橙~黒色。内面橙~浅黄橙色。 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 胴部上位ヘラナデ・ヘラミガキ, 下位ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ。 使用痕:内外面とも器面が摩滅している。外面の一部スス状物の付着。 備考:—

8 台帳:1住 材質:土師器 器種:高杯 残存:杯部60%, 胴部90% 法量:口径9.0, 高(8.0) 色調:外面橙~にぶい橙~褐灰色。内面橙~にぶい橙色。胎土:砂(白多, 透多, 赤少), 骨針微量 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 体~胴部ヘラナデ。内面口縁部ヨコナデ, 体~胴部ヘラナデ。器形が歪んでいる。 使用痕:— 備考:—

9 台帳:P 21 材質:土師器 器種:鉢 残存:100% 法量:口径15.3, 高8.7 色調:外面橙色。内面橙~黒色。胎土:礫(白少), 砂(白多, 透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 胴部上~中位ヘラナデ・ヘラ削り, 下位ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ。 使用痕:— 備考:—

10 台帳:P5, 2E・掘形 材質:土師器 器種:杯 残存:60% 法量:口径(14.3), 高4.5 色調:内外面とも橙~浅黄橙色。胎土:砂(白多, 透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 体部上位ナデ, 中~下位ヘラ削り。内面口縁~体部中位ヨコナデ, 下位ヘラミガキ。 使用痕:— 備考:—

11 台帳:P2 材質:土師器 器種:杯 残存:100% 法量:口径13.2, 高5.2 色調:外面橙~にぶい橙色。内面橙色。胎土:礫(白微), 砂(白多, 透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 体部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ, 体部ヘラナデ。 使用痕:— 備考:—

12 台帳:P16 材質:土師器 器種:杯 残存:100% 法量:口径

12.3, 高5.3 色調:内外面とも橙色。胎土:礫(白微), 砂(白多, 透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 体部ヘラ削り, 一部ヘラナデ。内面口縁部ヨコ方向にヘラミガキ, 体部渦巻き状にヘラミガキ, 中心部はヘラミガキなし。 使用痕:— 備考:—

13 台帳:P10 材質:土師器 器種:杯 残存:100% 法量:口径12.5, 高5.0 色調:外面橙~浅黄橙色。内面橙色。胎土:小石(灰微), 例(灰微), 砂(白多, 透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 体部上位ナデ, 中~下位ヘラ削り。内面口縁部ヘラミガキ, 体部渦巻き状にヘラミガキ。 使用痕:— 備考:—

14 台帳:P11 材質:土師器 器種:杯 残存:100% 法量:口径13.3, 高5.7 色調:内外面とも赤~浅黄橙色。胎土:砂(白多, 透多, 赤少) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 体部ヘラ削り。内面ヘラミガキ。内外面とも赤彩されている。 使用痕:口縁端部が摩滅している。 備考:—

15 台帳:P14 材質:土師器 器種:杯 残存:100% 法量:口径14.1, 高5.9 色調:外面にぶい橙~黒色。内面にぶい橙色。胎土:礫(白微), 砂(白多, 透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 体部上位ヘラナデ, 下位ヘラ削り。内面口縁~体部上位ヨコナデ, 下位ヘラナデ。 使用痕:— 備考:—

16 台帳:P17 材質:土師器 器種:杯 残存:20% 法量:口径(13.9), 高5.6 色調:内外面とも橙~赤褐色。胎土:砂(白多, 透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 体部ヘラ削り?内面口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ, 体部ヘラミガキ? 使用痕:— 備考:外面体部は摩滅していて, 内面器面はうすく所々が剥離している。

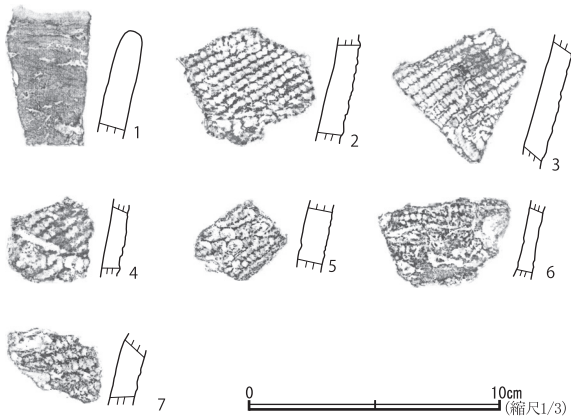
17 台帳:P8 材質:土師器 器種:杯 残存:90% 法量:口径14.3, 高5.1 色調:外面橙~浅黄橙色。内面橙色。胎土:礫(灰微), 砂(白多, 透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 体部ヘラ削り, 一部ヘラナデ。内面ヘラナデ・ヘラミガキ。 使用痕:内面口縁部上位が摩滅している。 備考:—

18 台帳:P9 材質:土師器 器種:杯 残存:100% 法量:口径14.5, 高5.4 色調:内外面とも橙色。胎土:砂(白多, 透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 下位のみヘラナデ, 体部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ, 体部渦巻き状にヘラミガキ, 中心部にはヘラミガキなし。 使用痕:— 備考:—

19 台帳:P4 材質:土師器 器種:杯 残存:90% 法量:口径13.3, 高5.5 色調:外面橙~にぶい橙~黒色。内面橙色 胎土:礫(白微), 砂(白多, 透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 体部との境はヘラナデ, 体部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ, 体部渦巻き状にヘラミガキ, 中心部はヘラミガキなし。 使用痕:口縁端部やや摩滅している。 備考:—

20 台帳:P15 材質:土師器 器種:杯 残存:90% 法量:口径14.5, 高5.5 色調:外面赤橙~浅黄橙~黒色。内面赤橙色。胎土:砂(白多, 透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 体部ヘラ削り。内面口縁部ヘラミガキ, 体部渦巻き状にヘラミガキ, 中心部はヘラミガキなし。 使用痕:— 備考:—

21 台帳:P12・13・19 材質:土師器 器種:杯 残存:90% 法量:口径13.4~13.8, 高4.9 色調:外面赤橙~浅黄橙~黒色。内面赤橙色。胎土:砂(白多, 透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 体部ヘラ削り。内面ヘラナデ, ヘラミガキ。 使用痕:— 備考:器形がやや歪んでいる。



第 101 図 大平 C 遺跡第 9 次・殿塚古墳群第 8 次調査区出土遺物

22 台帳：P25 材質：土師器 器種：杯 残存：90% 法量：口径 15.4, 高 5.8 色調：内外面とも橙色。胎土：礫（白多，透多），砂（白多，透多） 焼成：良好 技法等：外面口縁部上位ヨコナデ，下位雑なヘラナデ，体部ヘラ削り。内面口縁部ヘラミガキ，体部放射状にヘラミガキ。 使用痕：— 備考：—

23 台帳：P7・8, 3区 材質：土師器 器種：杯 残存：100% 法量：口径 14.5, 高 5.4 色調：外面橙～にぶい橙～黒色。内面橙色。胎土：（白微），砂（白多，透多） 焼成：良好 技法等：外面口縁部上位ヨコナデ，下位雑なヘラナデ，体部ヘラ削り。内面ヘラミガキ。 使用痕：内面器面が摩滅している。 備考：—

### (3) 調査区出土遺物

各遺構の時期と異なる可能性が高い遺物や，表土から出土した遺物である。

#### 遺物説明

第 101 図

- 1 出土位置・注記：1 住掘形 時代時期：縄文時代中期（加曾利 E 式） 器種：深鉢型土器カ 備考：器内外面磨き
- 2 出土位置・注記：1 住 4 区 時代時期：縄文時代前期（森東式） 器種：深鉢型土器カ 文様：単節斜縄文（LR） 備考：胎土に繊維含む
- 3 出土位置・注記：1 住 4 区 時代時期：縄文時代前期 器種：深鉢型土器カ 文様：単節斜縄文（LR, RL） 備考：胎土に繊維含む
- 4 出土位置・注記：1 住 4 区 時代時期：縄文時代前期 器種：深鉢型土器カ 文様：単節斜縄文（LR） 備考：胎土に繊維含む
- 5 出土位置・注記：1 住 1 区 時代時期：縄文時代前期 器種：深鉢型土器カ 文様：単節斜縄文（LR） 備考：胎土に繊維含む
- 6 出土位置・注記：1 住 時代時期：縄文時代前期 器種：深鉢型土器カ 文様：単節斜縄文（RL） 備考：胎土に繊維含む
- 7 出土位置・注記：1 住 2 区 時代時期：縄文時代前期 器種：深鉢型土器カ 文様：単節斜縄文（LR） 備考：胎土に繊維含む

### (4) 調査地点の地質学的特性

那珂川に沿って、那珂台地面より一段低い、中位段丘面 I 面（茨城県農地部農地計画課、1990・2004）が発達している。上市段丘面（貝塚、1957）と同じものであり、那珂川の作った河成段丘面である。那珂川の支流の中丸川には幅は狭いが河川に沿って中位段丘面より一段低い中位段丘面 II 面がみられる。分級の良好でない砂礫層を始良－丹沢テフラを含む関東ローム層が覆う（茨城県農地部農地計画課、1990）。中丸川の浸食により形成された段丘とされている。坂本ほか（1972）でも、低位段丘や北向き緩斜面が認められ、ロームには今市軽石がみられ、礫層を覆い、立川期の形成としている。大平 C 遺跡は、中位段丘 I より一段低い中位段丘 II に位置すると考えられる。

遺跡では表土より礫層上面までが観察された。約 2 万 9000 年前に噴出した始良－丹沢テフラは明瞭でなかったが、遺構確認面では 1 万 7700 年前の男体－今市テフラ並びに男体－七本桜テフラに由来すると思われる、橙色及び黄色の軽石粒が認められた。中位段丘 I 面に分布する赤城－鹿沼テフラは認められなかったため、4 万年より新しい時期の段丘と考えられる。

那珂台地を構成する高位段丘面ではローム層の下位に粘土層が発達するが、中位段丘面では河成の礫層を直接関東ローム層が覆う。遺構内では関東ローム層内に多量の礫が混入しているが、これは初生的なものではなく、遺構の北東部を中心に遺構確認部分の大半に及ぶ、大きな倒木痕が推定されているが、倒木に伴って根系が引っ張り上げられることにより、下位の礫層の一部が混入したと考えることが妥当と思われる。（矢野徳也）

参考文献

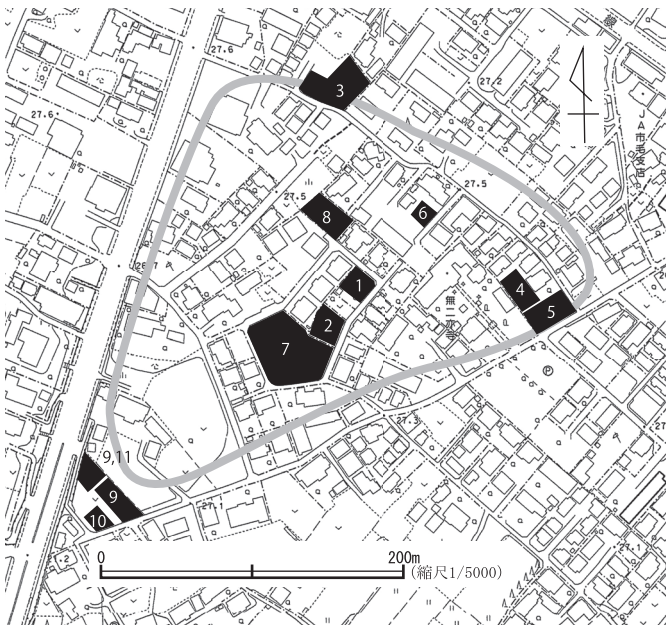
- 貝塚爽平（1957）：関東平野北東部の洪積台地，地学雑誌  
 茨城県農地部農地計画課（1990）土地分類図「那珂湊」，茨城県  
 茨城県農地部農地計画課（2004）土地分類図「水戸」，茨城県  
 坂本ほか（1972）那珂湊地域の地質，工業技術院地質調査所

## 4 市毛本郷坪遺跡第 11 次調査報告

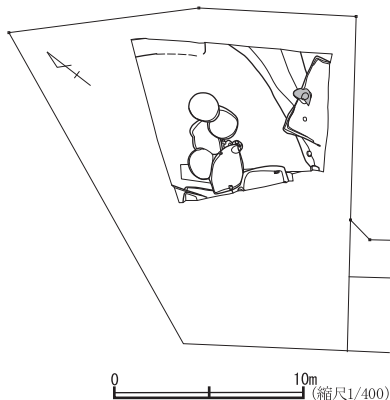
### (1) 調査の経過

所在地 / ひたちなか市市毛字本郷坪 469 番 10 ほか 期間 / 令和 3 年 11 月 10 日～12 月 3 日 担当 / 田中美零, 佐々木義則 面積 / 67 m<sup>2</sup> 時代 / 古墳時代～近世 遺構 / 竪穴住居跡 4 基 (奈良・平安時代 3 基, 時期不明 1 基), 溝跡 1 条 (中世), 土坑 8 基 (古墳時代 3 基, 近世 1 基, 近世以前 4 基)

調査地は, 那珂川低地から北方へ入り込む小さな谷 (現在は国道 6 号線) を望む台地上に位置し, 平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。今回の調査は個人住宅建築に伴う発掘調査であり, 宅地部分を中心に調査区が設定された。当地区は試掘調査 (第 9 次調査) がなされており, 今回の調査でも試掘結果とほぼ同様の遺構配置



第 102 図 市毛本郷坪遺跡の調査地点 (数字は調査回数)



第 103 図 市毛本郷坪遺跡第 11 次調査区

が確認されているが, 試掘調査では住居跡と推測した一部の遺構が土坑群になったこと等, 試掘調査の推定とは異なる部分もあった。住居跡の番号は今回の本調査において新たに付け直した。以下, 簡単に調査の経過を記す。

11 月 10 日: 調査区設定。 11 月 11 日: 重機による表土除去。遺構確認, 掘り込み開始。 11 月 16 日: 図面作成開始。 11 月 26 日: 調査終了 11 月 30 日～12 月 2 日: 重機による埋め戻し。 12 月 3 日: 現場撤収。

### (2) 住居跡

#### 第 1 号住居跡

第 1 号住居跡は西壁南側を一部調査したにとどまるうえ, 床面まで攪乱が及んでいるため遺存状況は悪い。竪穴部の規模は一辺 4 m 以上を測る。住居掘形は土層断面部分の様相からみると, 30cm ほどの掘り込みが認められた。出土遺物は土師器・須恵器破片が少量出土したのみであるが, 遺物からみて古墳時代後期以後の住居跡と考えられる。

#### 第 2A・B 号住居跡

第 2A・2B 号住居跡は東壁の一部を調査したにとどまる。竪穴部の規模はいずれも不明である。壁高は第 2A 号住居跡が 0.3m, 第 2B 号住居跡が 0.2m を測る。出土遺物は土師器・須恵器破片が少量出土したのみであるが, 遺物からみて古墳時代以後の住居跡と考えられる。

#### 遺物説明

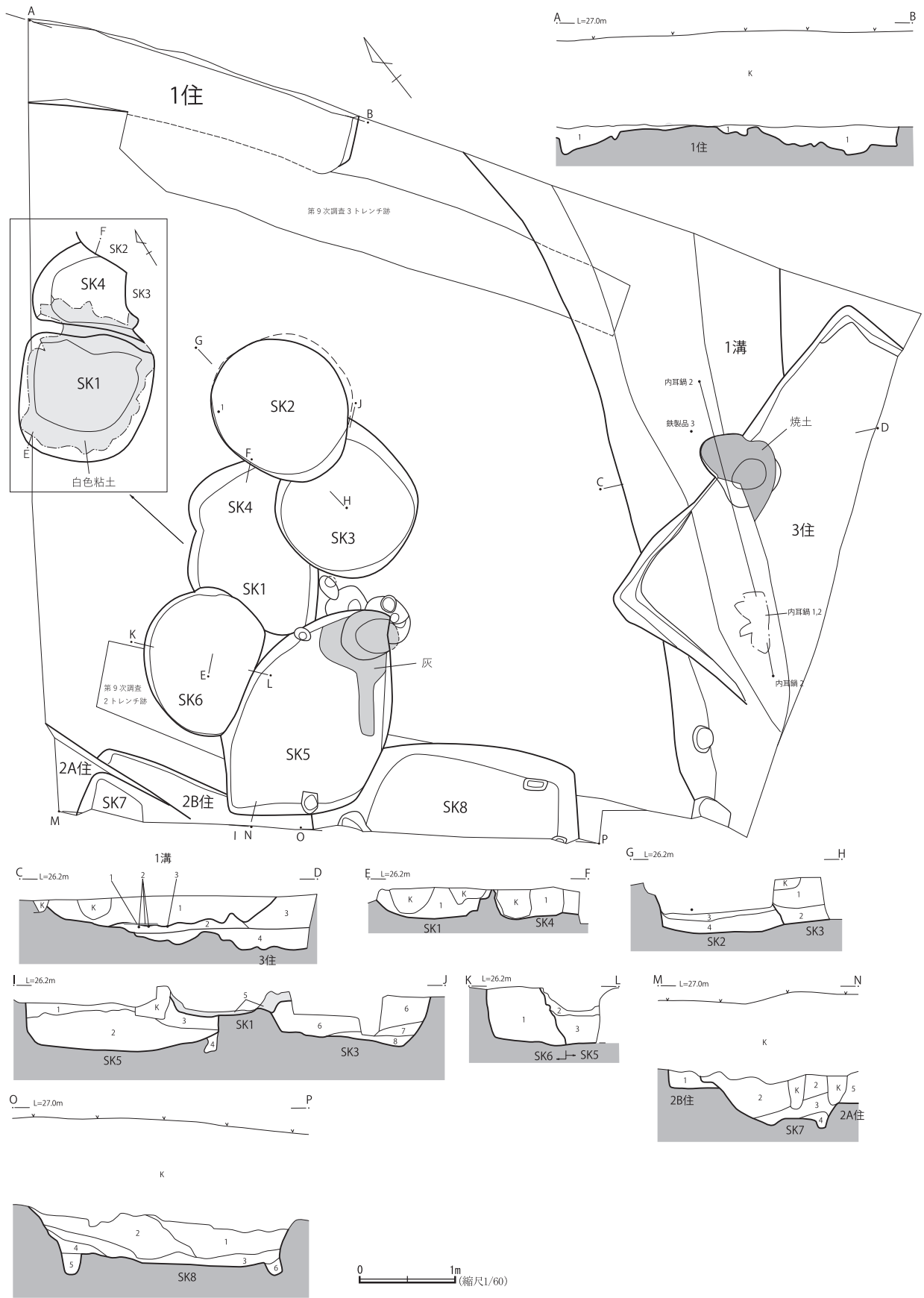
第 105 図

1 出土位置: 2 住 材質: 須恵器 器種: 蓋 残存: 口縁部少片 法量: 一 色調: 灰色 胎土: 礫 (白透), 砂 (白) 技法等: 一 備考: 一

#### 第 3 号住居跡

**遺構** 第 1 号住居跡は第 1 号溝跡と重複し, 北西部分床面の一部が溝跡により壊されていた。竪穴部の規模は東西 4.3 m を測る。主軸方向は N-14° -W を測る。壁高は東壁 0.4m, 北壁 0.3m を測る。壁周溝は住居隅部に確認できた。支柱穴等のピットは確認されていない。竈は第 1 号溝跡に壊されており遺存状況は良くないが, 焼土の堆積が認められている。住居掘形は土層断面部分での観察では, 25cm ほどの掘り込みが認められた。出土遺物は土師器椀 (もしくは有台杯) の出土からみて, 9～10 世紀頃に位置づけられよう。

#### 遺物説明



第104図 市毛本郷坪遺跡第11次調査区遺構全体



第104図 土層説明

AB 土層断面

- 1 黄褐色（ローム大ブロック・炭化物多量含む 焼土粒含む  
1住掘形埋土）

CD 土層断面

- 1 暗褐色（ローム粒少量含む）
- 2 褐色（ローム粒やや多量含む）
- 3 褐色（ローム粒やや多量含む ローム小ブロック含む）
- 4 明褐色（ロームブロック多量含む 3住掘形埋土）

EF 土層断面

- 1 暗褐色（ローム小ブロック・褐色粘土小ブロック多量含む  
小礫含む 締り有り）

GH 土層断面

- 1 暗褐色（ローム小ブロック含む ローム粒やや多量含む）
- 2 暗褐色（ロームブロック多量含む）
- 3 暗褐色（ローム小ブロック多量含む ロームブロック含む）
- 4 褐色（ロームブロック多量含む）

IJ 土層断面

- 1 褐色（ロームブロック含む ローム粒多量含む）
- 2 黄褐色（ロームブロック非常に多量含む 暗褐色土混じる）
- 3 褐色（ロームブロック多量含む）
- 4 黄褐色（ローム土主体）
- 5 白褐色（粘土）
- 6 暗褐色（ローム小ブロック・ローム粒やや多量含む）
- 7 明褐色（ローム小ブロック多量含む ローム粒非常に多量含む）
- 8 黄褐色（ロームブロック主体）

KL 土層断面

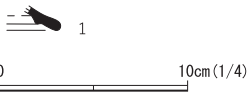
- 1 褐色（ロームブロック少量含む ローム小ブロックやや多量含む）
- 2 白褐色 粘土
- 3 黄褐色（ロームブロック非常に多量含む）

MN 土層断面

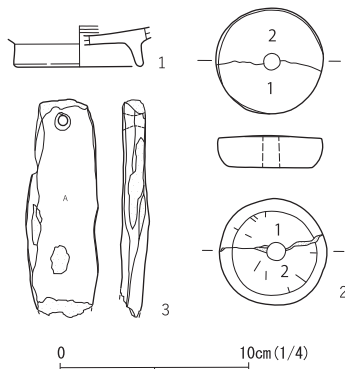
- 1 暗褐色（ローム粒少量含む 黒褐色土混じる）
- 2 暗褐色（ローム粒含む）
- 3 黒褐色（ローム粒少量含む）
- 4 明褐色（ロームブロック多量含む）
- 5 褐色（ローム粒含む）

OP 土層断面

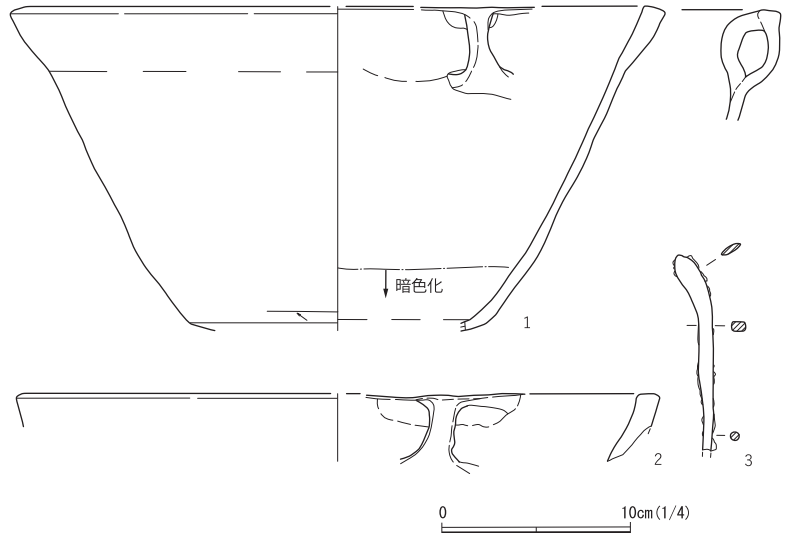
- 1 褐色（ローム小ブロックやや多量含む ロームブロック含む）
- 2 褐色（ローム小ブロック多量含む）
- 3 褐色（ローム粒多量含む）
- 4 褐色（ローム小ブロックやや多量含む 灰混じる）
- 5 褐色（ローム小ブロック多量含む）
- 6 暗褐色（ローム粒多量含む）



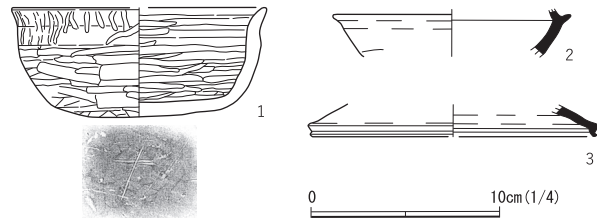
第105図 市毛本郷坪遺跡第11次調査区第2A・B号住居跡出土遺物



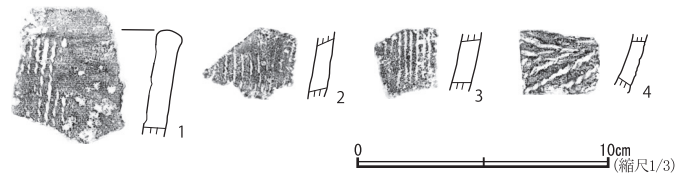
第106図 市毛本郷坪遺跡第11次調査区第3号住居跡出土遺物



第107図 市毛本郷坪遺跡第11次調査区第1号溝跡出土遺物



第108図 市毛本郷坪遺跡第11次調査区土坑出土遺物



第109図 市毛本郷坪遺跡第11次調査区出土遺物

第106図

1 出土位置：1溝 材質：土師器 器種：有台杯 残存：高台径6.5、内面黒色 胎土：砂（透多） 技法等：底部外面回転糸切り痕。底部内面へラミガキ（一方向）・黒色処理。高台接地面摩滅。

2 出土位置：3住 注記：紡錘車1・2 材質：土師器 器種：紡錘車 残存：完形（2片が接合） 法量：5.7×5.6×1.7、重量67.6g 色調：橙褐色・黒褐色。胎土：— 技法等：全面へラミガキ（摩滅により不明瞭）

3 出土位置：1溝 材質：石 器種：砥石 残存：周囲が部分的に欠失 法量：残存：長11.5、幅3.8、厚さ1.4、重量95.4g 色調：明青灰色 特徴：1面使用（A面以外の3面はやや研磨されている。備考：「白雲母石英片岩（片状、完晶質。帯淡緑淡褐色。白雲母、石英、緑泥岩、黄鉄鉱後の褐鉄鉱。外形は長板形自然礫。日立片岩か。」（矢野徳也氏による）

備考：「白雲母石英片岩（片状、完晶質。帯淡緑淡褐色。白雲母、石英、緑泥岩、黄鉄鉱後の褐鉄鉱。外形は長板形自然礫。日立片岩か。」（矢野徳也氏による）

(3) 溝跡

第1号溝跡

第1号溝跡は、幅2.4m、深さ0.3mを測る。暗褐色土の覆土を主としており自然埋土と考えられる。内耳土

鍋を出土することから中世後期に位置づけられよう。市毛本郷坪遺跡の南西に隣接する市毛館跡に関係する溝になる可能性が考えられる。

## 遺物説明

第 107 図

1 出土位置：1 溝 注記：P8 材質：土師質 器種：内耳鍋 残存：口縁部 50% (内耳 1 ヶ所遺存)、体部 40% 法量：口径 (32.7)、器高 (17.1)、底径 (15.7) 色調：外面体部黒色・底部暗茶褐色、内面褐色・暗褐色、断面外側橙褐色・内側灰色 胎土：砂 (透多)、骨針多 技法等：内面横方向ナデ。外面体部下端へラ削り。体部外面煤付着。内面底部付近汚染により暗色化。

2 出土位置：1 溝 注記：P5・8・10 材質：土師質 器種：内耳鍋 残存：口縁部 15% (内耳 1 ヶ所遺存) 法量：口径 (33.3) 色調：外面黒色。内面褐色。断面外側明褐色、内側灰色。胎土：細砂 (透多)、骨針少 技法等：内面横方向ナデ。外面煤付着。

3 出土位置：1 溝 注記：11 材質：鉄 器種：不明 残存：— 法量：残存長 10.4、重量 17.0g

## (4) 土坑

### 第 1 号土坑

不整形な隅丸方形を呈する粘土貼り土坑である。1.4 × 1.5m、深さ 0.3 m を測る。白色粘土の一部が第 4 号土坑底面まで及んでいることから、第 1 号土坑と第 4 号土坑は同時に掘られたものと考えられる。第 1 号土坑からの出土遺物はないが、第 4 号土坑が近世に位置づけられることから、第 1 号土坑も近世と考えられる。

### 第 2 号土坑

円形を呈する土坑である。1.5 × 1.7m、深さ 0.5 m を測る。出土土器からみて古墳時代中期の土坑と思われる。

### 第 3 号土坑

円形を呈する土坑である。1.6 × 1.8m、深さ 0.5 m を測る。遺物は土師器片や不明小鉄片が出土した。出土した土師器片からみて古墳時代中期になる可能性が高いと思われる。

### 第 4 号土坑

全体形は不明である。深さ 0.3 m を測る。第 1 号土坑に付属する土坑と思われる。陶器 (菊皿口縁部片・常滑甕胴部片等) や瓦質土器 (火鉢胴部片) の出土から、近世と思われる。

### 第 5 号土坑

不整円形を呈する土坑である。2.8 × 1.7m、深さ 0.7 m を測る。床面上に 40cm の厚さで、スサが入ったローム土の大きなブロックが多量に堆積していた。当土坑に

形成されていた天井の部材が崩壊・堆積したものである。床面には東側端部に深さ 10 cm 程のピットがあり、その部分を中心に灰の堆積がみられた。灰を洗ったところ、そのなかから数百粒の炭化種実、炭化したオギの地下茎が見つかった。なお出土遺物は土師器・須恵器片が主体であるが、そのなかに 1 点だけ内耳土鍋破片が認められたため、当土坑の年代は中世後期になる可能性が高いと考えられる。

## 第 6 号土坑

不整円形を呈する土坑である。1.6 × 1.3m、深さ 0.6 m を測る。遺物は土師器片を主に少量の須恵器片や磁器片が混じる。第 5 号土坑より古いことや遺物の様相などからみて、第 2・3 号土坑と同じ古墳時代中期頃の土坑とみたい。

## 第 7 号土坑

第 2A・2B 号住居跡と重複する土坑である。形状や規模は不明である。住居跡より新しいことからみて古墳時代以後の土坑といえる。

## 第 8 号土坑

全体形は不明であるが 1 辺 3.0m を測る方形土坑である。遺物は土師器片を主に少量の須恵器片が出土している。1 点だけ磁器口縁部片が出土している。年代を決めるのが難しいが、第 5 号土坑と規模が似ており、中世以後になる可能性は高いのではないだろうか。

## 遺物説明

第 108 図

1 台帳：SK2 P1 材質：土師器 器種：杯 残存：30% 法量：口径 (13.3)、高 5.8 色調：内外面とも橙色。胎土：礫 (白微)、砂 (白多、透多) 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ後へラミガキ、体部へラ削り後へラナデ・へラミガキ。内面へラナデ・へラミガキ。 使用痕：— 備考：外面底面に「×」字状のへラ記号。

2 出土位置：6 号土坑 材質：須恵器 器種：杯 残存：体部 10% 法量：— 色調：灰色 胎土：礫 (白透少)、砂 (白透少) 技法等：体部片下端にへラ削り痕あり。 備考：湖西産か

3 出土位置：8 号土坑 材質：須恵器 器種：蓋 残存：口縁部 10% 法量：口径 (14.9) 色調：灰色 胎土：— 技法等：— 備考：湖西産か

## (5) 調査区出土遺物

各遺構の時期と異なる可能性が高い遺物や、表土から出土した遺物である。

## 遺物説明

第 109 図

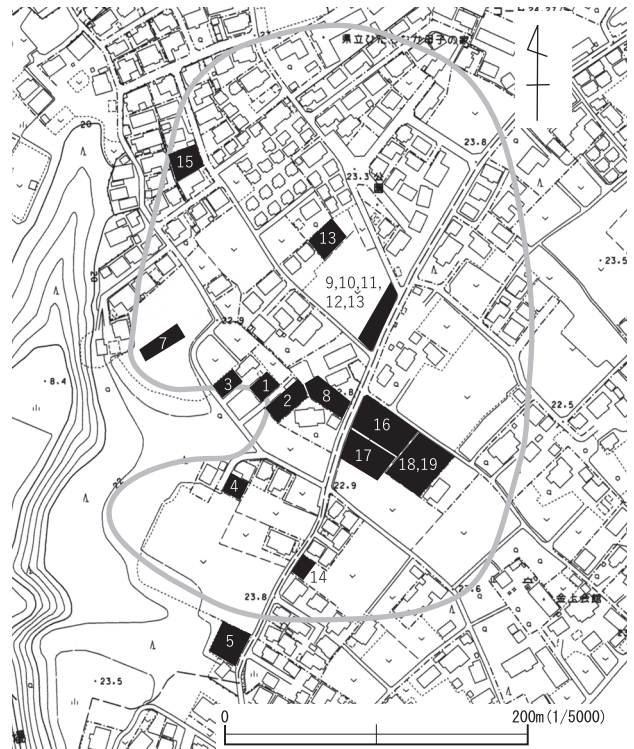
- 1 出土位置・注記：3住 時代時期：縄文時代早期（稲荷台式） 器種：尖底深鉢形土器 文様：捺糸文(R) 備考：器内面剥落
- 2 出土位置・注記：SK2 時代時期：縄文時代早期（稲荷台式） 器種：尖底深鉢形土器カ 文様：捺糸文(R)
- 3 出土位置・注記：1溝 時代時期：縄文時代早期（稲荷台式） 器種：尖底深鉢形土器カ 文様：捺糸文(R)
- 4 出土位置・注記：1住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：不明 文様：付加条縄文(L×L, R×Rカ)

## 5 大房地遺跡第19次調査報告

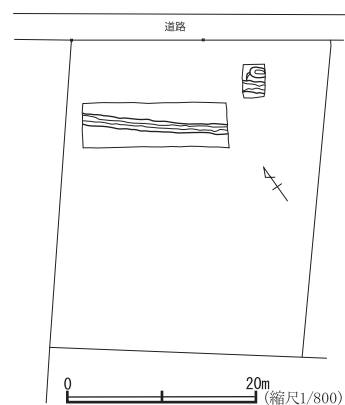
### (1) 調査の経過

所在地 / ひたちなか市金上字畑ヶ原 873 番 期間 / 令和3年12月2日～12月14日 担当 / 田中美零, 佐々木義則 面積 / 85 m<sup>2</sup> 時代 / 縄文・古墳～平安時代 遺構 / 竪穴住居跡1基(時期不明), 溝跡2条(奈良時代1条, 時期不明1条), 土坑跡1基(時期不明)

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺部から250mほど離れた場所に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。今回の調査は個人住宅建築に伴う発掘調査であり、宅地部分を中心に調査区が設定された。当地区は試掘調査(第18次調査)がなされており、今回の



第110図 大房地遺跡の調査地点(数字は調査回数)



第111図 大房地遺跡第19次調査区

土層説明

AB 土層断面

- 1 茶褐色（黒色土混じる ローム小ブロック・焼土粒少量含む）
- 2 黒褐色（ローム粒少量含む）
- 3 茶褐色（ローム粒少量含む）
- 4 黄褐色（ローム粒含む）
- 5 黄褐色（ロームブロック・ローム粒含む）

CD 土層断面

- 1 暗褐色（ローム粒やや多量含む）
- 2 褐色（ローム粒多量含む）
- 3 明褐色（ローム粒多量含む）

EF 土層断面

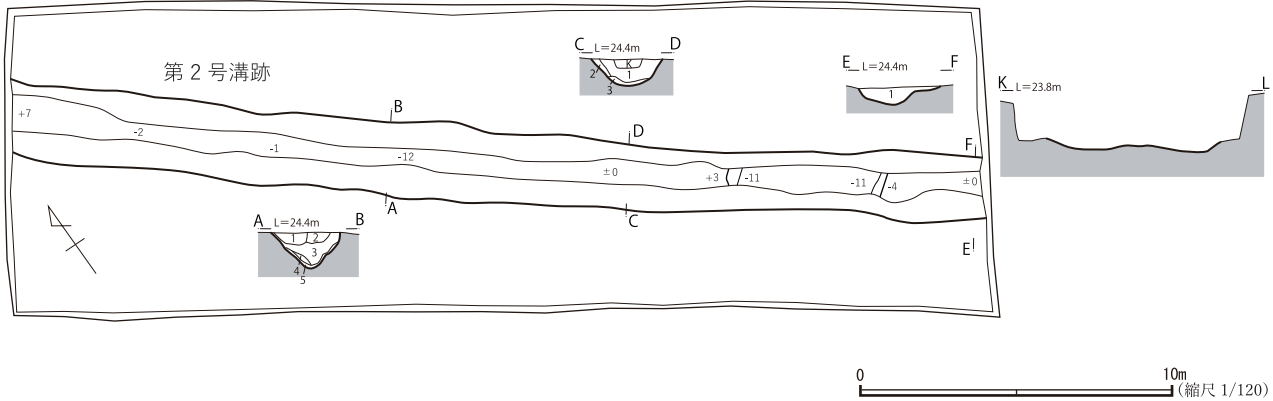
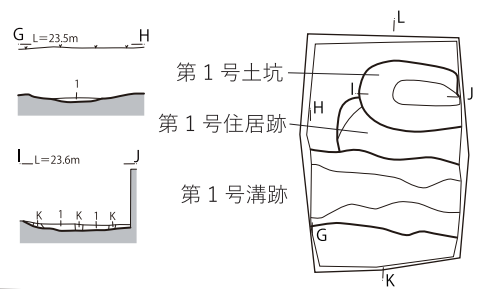
- 1 暗褐色（ローム粒含む）

GH 土層断面

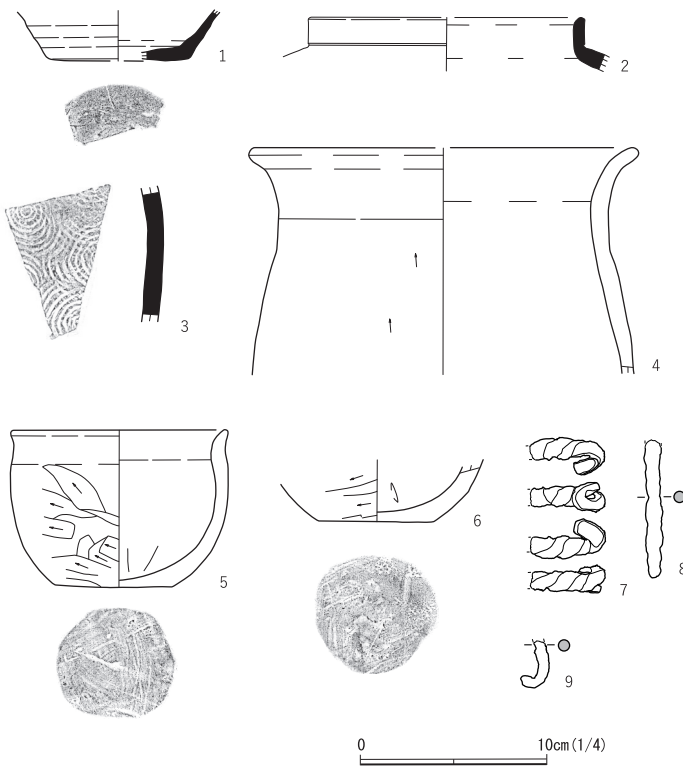
- 1 褐色（ローム粒多量含む）

IJ 土層断面

- 1 褐色（ローム粒含む）
- ローム小ブロック・炭化物粒少量含む



第112図 大房地遺跡第19次調査区遺構全体（第2号溝底の数字は±0からの比高（cm）を示す）



第113図 大房地遺跡第19次調査区溝跡出土遺物

調査でも試掘結果と同様の遺構配置が確認された。遺構番号は試掘調査と同じである。以下、簡単に調査の経過を記す。

12月2日：調査区設定。 12月3日：重機による表土除去。 12月7日：遺構確認，掘り込み開始。

12月9日：図面作成開始。 12月10日：調査終

了 12月13日：重機による埋め戻し。 12月14日：現場撤収。

(2) 住居跡

第1号住居跡

遺構 第1号住居跡は，第1号土坑と第1号溝跡によって壊されており，北東隅部のみの残存である。出土遺物はなかったが，平坦な床面の状況から住居跡と判断した。住居は浅く，住居隅部にわずかに残る壁の高さは4cm程であった。

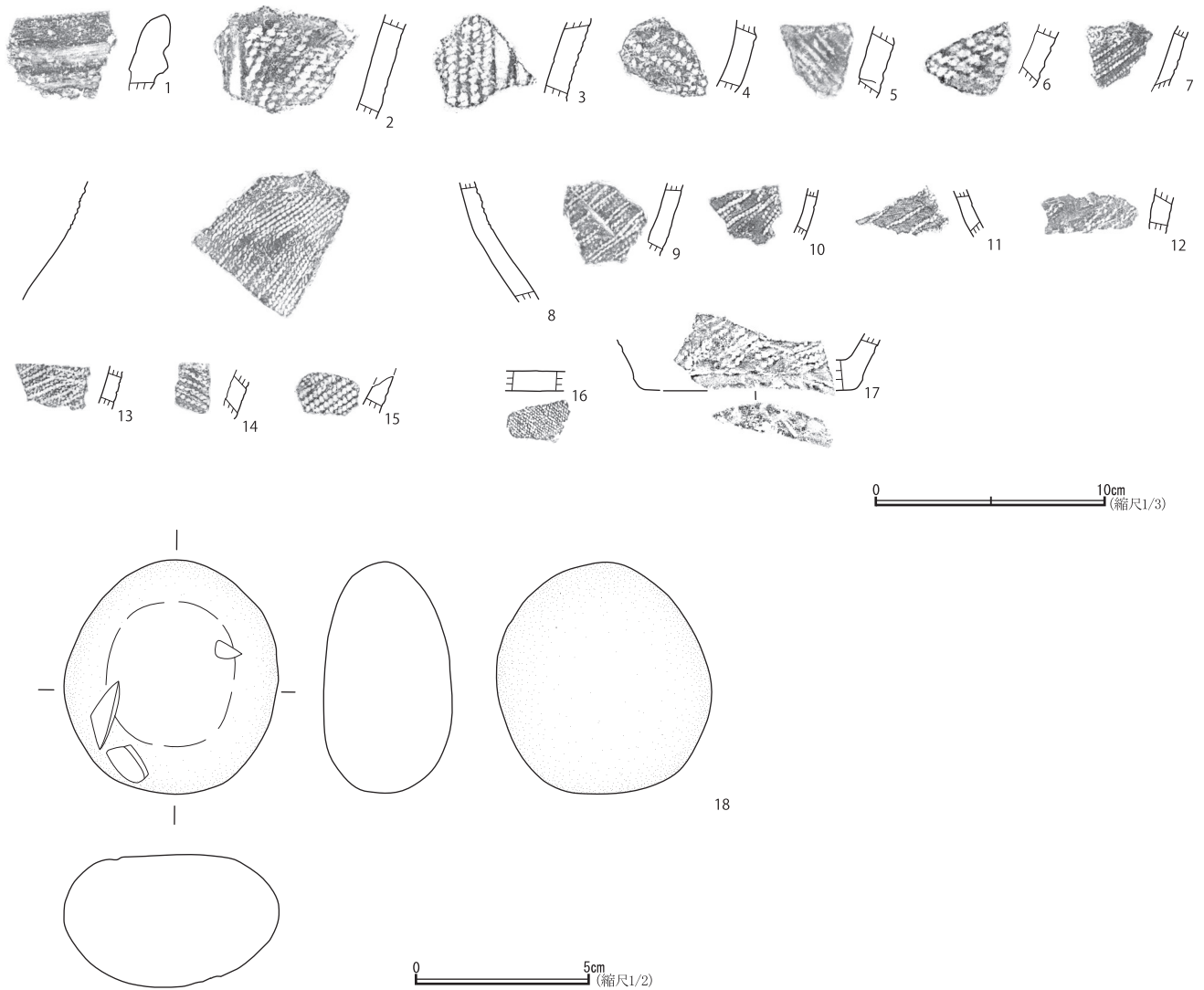
(3) 溝跡

第1号溝跡

第1号溝跡は幅1.2m，深さ0.2mを測る。出土遺物はなく時期は不明である。

第2号溝跡

第2号溝跡は幅0.9～1.2m，深さ0.3～0.5mを測る。底面の一部にやや深く掘り込まれた部分が認められた。なお底面の比高差をみると一方に深くなっていく様相はないので，水を流す用途に用いられたものではなく，区画溝ととらえてよいだろう。遺物は8世紀前半から9世紀前半頃の土器が出土していることから，第2号溝跡は古代の溝跡と考えられる。ねじりが認められる鉄製品(7)が鍵だとすると，区画溝内には倉庫の存在が予



第114図 大房地遺跡第19次調査区出土遺物

想される。当遺跡の南に隣接する金上埴遺跡では、第6次調査の際に7世紀末頃の大型井戸が見つかっており、時期的にみて第2号溝跡と関わる可能性が考えられる。

### 遺物説明

第113図

- 1 出土位置：2号溝 材質：須恵器 器種：杯 残存：底部20%、体部下半20% 法量：底径(7.4) 色調：灰色 胎土：礫(白, 灰), 骨針微 技法等：底部外面ナデ, ヘラ記号(ヘラ記号の部分で割れている)。  
備考：木葉下窯産か
- 2 出土位置：2号溝 材質：須恵器 器種：短頸壺 残存：口縁部8% 法量：口径(14.4) 色調：灰色 胎土：礫(白) 技法等：口唇部と外面肩部に降灰
- 3 出土位置：2号溝 材質：須恵器 器種：甕か 残存：胴部片 法量：— 色調：灰色 胎土：砂(白透多, 透多), 白雲母 技法等：外面同心円文叩き 備考：新治窯産
- 4 出土位置：2号溝 注記：— 材質：土師器 器種：甕 残存：口縁部15% 法量：口径(20.2) 色調：外面暗褐色・橙褐色。内面明褐色・橙褐色・黒色。胎土：礫(白透, 灰少) 技法等：口縁部ヨコナデ。胴部外面縦方向ヘラ削り。胴部内面縦方向ナデ。

- 5 出土位置：2号溝 注記：S1・P1 材質：土師器 器種：甕 残存：口縁部30%欠失 法量：口径11.4, 器高8.4, 底径6.3 色調：外面黒褐色・褐色, 内面黒色 胎土：砂(白褐・透) 技法等：口縁部ヨコナデ。外面底部・胴部ヘラ削り。底部内面横方向ヘラナデ。
- 6 出土位置：2号溝 材質：土師器 器種：甕 残存：底部 法量：底径6.2 色調：外面褐色・黒色, 内面黒色 胎土：砂(白・透) 技法等：外面ヘラ削り。底部外面の凹みに木葉痕残る。内面ヘラナデ後ナデ。
- 7 出土位置：2号溝 注記：— 材質：鉄製品 器種：鍵か 残存：柄端部 法量：残存長4.0, 重量10.8g
- 8 出土位置：2号溝 注記：— 材質：鉄製品 器種：不明 残存：— 法量：残存長7.4, 重量9.6g
- 9 出土位置：2号溝 注記：— 材質：鉄製品 器種：不明 残存：— 法量：重量2.3g

### (4) 土坑

不整楕円形を呈する浅い土坑である。長軸1.6m以上、幅1.1m、深さ0.1mを測る。第1号住居跡を掘り込む。出土遺物はなく時期不明である。

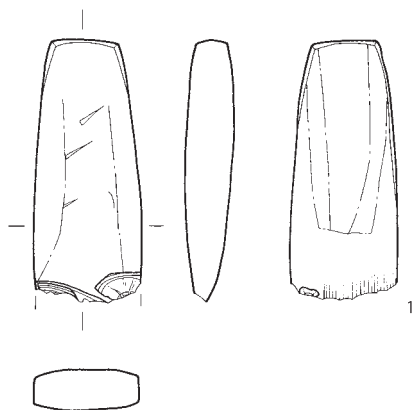
## (5) 調査区出土遺物

各遺構の時期と異なる可能性が高い遺物や、表土から出土した遺物である。

### 遺物説明

第114図

- 1 出土位置・注記：2溝 時代時期：縄文時代中期（加曾利E2式） 器種：壺形土器 文様：太い沈線文 備考：波状口縁カ、器内面磨き
- 2 出土位置・注記：表土 時代時期：縄文時代中期（加曾利E2式） 器種：深鉢型土器 文様：単節斜縄文(LR)、沈線文 備考：器内面磨き
- 3 出土位置・注記：1トレンチ 時代時期：縄文時代中期（加曾利E2式） 器種：深鉢型土器 文様：単節斜縄文(LR)カ、沈線文 備考：器内面磨き
- 4 出土位置・注記：2溝 時代時期：縄文時代中期 器種：不明 文様：単節斜縄文(RL)カ、沈線文 備考：器内面磨き
- 5 出土位置・注記：2溝 時代時期：縄文時代中期（加曾利E式） 器種：不明 文様：擦糸文 備考：器内面剥落
- 6 出土位置・注記：2溝 時代時期：縄文時代中期 器種：不明 文様：単節斜縄文(RL) 備考：器内面剥落
- 7 出土位置・注記：2溝 時代時期：弥生時代中期 器種：不明 文様：付加条縄文(LR+2R) 備考：器内面磨き
- 8 出土位置・注記：2溝 時代時期：弥生時代後期（東中根式カ） 器種：甕形土器カ 法量：最大径192mm（残存率10%） 文様：付加条縄文(LR+2R)
- 9 出土位置・注記：2溝 時代時期：弥生時代後期（東中根式カ） 器種：不明 文様：付加条縄文(LR+2R) 備考：器内面剥落
- 10 出土位置・注記：2溝 時代時期：弥生時代後期（東中根式カ） 器種：不明 文様：付加条縄文(LR+R、軸縄2本カ) 備考：胎土に海綿骨針微量に含む
- 11 出土位置・注記：2溝 時代時期：弥生時代後期 器種：不明 文様：付加条縄文(R-S)
- 12 出土位置・注記：2溝 時代時期：弥生時代後期 器種：不明 文様：付加条縄文(R-S)
- 13 出土位置・注記：2溝 時代時期：弥生時代後期 器種：不明 文様：付加条縄文(LR+2R)



- 14 出土位置・注記：2溝 時代時期：弥生時代後期カ 器種：不明 文様：付加条縄文(RL+2Lカ)
- 15 出土位置・注記：2溝 時代時期：弥生時代カ 器種：不明 文様：単節斜縄文(LR)
- 16 出土位置・注記：2溝 時代時期：弥生時代中・後期 器種：土器底部 文様：布目痕
- 17 出土位置・注記：2溝 時期：弥生時代カ 器種：不明 法量：底径92mm（残存率20%） 文様：付加条縄文(LR+Rカ)、底面木葉痕カ 備考：胎土に海綿骨針微量に含む
- 18 出土位置・注記：2溝 時代時期：不明 器種：擦石カ 石材：砂岩 法量：長6.7、幅6.2、高3.8、重量208.7g 備考：「〈アルコース質中粒砂岩〉塊状、淡褐色、砂粒の淘汰はやや悪く、円磨も悪い。砂粒（石英、長石、チャート、頁岩）、外形は自然礫（円礫）、摩滅したような平滑部を有す。」（矢野徳也氏による）

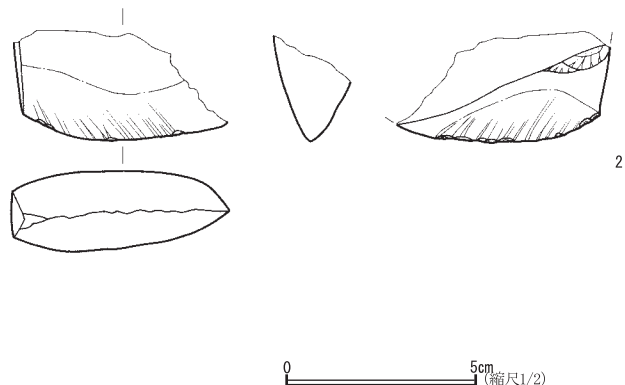
## (6) 大房地遺跡採集資料

ひたちなか市教育委員会照沼が令和3年10月12日に勝倉2648番地内にて採集した資料である。

### 遺物説明

第115図

- 1 出土位置・注記：大房地遺跡採集No.1 時代時期：弥生時代カ 器種：小型磨製石斧 石材：透緑閃石岩 法量：長6.8、幅2.9、厚1.35、重さ：65.1g 備考：主面に使用痕あり
- 2 出土位置・注記：大房地遺跡採集No.2 時代時期：縄文時代～弥生時代 器種：磨製石斧 石材：変閃緑岩ないし玢岩 法量：長2.9、幅5.7、厚2.0、重さ37.3g 備考：主面に使用痕あり。光沢がでるまでかなり磨かれている。「塊状。緑色～暗緑色。石英、透緑線石、緑泥石、緑簾石？、不透明鉄鉱物。片理は不明瞭だが、全体が再結晶、緑泥石濃集部は輝石仮晶か。源石は斑状～等粒状の細粒の深成岩と思われる。」（矢野徳也氏による）



第115図 大房地遺跡採集遺物

